

横浜国立大学大学院
環境情報学府

履 修 案 内

平成28年度

横浜国立大学大学院環境情報学府履修案内

目 次

I	平成28年度横浜国立大学大学院学年暦	2
II	横浜国立大学大学院環境情報学府の概要	4
III	授業科目の履修・成績等について	6
IV	環境情報学府の指導教員	10
V	履修基準及び授業科目	
1.	前期課程	
i.	授業科目と修了について	11
ii.	授業科目一覧(前期課程)	
(ア)	共通基礎科目	16
(イ)	講義科目	
A)	環境生命学専攻	17
B)	環境システム学専攻	18
C)	情報メディア環境学専攻	19
D)	環境イノベーションマネジメント専攻	20
E)	環境リスクマネジメント専攻	21
F)	各専攻共通(選択科目)	23
(ウ)	演習	
A)	環境生命学専攻	24
B)	環境システム学専攻	25
C)	情報メディア環境学専攻	26
D)	環境イノベーションマネジメント専攻	27
E)	環境リスクマネジメント専攻	28
(エ)	ワークショップ・実験	30
(オ)	プレレキジット科目	31
2.	後期課程	
i.	授業科目と修了について	32
ii.	授業科目一覧(後期課程)	
(ア)	講義科目	
A)	環境生命学専攻	36
B)	環境システム学専攻	36
C)	情報メディア環境学専攻	37
D)	環境イノベーションマネジメント専攻	38
E)	環境リスクマネジメント専攻	39
F)	各専攻共通	40
(イ)	演習	
A)	環境生命学専攻	40
B)	環境システム学専攻	41
C)	情報メディア環境学専攻	42
D)	環境イノベーションマネジメント専攻	43
E)	環境リスクマネジメント専攻	44
(ウ)	ワークショップ・フィールドワーク・実験	45
VI	社会人学生の履修等に関する特例について	47
VII	教務関係諸手続	48
VIII	教育職員免許状の取得について	50
IX	大学院学則・学位規則・学府規則	52
X	その他・様式	74
XI	教員連絡先一覧	80
XII	環境情報学府の学生相談関係教員	86





平成 2 8 年 度 学 年 暦

事 項	期 日 又 は 期 間	備 考
春 季 休 業 期 間	4 月 1 日 (金) ～ 4 月 5 日 (火)	
入 学 式	4 月 5 日 (火)	
春 学 期 開 講	4 月 6 日 (水)	※1
補 講 週 間	5 月 9 日 (月) ～ 5 月 1 3 日 (金)	※2
開 学 記 念 日	6 月 1 日 (水)	
清 陵 祭	6 月 4 日 (土) ～ 6 月 5 日 (日) (6 月 4 日 (土) は準備含む)	
補 講 週 間	6 月 1 3 日 (月) ～ 6 月 1 7 日 (金)	※2
補 講 週 間	7 月 4 日 (月) ～ 7 月 8 日 (金)	※2
春 学 期 末 試 験 期 間	7 月 2 7 日 (水) ～ 8 月 3 日 (水) (8 月 3 日 (水) は試験の予備日)	
夏 季 休 業 期 間	8 月 4 日 (木) ～ 9 月 3 0 日 (金)	
秋 季 卒 業 式 ・ 修 了 式	9 月 1 6 日 (金) 昼休み	
春 学 期 終 講	9 月 3 0 日 (金)	
秋 学 期 開 講	1 0 月 3 日 (月)	
秋 季 入 学 式	1 0 月 6 日 (木) 昼休み	(調整中)
授 業 振 替 日	1 0 月 1 1 日 (火) は月曜日の授業を行う	
常 盤 祭	1 0 月 2 8 日 (金) ～ 1 0 月 3 1 日 (月) (1 0 月 2 8 日 (金) は準備日)	
補 講 週 間	1 1 月 7 日 (月) ～ 1 1 月 1 1 日 (金)	※2
補 講 週 間	1 2 月 5 日 (月) ～ 1 2 月 9 日 (金)	※2
授 業 振 替 日	1 2 月 2 7 日 (火) は金曜日の授業を行う	
冬 季 休 業 期 間	1 2 月 2 8 日 (水) ～ 1 月 5 日 (木)	
大学入試センター試験休業日	1 月 1 3 日 (金) ～ 1 月 1 5 日 (日)	
補 講 週 間	1 月 2 3 日 (月) ～ 1 月 2 7 日 (金)	※2
英 語 統 一 テ ス ト 試 験 日	2 月 6 日 (月)	
秋 学 期 末 試 験 期 間	2 月 7 日 (火) ～ 2 月 1 4 日 (火) (2 月 1 4 日 (火) は試験の予備日)	
春 季 休 業 期 間	2 月 1 5 日 (水) ～ 3 月 3 1 日 (金)	
個別学力検査等試験日(前期日程)	2 月 2 5 日 (土) ～ 2 月 2 6 日 (日)	
個別学力検査等試験日(後期日程)	3 月 1 2 日 (日) ～ 3 月 1 3 日 (月)	
卒 業 式 ・ 修 了 式	3 月 2 4 日 (金)	(調整中)
秋 学 期 終 講	3 月 3 1 日 (金)	

※1 4月4日(月)までにオリエンテーション等を行い、4月6日(水)を春学期開講日とする。

※2 補講週間であっても通常授業は行う。補講は各日の第6限に実施するが、事情によりこの時間帯に実施し難い場合は、各部局の判断により別途日時を設定して補講を行なうものとする。

平成28(2016.4~2017.3)年度学年暦授業日数調
(春学期)

	日	月	火	水	木	金	土	摘要
4月						1	2	春学期 4/1(金)~9/30(金) 春季休業期間 4/1(金)~5(火) 新入生・各学年オリエンテーション等 入学式 4/5(火) 春学期開講 4/6(水)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
5月	1	2	3	4	5	6	7	開学記念日 6/1(水) 清陵祭 6/4(土)~5(日) <6/4(土)は準備含む>
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
6月				1	2	3	4	【凡例】  授業の振替日  試験期間  試験日の予備日  英語統一テスト
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
7月						1	2	春学期末試験期間 7/27(水)~8/3(水) <8/3(水)は試験予備日>
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
8月		1	2	3	4	5	6	夏季休業期間 8/4(木)~9/30(金)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
9月					1	2	3	秋季卒業式・修了式 9/16(金) 春学期終講 9/30(金)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
小計		16	16	16	16	16		調整前の日数
小計		16	16	16	16	16		振替日等含む、試験予備日を除く

※補講は補講日に実施することとするが、事情によりこの期間に実施し難い場合には、各部署の判断により別途日時を設定して補講を行うものとする。

(秋学期)

	日	月	火	水	木	金	土	摘要
10月							1	秋学期 10/1(土)~3/31(金) 秋学期開講 10/3(月) 秋季入学式 10/6(木) 昼休み 授業振替日 10/11(火) は月曜日授業 常盤祭 <10/28(金)は準備日>
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
11月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
12月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
1月	1	2	3	4	5	6	7	授業振替日 12/27(火) は金曜日授業 冬季休業期間 12/28(水)~1/5(木) 成人の日 1/9(月) 大学入試センター試験休業日 1/13(金)~15(日)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
2月				1	2	3	4	英語統一テスト試験日 2/6(月) 秋学期末試験期間 2/7(火)~14(火) <2/14(火)は試験予備日> 春季休業期間 2/15(水)~3/31(金) 個別学力検査等試験日(前期日程) 2/25(土)~26(日)
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28					
3月				1	2	3	4	個別学力検査等試験日(後期日程) 3/12(日)~13(月) 卒業式・修了式【仮】 3/24(金) 秋学期終講 3月31日(金)
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
小計		15	18	16	16	15		調整前の日数
小計		16	16	16	16	16		振替日等含む、英語統一テスト・試験予備日を除く
合計		32	32	32	32	32		

II. 横浜国立大学大学院環境情報学府の概要

21世紀において、世界全体が直面しており、その対応が求められている課題は、持続的に発展する安全で快適な社会、すなわち「持続的に発展する創造的社会」を実現することとされています。

この社会を実現するためには、自然破壊から自然環境の再生・創造へ、資源・エネルギーの有効かつ持続的な利用、食糧・生命・安全問題、社会基盤の充実、情報技術革新など、自然環境、生命環境、人工環境、情報環境、社会環境等にかかわる幅広い領域において解決すべき諸問題が残されています。

近年にみられる情報技術の急速な発展と利用の拡大によって、「情報」が社会において果たす意味は、決定的に重要なものとなっています。技術の体系だけではなく、人間の行動や意識、社会システム、文化や芸術、産業や政治・国際関係など、人間社会のあらゆる側面が、「情報」の様式変化のインパクトによって、根本的な変容を促されつつあります。この様に、人間社会は高度情報化を進化させており、その変動の中では情報科学と環境科学の果たすべき役割がより重要になっています。したがって、環境にかかわる諸問題を理解し、教育研究の深化、解決に向けた対応の推進が必要となり、これら環境にかかわるリスクをコントロールし、環境情報に関連するイノベーションを実現するためのマネジメント能力を身につけた実践的問題解決能力を有する人材、相互補完関係にある「環境」と「情報」を共に理解し、社会や環境との調和を考慮した情報メディア・情報システムを開発・対応できる人材が必要不可欠となっています。

こうした社会的課題に対応するために、平成13年度から大学院環境情報学府が設置されました。

本学府では、科学技術のリテラシー(教養)と現在直面している様々な地球環境問題の解決に貢献できる専門的知識と技術を有し、しかも先端的情報システムを高度に活用できる複眼的洞察力を持った研究者、高度専門実務家などの育成を目指して、以下に示される4つの理念の下に、大学院における教育研究を実施します。

- ① 21世紀において人類が克服すべき最大の課題である環境問題を多面的にとらえ、その高度専門的知識を修得する。
- ② 急速に革新と進化をとげている情報科学分野での高度な専門的知識と技法を修得する。
- ③ 社会のダイナミックな変化に対応したビジネス創生と政策の企画立案を担うに十分な技術マネジメント能力を修得する。
- ④ 専門的・実践的な観点から、実践的問題解決能力を修得する人材を育成する。

上記の社会的課題と教育理念の下で、環境と情報に係わる諸課題を体系化し、各固有の領域に対応して完結した体系的教育を展開するため、本学府では、以下の5つから構成される専攻によって、相互補完的に環境と情報にかかわる幅広い教育を実践します。

- ① 自然環境と生命現象に係わる領域の教育を行う「環境生命学専攻」
- ② 人工環境の創造に係わる領域の教育を行う「環境システム学専攻」
- ③ 情報メディア環境に関する教育を行う「情報メディア環境学専攻」
- ④ 重層的な環境に関するイノベーションとマネジメントについて教育を行う「環境イノベーションマネジメント専攻」
- ⑤ 自然環境、都市・生活環境、産業環境におけるリスクマネジメントについて教育を行う「環境リスクマネジメント専攻」

人間社会を支える基盤として、また先端的なイノベーションの推進役として「情報」領域を位置づけ、環境から情報を取り込み、新しい情報環境を構築するための情報メディアに関する理解とその技術の習得を目指した教育研究を実践します。そこで、前期課程では、環境と情報の融合的理解ができる基礎能力を習得するために、科学技術のリテラシー(教養)教育として共通基礎科目(8科目・9単位)を設け、博士課程前期における全専攻の選択必修科目として位置づけています。

環境情報学府(博士課程)は、前後期区分制大学院であります。博士課程前期の修了者には修士(環境、工学、情報、技術経営または学術)、博士課程後期の修了者には博士(環境、工学、情報、技術経営または学術)の学位が授与されます。

なお、前期課程においては、各専攻(環境イノベーションマネジメント専攻を除く)にそれぞれ2履修コースを設けることにより、専門領域における深い学術・知識の修得を可能とする教育システムを構築しています。一専攻分

野内での研究に特化する履修方法のほか、他専攻のコースを併せて履修することにより複数の専攻での研究を可能とする道を開いています。こうした方法は、高度専門的な知識を有するとともに、実践的な問題解決能力を有し、複眼的洞察能力を有する人材を育成する上で不可欠なものです。学位論文の作成指導は所属する専攻の責任指導教員を中心として、前期課程においては指導教員グループ、また、後期課程においては各院生に対して指導委員会が設置され、複数指導制に基づく周到で幅の広い指導がなされ、研究者・高度専門実務家として自律するに相応しい学識と研究能力を学び取ることが出来ます。

本学府では、解決が求められている環境問題領域と先端的な情報科学領域との融合的学際的分野での実践的な教育・研究を推進することを目的としており、融合性・学際性・先端性が特に高い領域であるとともに、社会的ニーズが時間的変化とともに大きく変わることが予想される流動的な分野を対象とする点に特徴があります。このため、社会的ニーズ・研究教育分野の変化に適切に対応したフレキシブルな研究と教育の実施が必要であり、学校教育法改正による教育研究上の基本組織の新しい形態としての研究院・学府方式を採用しています。すなわち、教員の所属する研究組織が「環境情報研究院」であり、学生・院生の所属する教育組織が「環境情報学府」です。環境情報学府における講義・演習・指導は、環境情報研究院の教員が担当します。

III. 授業科目の履修・成績等について

1. 履修登録関係

i. 履修登録について

- ・ 授業科目を履修するためには、履修登録をする必要があります。履修登録とは、定められた基準に従って、シラバスおよび時間割を基に、修得すべき科目を登録する手続きのことです。学務情報システムにログインし、時間割コードを入力し、授業科目等を設定することで履修登録ができます。学務情報システムの操作方法は別途配布する「学務情報システム操作方法(大学院学生対象)」を参照してください。なお、下記の期間以外での受付は一切行いませんのでご注意ください。

※ 一部クォーター制で開講する科目があります。時間割を組む際には時間の重複等の無いよう十分に注意してください。なお、クォーター制の履修手続きの期間も下記 ii .iii.のみです。

※ クォーター制とは、従来の2学期制の各学期を前半・後半に分割し、より柔軟な履修を可能とする学年暦の形態です。クォーター制採用科目は原則として一週間に2コマの形で開講されます。

クォーター制科目春学期後半の開始日：	月曜日	6月 6日
	火曜日	6月 14日
	水曜日	6月 8日
	木曜日	6月 9日
	金曜日	6月 10日
クォーター制科目秋学期後半の開始日：	月曜日	12月 5日
	火曜日	12月 6日
	水曜日	12月 7日
	木曜日	12月 8日
	金曜日	12月 9日

ii. 履修登録期間

- ・ 春学期履修登録期間： 4月18日(月)～ 4月22日(金)
秋学期履修登録期間：10月13日(木)～10月19日(水)(土日を除く)
- ※ 春学期履修登録期間中に秋学期の授業科目を履修登録することもできます。

iii. 履修登録確認・訂正期間

- ・ 春学期： 5月 6日(金)～ 5月10日(火)
秋学期：10月24日(月)～10月26日(水)
- ※ 履修登録期間中に学務情報システムにて各自の履修計画どおりに履修登録されているか確認をしてください。履修確認の結果、履修計画どおりに登録できなかった、或いはエラー科目がある場合等は、履修登録期間または履修登録確認・訂正期間内に学務情報システムで追加・削除を行ってください。

iv. 履修登録キャンセル期間

- ・ 春学期半期・春学期前半： 5月16日(月)～ 5月20日(金)
春学期後半の科目のみ： 7月 4日(月)～ 7月 8日(金)
秋学期半期・秋学期前半：11月 7日(月)～11月11日(金)
秋学期後半の科目のみ： 1月10日(火)～ 1月16日(月)
集中講義に関しては開講初日の前日まで受付ます。
- ※ 履修登録キャンセルの手続きは学務情報システムからは行うことができません。大学院環境情報学府係窓口にてキャンセル申請書を受け取り、必要事項を記入し、指導教員のサインをもらった上で提出してください。
- ※ 授業開始後、履修登録キャンセル期間内にキャンセルの手続きを行った科目については、履修科目から削除することができます。履修登録キャンセルをせずに履修を途中で“放棄”した場合、その科目の評

価は「不可」となります。なお、キャンセル期間にはキャンセルしか行うことができません。

v. 履修上の一般的注意

- 履修登録していない授業科目を受講することはできません。また、試験を受けてもその成績(単位)は認定されません。
- 同一時限に複数の授業科目を履修登録すること(重複登録)はできません。
- すでに単位を修得した授業科目の再履修はできません。(演習は習得済みでも再登録することができます。)

vi. 入学前の既修得単位の認定について

- 本学大学院学則第13条に基づき、入学前に大学院において修得した単位の認定を希望する学生は、入学後直近の履修登録期間最終日までに環境情報学府係に申し出てください。

2. 成績関係

i. 学業成績について

(ア) 学業成績は、試験の成績、レポート、出席状況などを考慮して決定されます。ただし、原則として出席日数が全講義日数の1/2に満たない学生は、単位認定の資格を失います。

(イ) 追試験及び再試験は、原則として行いません。

(ウ) 試験の結果:

成績表記	点 数	単位
秀	100点 ~ 90点	単位を与える
優	89点 ~ 80点	
良	79点 ~ 70点	
可	69点 ~ 60点	
不可	59点 ~ 0点	単位を与えない

(エ) 春学期終講科目の成績確認は10月上旬に、秋学期終講科目の成績は翌年4月上旬に学務情報システムにて各自で行ってください。なお、日程等の詳細については掲示により別途通知いたします。

ii. GPA (Grade Point Average) 制度について (平成21年度入学者から適用)

(ア) GPA (Grade Point Average) 制度とは: 成績評価方法の名称で、算出方法は(イ)で示します。本学では平成15年度の学部入学生から「大学教育の質的向上」と「国際的水準に見合った成績評価」を目的にGPA制度が導入されています。

(イ) GPAの算出方法: 個々の科目について成績評価に応じてGP (Grade Point) を与え、以下の式によってGPA値を算出します。GPA算出対象科目は各専攻ごとの科目一覧表に示す科目です。

算出式: $GPA = \Sigma (GP \times \text{単位数}) \div \text{履修登録単位数}$

成績評価(評価点)とGPは次のとおりとします。

段階	Grade Point	評価点
秀	4.5	100点 ~ 90点
優	4.0	89点 ~ 80点
良	3.0	79点 ~ 70点
可	2.0	69点 ~ 60点
不可	0.0	59点 ~ 0点

(ウ) 修了要件とGPA: GPA値2.0以上を修了要件とします。

(エ) GPA算出対象科目

- ・ 環境生命学専攻:全科目
- ・ 環境システム学専攻:共通基礎科目、講義科目、演習科目
- ・ 情報メディア環境学専攻:共通基礎科目、講義科目
- ・ 環境イノベーションマネジメント専攻:共通基礎科目、講義科目、ワークショップ
- ・ 環境リスクマネジメント専攻:共通基礎科目、講義科目、演習科目

3. 試験週間要領

(ア) 試験週間は学年暦のとおりとします。

(イ) 試験週間内における試験の実施は、原則として授業時間割表に定められた曜日、時限に当該授業科目の試験を行います。

(ウ) 試験期間中は、試験実施以外の授業科目は休講とします。

(エ) 受験の際は、次の事項に注意してください。

- ・ 受験の際は学生証を机上に提示してください。
- ・ 受験中の不正行為は、大学院学則第24条により懲戒処分とします。

4. 短縮修了について

- ・ 修了要件を満たす見込みの学生で、優れた研究業績を上げた学生は、標準修了年限に満たなくても、学位論文審査を申請することができます。
- ・ 短縮修了を希望する者は、論文審査提出期間までに「短縮修了申請書」を提出してください。なお、短縮修了を希望する学生で、責任指導教員以外の開講する演習の履修を必要とする学生は、履修登録期間前に「責任指導教員以外の演習科目履修申請書」を提出し、専攻の許可を得なければなりません。

5. 副専攻プログラムについて

- ・ 副専攻プログラムは学生が自らの所属する専攻(課程・学科)にとらわれずに授業科目を履修し、特定の課題・分野を系統的に学習する機会を設けたプログラムです。プログラムの必要科目を修得したものは認定証(修了証)が発行され、成績証明書にも記載されます。なお、各プログラムの受講要件はそれぞれ異なります。詳細は実施責任組織へ各自確認してください。

プログラム名	実施責任組織
・ YNU 地域交流科目人材育成教育プログラム	(地域実践教育センター)
・ 統合的海洋管理学プログラム	(統合的海洋教育・研究センター)
・ 安心安全マネジメント	(安心・安全の科学研究教育センター)
・ 起業家人材養成教育プログラム	(成長戦略研究センター・ベンチャービジネス部門)
・ ビジネス・プラクティス・プログラム	(経営学部キャリア教育委員会)
・ 実践企業成長教育プログラム	(成長戦略研究センター)
・ 地域創造科目	(地域実践教育研究センター)
・ 中核的理科教員養成プログラム	(教育人間科学部附属高度理科教員養成センター)
・ グローバル PLUS ONE	(学務・国際部教務課)

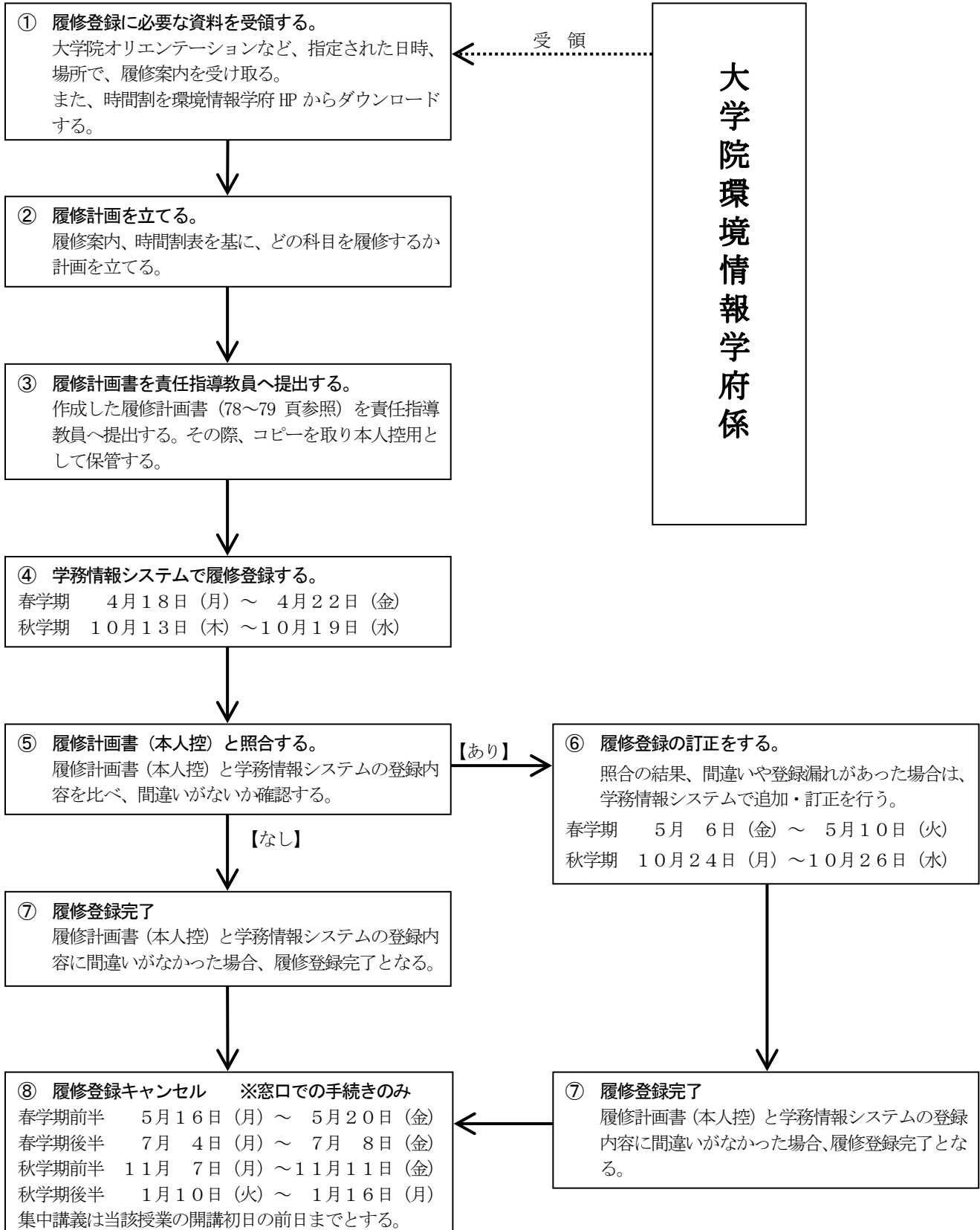
6. 英語スキルアップ研修プログラムについて

- ・ 環境情報学府の学生に対し、外部の英語専門機関による「英語スキルアップ研修プログラム」を実施します。詳細は別途掲示等でお知らせしますので各自確認してください。

履修登録手続き流れ図

【重要】流れ図は便宜上大幅に簡略化しております。手続きを行う際は、6ページおよび別途配布する「学務情報システム操作方法」を熟読の上で行ってください。

スタート



IV 環境情報学府の指導教員 (平成28年4月現在)

前期課程の授業及び研究指導を行うための指導教員グループ(責任指導教員1人及び指導教員1人)、及び後期課程の授業又は研究指導を行うための指導委員会(責任指導教員1人及び指導教員2人)は、原則として各専攻あるいはコースにおいて以下の教員の中から学生の希望を考慮して決定されます。連携分野の教員を指導教員とする場合には、指導教員グループあるいは指導委員会に関連コースの教員を加えることにより、教務・教育面での円滑な指導ができるよう配慮されます。

1. 環境生命学専攻

コース/分野	教授	准教授	講師	助教
地球環境コース	石川 正弘 間嶋 隆一 菊池 知彦	酒井 暁子 森 章 佐々木 雄大 山本 伸次 下出 信次 和仁 良二 中森 泰三		
生命環境コース	雨宮 隆 平塚 和之 大谷 裕之 松本 真哉	尾形 信一 本田 清 中村 達夫		
生命適応システム学分野 (連携分野)	小平 秀一	塗谷 睦生		

2. 環境システム学専攻

コース/分野	教授	准教授	講師	助教
マテリアルシステムコース	跡部 真人 鈴木 淳史 多々見 純一	荒牧 賢治 田中 良巳 伊藤 暁彦	飯島 志行	
システムデザインコース	上野 誠也 森下 信 中野 健 山田 貴博	白石 俊彦 松井 和己 樋口 丈浩 村井 基彦		

3. 情報メディア環境学専攻

コース/分野	教授	准教授	講師	助教
情報メディア学コース	岡嶋 克典 長尾 智晴 後藤 敏行 松本 勉 四方 順司 森 辰則 田村 直良	富井 尚志 マーティン ロジャー 藤井 友比呂 吉岡 克成	白川 真一	
医用情報学分野 (連携分野)				
環境数理解析学コース	有光 直子 額田 順二 大石 彰 根上 生也 中本 敦浩 野間 淳 西村 尚史 平野 載倫	白崎 実 原下 秀士	牛越 恵理佳	

4. 環境イノベーションマネジメント専攻

コース/分野	教授	准教授	講師	助教
—	安藤 孝敏 本藤 祐樹 志田 基与師 宮崎 隆 周佐 喜和 安本 雅典 竹田 陽子	遠藤 聡 長谷部 英一 鳴海 大典		
環境社会工学分野 (連携分野)	萩原 一平	工藤 祐揮 吉村 哲哉		

5. 環境リスクマネジメント専攻

コース/分野	教授	准教授	講師	助教
生命環境マネジメント コース	及川 敬貴 中井 里史 大矢 勝 藤江 幸一 金子 信博 益永 茂樹 小池 文人 松田 裕之	亀屋 隆志		
実践環境安全学分野 (連携分野)	倉持 秀敏	竹田 宜人		
セイフティマネジメント コース	大谷 英雄 三宅 淳巳 野口 和彦	岡 泰資 小林 剛 笠井 尚哉 澁谷 忠弘 熊崎 美枝子 松宮 正彦		
実践環境安全学分野 (連携分野)		畑山 健		

V. 履修基準及び授業科目

1. 前期課程

i. 授業科目と修了について

(ア) 授業科目とプレレキジット

本学府の授業科目は、講義科目(専門科目、共通基礎科目、選択科目)、演習、ワークショップ・実験によって構成されています。また、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けています。

A) 講義科目

各教員による講義の科目です。春学期又は秋学期に1単位又は2単位の科目として行われます。

B) 演習

各教員による演習の科目です。春学期又は秋学期2単位、**複数年・複数学期に渡って重複履修が可能**です(一部の演習を除く)。責任指導教員の開講科目を履修することが原則ですが、短縮修了等の場合には、責任指導教員以外が開講する科目を履修することができます。その際は、履修登録期間内に「責任指導教員以外の演習科目履修申請書」を大学院環境情報学府係に提出し、専攻の許可を得る必要があります。

C) ワークショップ・実験

専攻・コースをまたがる複数教員、学外専門家等の参加による多様な形態で行われる科目です。コース内の複数教員の参加による輪講・実験の科目です。

D) プレレキジット

学生は指導教員グループが必要と判断した場合は、本学府が準備したプレレキジット科目、あるいは、本学教育人間科学部、経済学部、経営学部、理工学部が開講する授業科目(教養教育科目および教職科目は除く)を履修する必要があります。履修すべき授業科目は、個々の学生ごとに指導教員グループが指示します。指示を受けた学生はその単位を修得しなければ学位論文作成資格を得ることができません。本科目は修了要件の単位には算入されません。

(イ) 指導教員グループ

責任指導教員と指導教員の同一専攻内の2人による指導教員グループにより、研究指導を行います。指導教員グループは、学生の資質を考慮し、専攻必修科目の授業科目選択に対して学生に必要な助言や指導を行います。

(ウ) 主・副専攻制度

本学府は、単一専攻制度に加えて、主・副専攻制度を導入しています。主・副専攻制度とは、学府内の専攻にまたがる学際的領域を研究する目的で、両専攻にまたがる分野の研究を行い、両専攻の授業科目を履修した学生に対して、この旨を学位記に記載して認めることを主旨とします。

主・副専攻制度を希望する場合には、指導教員を責任指導教員とは異なる専攻から選任します。主専攻の責任指導教員と副専攻の指導教員との指導教員グループにより研究指導を行い、学位審査委員会が両専攻にまたがる分野の研究を行ったと認め、論文審査に合格となった場合に、主・副専攻が学位記に記載されます。

なお、主・副専攻制度に基づく履修方法を希望する者は、主専攻の責任指導教員に主・副専攻取得希望を伝えた上で、履修登録を行う前に、主専攻および副専攻の学務委員に履修内容および履修方法について相談するようにしてください。

(エ) 修了関係

A) 修了要件及び学位論文執筆要件

- ・ 環境情報学府では、修了に必要な単位を取得し、修士論文審査及び最終試験に合格することで

修了となります。修了に必要な所定の単位は、次の表の通りです。学生は1年次の終了時点で必要単位を取得し、修士論文執筆資格審査を受ける必要があります。また、修士論文の作成に関して専攻ごとの規則がありますので、詳細は指導教員または学務委員に確認をしてください。なお、プレレジット科目の履修を義務付けられた学生はその単位を1年次の終了時点までに取得する必要があります。

- 上記に加え、**GPAが2.0以上**であることを修了要件とします。(GPAについては7頁の「GPA制度について」以下を参照してください。)

【1】環境生命学専攻、環境システム学専攻、情報メディア環境学専攻

[単一専攻制度選択時の修了要件等]

授業科目		修了に必要な単位数	論文執筆資格審査に必要な単位数	修了に必要なGPAの基準
講義	共通基礎科目	4単位以上	12単位以上	2.0
	専門科目	8単位以上		
	選択科目	8単位以上		
演習		8単位以上	4単位以上	
ワークショップ・実験		2単位以上		
合計		30単位以上	16単位以上	

[主・副専攻制度選択時の修了要件等]

授業科目		修了に必要な単位数	論文執筆資格審査に必要な単位数	修了に必要なGPAの基準
講義	共通基礎科目	4単位以上	14単位以上	2.0
	専門科目	8単位以上		
	副専攻専門科目	6単位以上		
	選択科目	4単位以上		
演習		8単位以上	4単位以上	
ワークショップ・実験		2単位以上		
合計		32単位以上	18単位以上	

- ① 専門科目は所属する専攻(自専攻)が開講している講義科目(前期課程)にあたります。専門科目を8単位を越えて取得した場合、選択科目へ振り替えることができます。
- ② 選択科目は環境情報学府(自専攻及び他専攻)が開講している講義科目(前期課程)にあたります。
- ③ 指導教員が認める場合には、10単位を限度として**講義科目に限り**、本学大学院他研究科及び他学府(教育学研究科、国際社会科学府博士課程前期、工学府、都市イノベーション学府)開設科目、単位互換を申し合わせている他大学院研究科開設科目の単位を修了に必要な単位として認定できます。上記を希望する者は、あらかじめ責任指導教員と相談し、授業担当教員の方了承を得てください。なお、取得した単位は選択科目に充当するものとし、8単位を超えた場合に限り、2単位を限度に専門科目に充当することを認めます。
- ④ 副専攻として環境イノベーションマネジメント専攻を選んだ場合、環境イノベーションマネジメント専攻所属の教員(連携、非常勤を含む)が開講する講義科目から副専攻専門科目を取得してください

い。

- ⑤ 副専攻として環境リスクマネジメント専攻を選んだ場合、環境リスクマネジメント専攻所属の教員(連携、非常勤を含む)が開講する講義科目から副専攻専門科目を取得してください。
- ⑥ 専攻をまたがる複数の教員による講義は、担当教員が属するいずれの専攻の開講科目としても認定できます。

【2】環境イノベーションマネジメント専攻及び環境リスクマネジメント専攻

[単一専攻制度選択時の修了要件等]

授 業 科 目		修了に必要な単位数	論文執筆資格審査に必要な単位数	修了に必要なGPAの基準
講 義	① 共通基礎科目	4 単位以上	1 2 単位以上	2. 0
	② コア講義科目	4 単位以上		
	③ 専門講義科目	6 単位以上		
	選択専門講義科目	①②③を含んで 2 0 単位以上		
演 習		8 単位以上	4 単位以上	
ワークショップ・実験		2 単位以上		
合 計		3 0 単位以上	1 6 単位以上	

[主・副専攻制度選択時の修了要件等]

授 業 科 目		修了に必要な単位数	論文執筆資格審査に必要な単位数	修了に必要なGPAの基準
講 義	① 共通基礎科目	4 単位以上	1 4 単位以上	2. 0
	② コア講義科目	4 単位以上		
	③ 専門講義科目	6 単位以上		
	④ 副専攻専門科目	6 単位以上		
	選択専門講義科目	①～④を含んで 2 2 単位以上		
演 習		8 単位以上	4 単位以上	
ワークショップ・実験		2 単位以上		
合 計		3 2 単位以上	1 8 単位以上	

- ① 専門講義科目は、環境イノベーションマネジメント専攻では「専攻専門講義科目」、環境リスクマネジメント専攻では所属するコースの「コース専門講義科目」に該当します。
- ② 選択専門講義科目は、環境イノベーションマネジメント専攻では「専攻選択専門講義科目」、環境リスクマネジメント専攻では所属するコースの「コース選択専門講義科目」に該当します。
- ③ 指導教員が認める場合には講義科目に限り、他コース、他専攻、本学大学院他研究科及び他学府(教育学研究科、国際社会科学府博士課程前期、工学府、都市イノベーション学府)開設科目、単位互換を申し合わせている他大学院研究科開設科目の単位を修了に必要な単位として認定できます。上記を希望する者は、あらかじめ責任指導教員と相談し、授業担当教員の了承を得てください。なお、取得した単位は選択専門講義科目に充当するものとします。

- ④ 環境イノベーションマネジメント専攻所属の学生が、副専攻として環境リスクマネジメント専攻を選んだ場合、副専攻専門科目は環境リスクマネジメント専攻所属の教員（連携、非常勤を含む）が開講する講義科目から取得してください。
- ⑤ 環境リスクマネジメント専攻所属の学生が、副専攻として環境イノベーションマネジメント専攻を選んだ場合、副専攻専門科目は環境イノベーションマネジメント専攻所属の教員（連携、非常勤を含む）が開講する講義科目から取得してください。
- ⑥ 主・副専攻制度を選択する場合、所属する専攻において他専攻（副指導教員が所属する専攻）の教員が開講する専攻選択専門講義科目、またはコース選択専門講義科目を、副専攻専門科目として認定することができます。
- ⑦ 専攻をまたがる複数の教員による講義は、担当教員が属するいずれの専攻の開講科目としても認定できます。

B) 論文審査スケジュール

- ・ 学位論文審査手続きとスケジュールは以下のとおり。

【博士課程前期】

項目	手続き時期* 多少前後する可能性あり		内容
	9月修了	3月修了	
論文審査申請	4月	10月	大学院環境情報学府係窓口へ必要書類を提出
論文提出期間	7月 ↓	1月 ↓	大学院環境情報学府係窓口へ論文ほか必要書類を提出
審査期間	8月	2月	(審査の詳細は担当教員へ確認のこと)
学府教授会による修了認定	9月	3月	—
修了式	9月	3月	学位記授与

- ① 学位論文審査に関する手続き方法、正式な日程、提出書類等の詳細はHP「環境情報学府書式集」にて確認してください。
「環境情報学府書式集」<http://www.kankyo-jimu.ynu.ac.jp/gakugai/kankyo/shosiki.html>
- ② 上記に加え、所属する専攻内での審査手続き（予備審査など）、スケジュールは各自で指導教員へ確認してください。

C) 学位論文評価基準

- ・ 環境生命学専攻
 - ① 研究の背景が十分に理解され、目的が明確に示されていること。
 - ② 目的を達成するための、合理的な研究(実験)計画が示されていること。
 - ③ 適切な実験や調査によって得られた結果が、客観的かつ体系的にまとめられていること。
 - ④ 得られた結果を総合的に評価し考察していること。
 - ⑤ 適切な表現構成により論文の主旨が論理的に述べられていること。
- ・ 環境システム学専攻
 - ① 研究の背景および専門知識を理解していること。
 - ② 研究を進める上での実験や調査方法が妥当であること。
 - ③ 新規性、独創性のある成果が得られていること。
 - ④ 表現方法と論理構成が適切であること。
- ・ 情報メディア環境学専攻
 - ① 独創的な研究であり、論文テーマが適切である。
 - ② 得られた成果の学術的あるいは実用的貢献度が高いこと。

- ③ 得られた成果に信頼性があること。
- ④ 論文の主旨が論理的に展開され、構成および表現技法が適切であること。

- ・環境イノベーションマネジメント専攻

- ① 研究テーマ設定の適切性と、研究テーマに関連した専門知識の理解度。
- ② 学術研究としての研究方法の妥当性。
- ③ 研究成果の論理性、および実際の現象に対する説明力。
- ④ 論文の構成や表現技法などの適切性。
- ⑤ 独創性。

- ・環境リスクマネジメント専攻

- ① 研究課題の適切性と独創性。
- ② 研究方法・結果・考察の論理性と信頼性。
- ③ 研究成果の学術的または実用的貢献度。

D) 取得可能な学位

- ・ 本学府博士課程前期で取得可能な学位は以下のとおりです。学生は希望する取得学位を学位審査委員会の判断に基づいて授与されます。

専攻	取得できる学位
環境生命学専攻	修士（環境学）、修士（工学）、修士（学術）
環境システム学専攻	修士（環境学）、修士（工学）、修士（学術）
情報メディア環境学専攻	修士（情報学）、修士（工学）、修士（学術）
環境イノベーションマネジメント専攻	修士（環境学）、修士（技術経営）、修士（学術）
環境リスクマネジメント専攻	修士（環境学）、修士（工学）、修士（学術）

ii. 授業科目一覧（前期課程）

※ 一部クォーター制で開講する科目があります。詳細は時間割で確認してください。
（クォーター制で開講する科目は、備考欄にクォーターと記載）

（ア）共通基礎科目

（平成26年度以前入学者対象）

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
EM00101	モデリングとシミュレーション	2	田村 直良			注1
EM00102	技術マネジメント論	2	周佐 喜和			注2

注1) 平成26年度以前入学の未修得者に限り EM00105 情報学の手法、EM00106 数理科学の手法の単位を修得することで当科目を修得したものと読み替えます。

注2) 平成26年度以前入学の未修得者に限り EM00108 イノベーションとプランニング I の単位を修得することで当科目を修得したものと読み替えます。

（平成27年度以降入学者対象）

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
EM00103	物質・生命と環境	1	雨宮 隆		○	クォーター
EM00104	自然環境と生態リスク	1	山本 伸次		○	クォーター
EM00105	情報学の手法	1	田村 直良		○	クォーター
EM00106	数理科学の手法	1	根上 生也	○		クォーター
EM00107	高度専門職能とキャリア開発	1	志田 基与師	通年		
EM00108	イノベーションとプランニング I	2	周佐 喜和 白石 俊彦	○		クォーター
EM00109	安全・安心のための政策科学	1	笠井 尚哉		○	クォーター
EM00110	リスクの評価と管理技術	1	小林 剛	○		クォーター

注) 平成26年度以前入学者が EM00103～EM00110 を修得した場合、修了要件には含まれない増加単位と扱います。（上記注1、注2対象者を除く）

(イ) 講義科目(★は夜間開講科目。●は夜間開講可能科目。)

A) 環境生命学専攻

① 地球環境コース

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
EM11104	環境保全論	2	酒井 暁子	○		
EM11105	生物多様性科学	2	中森 泰三	○		
EM11111	立地群落学	2				
EM11119	海洋生物多様性学	2	菊池 知彦	○		
EM11120	海洋古環境学	2	間嶋 隆一	○		
EM11131	群集生態学	2	村上 正志		○	偶数年開講
EM11133	古生態学	2	和仁 良二	○		クォーター
EM11134	海域地球物理学	2	小平 秀一	○		
EM11135	海洋生物環境学	2	下出 信次		○	
EM11136	海洋地球生命科学特別実習	2	JAMSTEC 教員	○		
EM11137	陸域生態系管理学	2	森 章	○		注1
EM11138	地圏テクトニクス	2	石川 正弘	○		注2
EM11139	地球システム物質循環論	2	山本 伸次		○	新設
EM11140	生態系評価学	2	佐々木 雄大		○	新設
EM68150	生態学研究技法道場	2	森 章 金子 信博 小池 文人 松田 裕之 酒井 暁子 中森 泰三	○		注3
	地球環境特設講義	2				

注1) EM11101「植生環境管理学」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注2) EM11109「地圏環境科学」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注3) 平成24年度以降入学生のみ履修可能です。EM68146「グローバル COE 特設講義(生態学研究技法道場)」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません

② 生命環境コース

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
EM12103	植物遺伝子工学	2	平塚 和之		○	クォーター
EM12106	植物環境応答論	2	中村 達夫		○	
EM12108	生命システム化学	2	本田 清		○	
EM12116	生命高次適応科学	2	塗谷 睦生	○		
EM12120	生命と超分子化学	2	大谷 裕之	○		
EM12125	生命環境特設講義 (植物をめぐるリスクマネジメント)	2	平塚 和之 小池 文人		○	
EM12129	材料化学のための結晶学	2	松本 真哉	○		
EM12130	植物遺伝子機能学	2	尾形 信一		○	
EM12131	質量分析学	2				
EM12132	細胞生物学	2	坪井 貴司	○		
EM12133	物質・生命と複雑系	2	雨宮 隆	○		
EM12134	地球環境問題の科学	2				
	生命環境特設講義	2				

B) 環境システム学専攻

① マテリアルシステムコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM23102	環境材料学	2	伊藤 暁彦		○	クォーター
EM23103	機能性溶液学	2	荒牧 賢治		○	クォーター
EM23105	自律環境応答材料	2	鈴木 淳史	○		クォーター
EM23109	構造材料科学	2	多々見 純一		○	クォーター
EM23111	循環適合材料学	2				
EM23112	環境材料解析論	2				
EM23113	有機電子移動化学特論	2	跡部 真人	○		クォーター
EM23114	材料物理学	2	田中 良巳	○		クォーター
EM23115	機能性材料科学	2	飯島 志行		○	クォーター
	マテリアルシステム特設講義	2				

② システムデザインコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM24101	調和システム学	2	森下 信	○		偶数年開講 クォーター
EM24103	空間利用工学	2	樋口 丈浩	○		クォーター
EM24105	極限環境システム論	2	上野 誠也	○		クォーター
EM24111	インテリジェント構造システム学	2	白石 俊彦		○	クォーター
EM24119	振動工学特論	2	森下 信			奇数年開講 クォーター
EM24120	シミュレーション数理	2	山田 貴博	○		クォーター
EM24121	非線形力学特論	2	中野 健	○		クォーター
EM24122	数理解析モデリング	2	松井 和己		○	クォーター
EM24123	浮体運動の数理モデル論	2	村井 基彦		○	クォーター
EM24124	宇宙環境利用科学	2	夏井坂 誠	○		注1, 隔週
EM24125	宇宙機システム学特論	2	伊東 康之	○		注2, 隔週
EM12129	材料化学のための結晶学	2	松本 真哉	○		注3
EM36115	計算流体力学概論	2	白崎 実	○		注4
EM57119	ライフサイクル・アセスメントと持続 型社会	2	本藤 祐樹	○		注5
EM68143	地球環境保全と循環型社会形成技術	2	倉持 秀敏	○		注6
EM69115	火災の科学と防火技術	2	岡 泰資		○	注6
EM69144	地震リスク評価学	2	畑山 健		○	注6
	システムデザイン特設講義	2				

注1) EM24104「無重力環境利用工学」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注2) ED24104「宇宙機システム学特論」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注3) 環境生命学専攻所属

注4) 情報メディア環境学専攻所属

注5) 環境イノベーションマネジメント専攻所属

注6) 環境リスクマネジメント専攻所属

C) 情報メディア環境学専攻

① 情報メディア学コース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM35102	言語情報処理原論	2	森 辰則	○		
EM35103	知能情報処理論	2	長尾 智晴		○	
EM35104	暗号と情報セキュリティ	2	松本 勉	○		
EM35105	映像データベース論	2	富井 尚志		○	
EM35106	視覚情報システム論	2	後藤 敏行	○		
EM35107	3次元画像表現	2	岡嶋 克典	○		
EM35108	言語とコンパイラ	2	田村 直良	○		
EM35109	数理言語学	2	マーティン ロジャー		○	
EM35116	数理アルゴリズム基礎論	2	四方 順司	○		注1
EM35117	理論言語学	2	藤井 友比呂	○		
EM35120	コンピュータネットワークアーキテクチャ	2	吉岡 克成		○	
EM35121	情報メディア学特設講義（情報・物理セキュリティ解析1）	2	松本 勉	○		
EM35122	情報メディア学特設講義（情報・物理セキュリティ解析2）	2	松本 勉		○	
EM35123	情報メディア学特設講義（情報・物理セキュリティ解析3）	2	松本 勉	○		
	情報メディア学特設講義	2				

注1) 教育職員免許状教科は「数学」

② 環境数理解析学コース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM36101	数理解析モデリング	2	松井 和己		○	注1、クォーター
EM36102	シミュレーション数理	2	山田 貴博	○		注1、クォーター
EM36103	数値解析学	2				
EM36104	応用数値解析	2	有光 直子	○		
EM36105	複雑系の基礎	2				
EM36107	解析学特論	2	牛越 恵理佳		○	
EM36110	空間とトポロジー	2	根上 生也	○		
EM36111	情報代数学	2	野間 淳	○		
EM36113	特異性の幾何学	2	西村 尚史		○	
EM36114	組合せの数理	2	中本 敦浩		○	
EM36115	計算流体力学概論	2	白崎 実	○		
EM36116	測度論	2				
EM36117	整数論の基礎	2	原下 秀士		○	
EM36118	環と体の数理	2	大石 彰	○		注2
EM57151	地域社会の情報化とイノベーション	2	額田 順二		○	
	環境数理解析学特設講義	2				

注1)平成22年度以前入学生のみ履修可能です。

注2)平成24年度以降入学生のみ履修可能です。

D) 環境イノベーションマネジメント専攻

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
専攻コア講義科目						
EM50101	イノベーション組織論	2	周佐 喜和		○	
EM50102	イノベーション戦略論	2	安本 雅典	○		クォーター
EM50103	イノベーション政策論	2				
EM50104	環境社会学	2	寺田 良一			奇数年開講
専攻専門講義科目						
EM50111	リスク社会論	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資		○	偶数年開講
EM57112	情報技術と経営戦略	2	竹田 陽子	○		クォーター
EM57113	イノベーションと社会倫理	2				
EM57114	イノベーションと社会的合意形成	2	志田 基与師		○	
EM57115	共生社会創生論	2	安藤 孝敏		○	クォーター
EM57117	イノベーション思想史	2	長谷部 英一		○	
EM57118	イノベーションと環境マネジメント	2	鳴海 大典		○	
EM57119	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会	2	本藤 祐樹	○		
EM57120	地域イノベーション論	2	遠藤 聡		○	注1
専攻選択専門講義科目						
EM50141	リスクマネジメントのための環境経済学	2	岡 敏弘			注4、奇数年開講
EM57141	ベンチャー・クラスター論	2	吉村 哲哉	○		クォーター
EM57146	環境と認識 A	2	宮崎 隆		○	
EM57147	環境と認識 B	2	宮崎 隆	○		
EM57148	環境と認識 C	2	宮崎 隆			
EM57150	エネルギー環境システム論	2	工藤 祐揮	○		
EM57151	地域社会の情報化とイノベーション	2	額田 順二		○	注3
EM57152	環境コミュニケーションと脳科学	2	萩原 一平	○		注2
EM68111	市民運動と環境政策	2	及川 敬貴	○		注4
EM68120	資源循環・廃棄物リスクマネジメント	2	亀屋 隆志	○		注4
EM68143	地球環境保全と循環型社会形成技術	2	倉持 秀敏	○		注4
EM69145	安全・安心のための社会組織論	2	野口 和彦		○	注4
	環境イノベーションマネジメント特設講義	2	各教員			

注1) EM57111「地域イノベーション政策」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注2) EM57149「環境コミュニケーション」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注3) 情報メディア環境学専攻所属

注4) 環境リスクマネジメント専攻所属

E) 環境リスクマネジメント専攻

① 生命環境マネジメントコース

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
専攻共通コア講義科目						
EM60101	リスク分析論	2	大谷 英雄 松田 裕之		○	
EM60102	環境汚染リスクの評価と対策技術	2	藤江 幸一		○	
EM50104	環境社会学	2	寺田 良一			奇数年開講
EM50111	リスク社会論	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資		○	偶数年開講
EM69118	地域社会と化学災害リスク論	2	三宅 淳巳		○	クォーター
コース専門講義科目						
EM68111	市民運動と環境政策	2	及川 敬貴	○		
EM68112	環境リスクマネジメントのための国際社会制度	2	及川 敬貴			
EM68113	生態リスクマネジメント理論	2	松田 裕之 牧野 光琢	○		
EM68114	土壌生態系リスクマネジメント	2	金子 信博		○	
EM68115	植物個体群・群集生態マネジメント	2	小池 文人	○		
EM68117	化学物質の環境動態とリスクモデル	2	益永 茂樹	○		
EM68118	環境疫学・健康リスク評価方法論	2	中井 里史	○		
EM68120	資源循環・廃棄物リスクマネジメント	2	亀屋 隆志	○		
コース選択専門講義科目						
EM68141	生活者のための環境リスク情報の評価	2	大矢 勝	○		
EM68142	環境毒性学	2	石堂 正美		○	偶数年開講
EM68143	地球環境保全と循環型社会形成技術	2	倉持 秀敏	○		
EM68148	The environmental strategy for infrastructure (インフラストラクチャのための環境戦略)	2	松田 裕之			英語による講義、奇数年開講
EM68149	リスクコミュニケーション論	2	竹田 宜人	○		
EM68150	生態学研究技法道場	2	森 章 金子 信博 小池 文人 松田 裕之 酒井 暁子 中森 泰三	○		注 1
EM68151	Sustainable Health and Environment	2	中井 里史		○	
EM11105	生物多様性科学	2	中森 泰三	○		注 2
EM11119	海洋生物多様性学	2	菊池 知彦	○		注 2
EM50141	リスクマネジメントのための環境経済学	2	岡 敏弘			奇数年開講
EM57118	イノベーションと環境マネジメント	2	鳴海 大典		○	注 3
EM57119	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会	2	本藤 祐樹	○		注 3
EM69142	化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用	2	小林 剛		○	

注1) 平成24年度以降入学生のみ履修可能。EM68146「グローバル COE 特設講義(生態学研究技法道場)」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注2) 環境生命学専攻所属

注3) 環境イノベーションマネジメント専攻所属

② セイフティマネジメントコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
専攻コア講義科目						
EM60101	リスク分析論	2	大谷 英雄 松田 裕之		○	
EM60102	環境汚染リスクの評価と対策技術	2	藤江 幸一		○	
EM69118	地域社会と化学災害リスク論	2	三宅 淳巳		○	クォーター
EM50104	環境社会学	2	寺田 良一	/	/	奇数年開講
EM50111	リスク社会論	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資		○	偶数年開講
コース専門講義科目						
EM69112	化学物質のセイフティマネジメント	2	大谷 英雄		○	
EM69115	火災の科学と防火技術	2	岡 泰資		○	
EM69117	設備検査と事故原因解析	2	笠井 尚哉	○		
EM69119	機械システムのリスク評価と制御技術	2	澁谷 忠弘		○	
EM69120	化学反応プロセスのリスク評価と制御技術	2	熊崎 美枝子	○		クォーター
EM69121	環境リスク評価のための電気化学解析論	2	松宮 正彦		○	
EM68112	環境リスクマネジメントのための国際社会制度	2	及川 敬貴	/	/	
コース選択専門講義科目						
EM69141	労働安全衛生マネジメント論	2	白崎 彰久	○		偶数年開講, 隔週
EM69142	化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用	2	小林 剛		○	
EM69144	地震リスク評価学	2	畑山 健		○	
EM69145	安全・安心のための社会組織論	2	野口 和彦		○	
EM50141	リスクマネジメントのための環境経済学	2	岡 敏弘	/	/	奇数年開講
EM57114	イノベーションと社会的合意形成	2	志田 基与師		○	注1
EM57118	イノベーションと環境マネジメント	2	鳴海 大典		○	注1
EM57119	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会	2	本藤 祐樹	○		注1
EM68120	資源循環・廃棄物リスクマネジメント	2	亀屋 隆志	○		

注1)環境イノベーションマネジメント専攻所属

F) 各専攻共通

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
EM00202	人材育成プログラムⅠ	2	各教員	○		注1
EM00203	人材育成プログラムⅠ	2	各教員		○	注1
EM00204	人材育成プログラムⅡ	4	各教員	○		注1
EM00205	人材育成プログラムⅡ	4	各教員		○	注1
EM00206	人材育成プログラムⅢ	6	各教員	○		注1
EM00207	人材育成プログラムⅢ	6	各教員		○	注1
EM00208	女性キャリアパス	2	有光 直子	○		
EM00209	臨海実習	2	菊池 知彦	○		注2
EM00217	統計学&データ解析道場	2	三中 信宏			奇数年開講 クォーター
EM00233	イノベーションとプランニングⅡ	2	周佐 喜和 白石 俊彦	○		クォーター
副専攻プログラム・安心安全マネジメントプログラム						
EM00210	リスクマネジメントと社会技術	2	竹花 立美 佐野 尊 菊川 重紀 小山田 賢治 山田 敏弘		○	
EM00213	安心感の心理・社会的基盤	2	高木 彩			
EM00223	安心安全マネジメント特別演習	2	(澁谷 忠弘)		○	

注1)

- ・ 人材育成プログラムは長期インターンシップ等を対象として単位認定します。履修するに当たって**責任指導教員及び環境情報学府係に相談**をしてください。授業の形態及び取り組み時間数によって単位数が異なります。重複履修可能科目とします。
このプログラムを履修した場合は、選択科目として履修台帳へ記載します。なお、申告により6単位まで専門科目として充当することが出来るものとします。
- ・ 人材育成プログラムを履修するには、事前に「人材育成プログラム履修登録申請書」を作成し担当教員に提出する必要があります。様式は環境情報学府係にてお渡しします。
- ・ 履修学生は業務日誌を作成し、受入れ先担当者および指導教員の定期的な検印を受けてください。

注2)

副専攻プログラム・統合的海洋管理学:本講義を履修する学生は、統合的海洋教育研究センター(海センター)が開講している「統合的海洋管理学Ⅰ」と「統合的海洋管理学Ⅱ」どちらか一つを履修してください。

(ウ) 演習

A) 環境生命学専攻

① 地球環境コース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM11205	生物多様性科学演習	2	中森 泰三	○		
EM11210	立地群落学演習	2				
EM11226	海洋生物多様性学演習	2	菊池 知彦	○		
EM11227	海洋古環境学演習	2	間嶋 隆一	○		
EM11235	植物生態学演習 I	2	酒井 暁子	○		
EM11239	古生態学演習	2	和仁 良二	○		
EM11241	海域地球物理学演習	2	小平 秀一	○		
EM11243	海洋生物環境学演習	2	下出 信次	○		
EM11245	陸域生態系管理学演習	2	森 章	○		
EM11247	地圏テクトニクス演習	2	石川 正弘	○		
EM11249	地球システム物質循環論演習	2	山本 伸次	○		新設
EM11251	生態系評価学演習	2	佐々木 雄大	○		新設
EM11215	生物多様性科学演習	2	中森 泰三		○	
EM11220	立地群落学演習	2				
EM11231	海洋生物多様性学演習	2	菊池 知彦		○	
EM11232	海洋古環境学演習	2	間嶋 隆一		○	
EM11236	植物生態学演習 I	2	酒井 暁子		○	
EM11240	古生態学演習	2	和仁 良二		○	
EM11242	海域地球物理学演習	2	小平 秀一		○	
EM11244	海洋生物環境学演習	2	下出 信次		○	
EM11246	陸域生態系管理学演習	2	森 章		○	
EM11248	地圏テクトニクス演習	2	石川 正弘		○	
EM11250	地球システム物質循環論演習	2	山本 伸次		○	新設
EM11252	生態系評価学演習	2	佐々木 雄大		○	新設

② 生命環境コース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM12203	植物遺伝子工学演習	2	平塚 和之	○		
EM12206	植物環境応答論演習	2	中村 達夫	○		
EM12208	生命システム化学演習	2	本田 清	○		
EM12216	生命高次適応科学演習	2	塗谷 睦生	○		
EM12237	生命分析化学演習	2				
EM12246	生命と超分子化学演習	2	大谷 裕之	○		
EM12247	材料化学のための結晶学演習	2	松本 真哉	○		
EM12251	植物遺伝子機能学演習	2	尾形 信一	○		
EM12255	物質・生命と複雑系演習	2	雨宮 隆	○		
EM12257	地球環境問題の科学演習	2				
EM12221	植物遺伝子工学演習	2	平塚 和之		○	
EM12224	植物環境応答論演習	2	中村 達夫		○	
EM12226	生命システム化学演習	2	本田 清		○	
EM12234	生命高次適応科学演習	2	塗谷 睦生		○	
EM12238	生命分析化学演習	2				
EM12249	生命と超分子化学演習	2	大谷 裕之		○	
EM12250	材料化学のための結晶学演習	2	松本 真哉		○	
EM12252	植物遺伝子機能学演習	2	尾形 信一		○	
EM12256	物質・生命と複雑系演習	2	雨宮 隆		○	
EM12258	地球環境問題の科学演習	2				

B) 環境システム学専攻

① マテリアルシステムコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM23202	環境材料学演習	2	伊藤 暁彦	○		
EM23203	機能性溶液学演習	2	荒牧 賢治	○		
EM23205	自律環境応答材料演習	2	鈴木 淳史	○		
EM23216	構造材料科学演習	2	多々見 純一	○		
EM23221	循環適合材料学演習	2				
EM23223	環境材料解析論演習	2				
EM23225	有機電子移動化学特論演習	2	跡部 真人	○		
EM23226	材料物理学演習	2	田中 良巳	○		
EM23229	機能性材料科学演習	2	飯島 志行	○		
EM23209	環境材料学演習	2	伊藤 暁彦		○	
EM23210	機能性溶液学演習	2	荒牧 賢治		○	
EM23212	自律環境応答材料演習	2	鈴木 淳史		○	
EM23218	構造材料科学演習	2	多々見 純一		○	
EM23222	循環適合材料学演習	2				
EM23224	環境材料解析論演習	2				
EM23227	有機電子移動化学特論演習	2	跡部 真人		○	
EM23228	材料物理学演習	2	田中 良巳		○	
EM23230	機能性材料科学演習	2	飯島 志行		○	

② システムデザインコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM24201	調和システム学演習	2	森下 信	○		
EM24203	空間利用工学演習	2	樋口 丈浩	○		
EM24204	極限環境システム論演習	2	上野 誠也	○		
EM24219	インテリジェント構造システム学演習	2	白石 俊彦	○		
EM24227	シミュレーション数理演習	2	山田 貴博	○		
EM24228	非線形力学特論演習	2	中野 健	○		
EM24229	数理解析モデリング演習	2	松井 和己	○		
EM24230	浮体運動の数理モデル論演習	2	村井 基彦	○		
EM24210	調和システム学演習	2	森下 信		○	
EM24212	空間利用工学演習	2	樋口 丈浩		○	
EM24213	極限環境システム論演習	2	上野 誠也		○	
EM24220	インテリジェント構造システム学演習	2	白石 俊彦		○	
EM24231	シミュレーション数理演習	2	山田 貴博		○	
EM24232	非線形力学特論演習	2	中野 健		○	
EM24233	数理解析モデリング演習	2	松井 和己		○	
EM24234	浮体運動の数理モデル論演習	2	村井 基彦		○	

C) 情報メディア環境学専攻

① 情報メディア学コース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM35202	言語情報処理原論演習	2	森 辰則	○		
EM35203	知能情報処理論演習	2	長尾 智晴	○		
EM35204	暗号と情報セキュリティ演習	2	松本 勉	○		
EM35205	映像データベース論演習	2	富井 尚志	○		
EM35206	視覚情報システム論演習	2	後藤 敏行	○		
EM35207	3次元画像表現演習	2	岡嶋 克典	○		
EM35208	言語とコンパイラ演習	2	田村 直良	○		
EM35209	数理言語学演習	2	マーティン ロジャー	○		
EM35231	数理アルゴリズム基礎論演習	2	四方 順司	○		注1
EM35234	理論言語学演習	2	藤井 友比呂	○		
EM35236	コンピュータネットワークアーキテクチャ演習	2	吉岡 克成	○		
EM35217	言語情報処理原論演習	2	森 辰則		○	
EM35218	知能情報処理論演習	2	長尾 智晴		○	
EM35219	暗号と情報セキュリティ演習	2	松本 勉		○	
EM35220	映像データベース論演習	2	富井 尚志		○	
EM35221	視覚情報システム論演習	2	後藤 敏行		○	
EM35222	3次元画像表現演習	2	岡嶋 克典		○	
EM35223	言語とコンパイラ演習	2	田村 直良		○	
EM35224	数理言語学演習	2	マーティン ロジャー		○	
EM35232	数理アルゴリズム基礎論演習	2	四方 順司		○	注1
EM35235	理論言語学演習	2	藤井 友比呂		○	
EM35237	コンピュータネットワークアーキテクチャ演習	2	吉岡 克成		○	

注1) 教育職員免許状教科は「数学」

② 環境数理解析学コース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM36201	数理解析モデリング演習	2	松井 和己	○		
EM36202	シミュレーション数理演習	2	山田 貴博	○		
EM36203	数値解析学演習	2				
EM36204	応用数値解析演習	2	有光 直子	○		
EM36205	複雑系の基礎演習	2				
EM36207	解析学特論演習	2	牛越 恵理佳	○		
EM36210	空間とトポロジー演習	2	根上 生也	○		
EM36211	情報代数学演習	2	野間 淳	○		
EM36225	特異性の幾何学演習	2	西村 尚史	○		
EM36226	組合せの数理演習	2	中本 敦浩	○		
EM36227	計算流体力学概論演習	2	白崎 実	○		
EM36231	測度論演習	2				
EM36233	整数論の基礎演習	2	原下 秀士	○		
EM36235	環と体の数理演習	2	大石 彰	○		
EM57239	地域社会の情報化とイノベーション演習	2	額田 順二	○		
EM36212	数理解析モデリング演習	2	松井 和己		○	
EM36213	シミュレーション数理演習	2	山田 貴博		○	
EM36214	数値解析学演習	2				
EM36215	応用数値解析演習	2	有光 直子		○	

EM36216	複雑系の基礎演習	2			
EM36218	解析学特論演習	2	牛越 惠理佳		○
EM36221	空間とトポロジー演習	2	根上 生也		○
EM36222	情報代数学演習	2	野間 淳		○
EM36228	特異性の幾何学演習	2	西村 尚史		○
EM36229	組合せの数理演習	2	中本 敦浩		○
EM36230	計算流体力学概論演習	2	白崎 実		○
EM36232	測度論演習	2			
EM36234	整数論の基礎演習	2	原下 秀士		○
EM36236	環と体の数理演習	2	大石 彰		○
EM57240	地域社会の情報化とイノベーション演習	2	額田 順二		○

D) 環境イノベーションマネジメント専攻

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
EM57201	イノベーション組織論演習	2	周佐 喜和	○		
EM57202	イノベーション戦略論演習	2	安本 雅典	○		
EM57203	イノベーション政策論演習	2				
EM57205	情報技術と経営戦略演習	2	竹田 陽子	○		
EM57206	イノベーションと社会倫理演習	2				
EM57207	イノベーションと社会的合意形成演習	2	志田 基与師	○		
EM57208	共生社会創生論演習	2	安藤 孝敏	○		
EM57210	イノベーション思想史演習	2	長谷部 英一	○		
EM57211	イノベーションと環境マネジメント演習	2	鳴海 大典	○		
EM57212	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会演習	2	本藤 祐樹	○		
EM57213	ベンチャー・クラスター論演習	2	吉村 哲哉	○		
EM57215	環境と認識演習	2	宮崎 隆	○		
EM57237	エネルギー環境システム論演習	2	工藤 祐揮	○		
EM57241	地域イノベーション論演習	2	遠藤 聡	○		
EM57243	環境コミュニケーションと脳科学演習	2	萩原 一平	○		
EM50201	リスク社会論演習	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資	○		隔年開講 重複履修不可 指導教員に関わ らず履修可能
EM57218	イノベーション組織論演習	2	周佐 喜和		○	
EM57219	イノベーション戦略論演習	2	安本 雅典		○	
EM57220	イノベーション政策論演習	2				
EM57222	情報技術と経営戦略演習	2	竹田 陽子		○	
EM57223	イノベーションと社会倫理演習	2				
EM57224	イノベーションと社会的合意形成演習	2	志田 基与師		○	
EM57225	共生社会創生論演習	2	安藤 孝敏		○	
EM57227	イノベーション思想史演習	2	長谷部 英一		○	
EM57228	イノベーションと環境マネジメント演習	2	鳴海 大典		○	
EM57229	ライフサイクル・アセスメントと持続型社会演習	2	本藤 祐樹		○	
EM57230	ベンチャー・クラスター論演習	2	吉村 哲哉		○	
EM57232	環境と認識演習	2	宮崎 隆		○	
EM57238	エネルギー環境システム論演習	2	工藤 祐揮		○	
EM57242	地域イノベーション論演習	2	遠藤 聡		○	
EM57244	環境コミュニケーションと脳科学演習	2	萩原 一平		○	

E) 環境リスクマネジメント専攻

① 生命環境マネジメントコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM68201	市民運動と環境政策演習	2	及川 敬貴	○		
EM68202	環境汚染リスクの評価と対策技術演習	2	藤江 幸一	○		
EM68203	生態リスクマネジメント理論演習	2	松田 裕之 牧野 光琢	○		
EM68204	土壌生態系リスクマネジメント演習	2	金子 信博	○		
EM68205	植物個体群・群集生態マネジメント演習	2	小池 文人	○		
EM68207	化学物質の環境動態とリスクモデル演習	2	益永 茂樹	○		
EM68208	環境疫学・健康リスク評価方法論演習	2	中井 里史	○		
EM68210	資源循環・廃棄物リスクマネジメント演習	2	亀屋 隆志	○		
EM68211	生活者のための環境リスク情報の評価演習	2	大矢 勝	○		
EM68212	地球環境保全と循環型社会形成技術演習	2	倉持 秀敏	○		
EM68229	リスクコミュニケーション論演習	2	竹田 宜人	○		
EM68214	市民運動と環境政策演習	2	及川 敬貴		○	
EM68215	環境汚染リスクの評価と対策技術演習	2	藤江 幸一		○	
EM68216	生態リスクマネジメント理論演習	2	松田 裕之		○	
EM68217	土壌生態系リスクマネジメント演習	2	金子 信博		○	
EM68218	植物個体群・群集生態マネジメント演習	2	小池 文人		○	
EM68220	化学物質の環境動態とリスクモデル演習	2	益永 茂樹		○	
EM68221	環境疫学・健康リスク評価方法論演習	2	中井 里史		○	
EM68223	資源循環・廃棄物リスクマネジメント演習	2	亀屋 隆志		○	
EM68224	生活者のための環境リスク情報の評価演習	2	大矢 勝		○	
EM68225	地球環境保全と循環型社会形成技術演習	2	倉持 秀敏		○	
EM68230	リスクコミュニケーション論演習	2	竹田 宜人		○	
EM50201	リスク社会論演習	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資		○	隔年開講 重複履修不可 指導教員に関わ らず履修可能

② セイフティマネジメントコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM69203	化学物質のセイフティマネジメント演習	2	大谷 英雄	○		
EM69204	化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用演習	2	小林 剛	○		
EM69207	火災の科学と防火技術演習	2	岡 泰資	○		
EM69209	設備検査と事故原因解析演習	2	笠井 尚哉	○		
EM69210	地域社会と化学災害リスク論演習	2	三宅 淳巳	○		
EM69211	地震リスク評価学演習	2	畑山 健	○		
EM69212	安全・安心のための社会組織論演習	2	野口 和彦	○		
EM69224	機械システムのリスク評価と制御技術演習	2	澁谷 忠弘	○		
EM69225	化学反応プロセスのリスク評価と制御技術演習	2	熊崎 美枝子	○		
EM69226	環境リスク評価のための電気化学解析論演習	2	松宮 正彦	○		

EM69214	化学物質のセイフティマネジメント演習	2	大谷 英雄		○	
EM69215	化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用演習	2	小林 剛		○	
EM69218	火災の科学と防火技術演習	2	岡 泰資		○	
EM69220	設備検査と事故原因解析演習	2	笠井 尚哉		○	
EM69221	地域社会と化学災害リスク論演習	2	三宅 淳巳		○	
EM69222	地震リスク評価学演習	2	畑山 健		○	
EM69223	安全・安心のための社会組織論演習	2	野口 和彦		○	
EM69227	機械システムのリスク評価と制御技術演習	2	澁谷 忠弘		○	
EM69228	化学反応プロセスのリスク評価と制御技術演習	2	熊崎 美枝子		○	
EM69229	環境リスク評価のための電気化学解析論演習	2	松宮 正彦		○	
EM50201	リスク社会論演習	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資		○	隔年開講 重複履修不可 指導教員に関わ らず履修可能

(エ) ワークショップ・実験

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
EM11313	地球科学ワークショップMC 1 - I	1	石川正弘, 間嶋隆一, 菊池知彦, 和仁良二,	○		1年次用 注1
EM11314	地球科学ワークショップMC 1 - II	1			○	
EM11315	地球科学ワークショップMC 2 - I	1	小平秀一, 下出信次, 山本伸次	○		2年次用 注1
EM11316	地球科学ワークショップMC 2 - II	1			○	
EM11317	生態学ワークショップMC 1 - I	1	酒井暁子, 森章, 中森泰三, 佐々木雄大	○		1年次用 注2 クォーター
EM11318	生態学ワークショップMC 1 - II	1			○	
EM11319	生態学ワークショップMC 2 - I	1		○		2年次用 注2 クォーター
EM11320	生態学ワークショップMC 2 - II	1			○	
EM12313	生命科学ワークショップMC 1 - I	1	平塚和之, 中村達夫, 松本真哉, 大谷裕之, 尾形信一, 本田清, 雨宮隆, 塗谷陸生	○		1年次用 注3
EM12314	生命科学ワークショップMC 1 - II	1			○	
EM12315	生命科学ワークショップMC 2 - I	1		○		2年次用 注3
EM12316	生命科学ワークショップMC 2 - II	1			○	
EM23302	マテリアルシステム学演習	1	マテリアルシステム コ ー ス 全 教 員	○		2年次用
EM23303	マテリアルシステム学演習	1			○	
EM24302	システムデザインワークショップ・実験	1	システムデザイン コ ー ス 全 教 員	○		
EM24303	システムデザインワークショップ・実験	1			○	
EM30302	情報メディアコロキウム I	1	情報メディア環境学 専 攻 全 教 員	★		
EM30303	情報メディアコロキウム I	1			★	
EM57303	環境イノベーションマネジメントワークショップ MC1-I	1	環境イノベーション マネジメント専攻 全教員	○		1年次用
EM57304	環境イノベーションマネジメントワークショップ MC1-II	1			○	
EM57305	環境イノベーションマネジメントワークショップ MC2-I	1		○		2年次用 注4
EM57306	環境イノベーションマネジメントワークショップ MC2-II	1			○	
EM60301	環境リスクマネジメントワークショップ I	1	環境リスクマネジメ ント専攻全教員	○		
EM60302	環境リスクマネジメントワークショップ I	1			○	
	フィールドワーク I A	1		○		
	フィールドワーク I B	1			○	
	インターンシップ I A	1		○		注5
	インターンシップ I B	1			○	注5

注1) 旧・地球科学ワークショップ I ~ IVと重複履修不可です。

注2) 旧・生態学ワークショップ I ~ IVと重複履修不可です。

注3) 旧・生命科学ワークショップ I ~ IV及び旧・生命環境学ワークショップ I ~ IVと重複履修不可です。

注4) 1年次にワークショップの単位が修了要件に満たない学生、あるいは、「ワークショップ・実験」科目における修了要件の最小単位数を超えて履修を希望する学生が対象です。なお、2年次以降の学生が、修士論文報告会(ワークショップの一環として開催)における報告のために、MC2-I、MC2-II を履修登録する必要はありません。

注5) 専攻または研究内容に関係した水準で、企業等の大学外の機関での実務経験を伴うインターンシップを対象として単位認定をします。(単位認定に値するかは、各専攻の判断によります)

インターンシップを履修するには、事前に「インターンシップ履修登録申請書」を作成し責任指導教員に提出する必要があります。様式は環境情報学府係にてお渡します。

履修学生は業務日誌を作成し、受入れ先担当者および指導教員の定期的な検印を受けてください。

【注】ワークショップ・実験は、必ず所属の専攻・コースで指定する科目(2単位以上)を履修してください。

(オ) プレレキジット科目

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	期 間		備 考
				春	秋	
EM00401	基礎統計					
EM00402	コンピュータリテラシー					
EM00403	テクニカルライティング (英語)					
EM00404	プレゼンテーション・スキル (英語)					
EM00405	日本語					
EM00406	日本語					
EM00407	日本事情					
EM00408	日本事情					

2. 後期課程

i. 授業科目と修了について

(ア) 授業科目とプレレキジット

- 本学府の後期課程の授業科目は、講義科目、演習、ワークショップ・フィールドワーク・実験によって構成されています。また、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けています。

A) 講義科目

各教員による講義の科目です。春学期又は秋学期2単位の科目として行われます。

B) 演習

各教員による演習の科目です。春学期又は秋学期2単位、**複数年・複数学期に渡って重複履修が可能**です。責任指導教員の開講科目を履修することが原則ですが、短縮修了等の場合には、責任指導教員以外が開講する科目を履修することができます。その際は、履修登録期間内に「責任指導教員以外の演習科目履修申請書」を大学院環境情報学府係に提出し、専攻の許可を得る必要があります。

C) ワークショップ・フィールドワーク・実験

- 専攻をまたがる複数教員・学外専門家等の参加による多様な形態で行われる科目です。
 国内・海外における調査・実習・研修の科目です。
 専攻内複数教員参加による輪講・特別実験の科目です。

D) プレレキジット

学生は指導委員会が必要と判断した場合は、基礎的知識を補充するためにプレレキジット科目を履修する必要があります。履修すべき授業科目(教養教育科目および教職科目は除く)は、指導教員が指示します。指示を受けた学生はその単位を修得しなければ学位論文作成資格を得ることができません。本科目は修了要件の単位には算入されません。

(イ) 指導委員会

責任指導教員と指導教員の3名による指導委員会により、研究指導を行います。

(ウ) 指導委員会報告書

学生は、各年次当初に(但し、1年次を除く)、指導委員会報告書(指定用紙有)の研究進捗状況欄を作成し、責任指導教員に提出する必要があります。責任指導教員は、単位の取得および学位論文研究の進捗状況を把握し、評価欄に所見を記載すると共に、学生の修学と研究が適切に進むよう研究指導等を行います。

(エ) 修了関係

A) 修了要件及び学位論文執筆要件

- 環境情報学府では、修了に必要な単位を取得し、博士論文審査及び最終試験に合格することで修了となります。修了に必要な所定の単位は、次の表の通りです。学生は2年次の終了時点で必要単位を取得し、博士論文執筆資格審査を受ける必要があります。また、博士論文の作成に関して専攻ごとの規則がありますので、詳細は指導教員または学務委員に確認をしてください。なお、プレレキジット科目の履修を義務付けられた学生はその単位を2年次の終了時点までに取得する必要があります。
- 上記に加え、平成21年度以降の入学者は、**GPAが2.0以上**であることを修了要件とします。(GPAについては7頁の「GPA制度について」以下を参照してください。)

【1】環境生命学専攻、環境システム学専攻、情報メディア学専攻

授 業 科 目	修了に必要な単位数	論文執筆資格審査に必要な単位数	修了に必要なGPAの基準
講義科目	8単位以上	8単位以上	2.0
演 習	10単位以上	8単位以上	
ワークショップ・ フィールドワーク・実験	2単位以上		
合 計	20単位以上		

- ① 単位は、環境情報学府の後期課程開設の授業科目の中から修得することを原則とします。ただし、指導教員が必要と認め、授業担当教員の下承が得られる場合には、**講義科目に限り4単位を限度**として、本学府の前期課程開設科目、本学大学院他研究科及び他学府(教育学研究科、国際社会科学府博士課程後期、工学府、都市イノベーション学府)開設科目、単位互換を申し合わせている他大学院研究科開設講義科目の単位を修了に必要な単位として認定できます。

【2】環境イノベーションマネジメント専攻及び環境リスクマネジメント専攻

授 業 科 目	修了に必要な単位数	論文執筆資格審査に必要な単位数	修了に必要なGPAの基準
① 専門講義科目	4単位以上	8単位以上	2.0
② 選択専門講義科目	①を含んで 8単位以上		
演 習	10単位以上	8単位以上	
ワークショップ・ フィールドワーク・実験	2単位以上		
合 計	20単位以上		

- ① 専門講義科目は、環境イノベーションマネジメント専攻では「専攻専門講義科目」、環境リスクマネジメント専攻では所属するコースの「コース専門講義科目」に該当します。
- ② 選択専門講義科目は、環境イノベーションマネジメント専攻では「専攻選択専門講義科目」、環境リスクマネジメント専攻では所属するコースの「コース選択専門講義科目」に該当します。
- ③ 単位は、環境イノベーションマネジメント専攻については所属する専攻の、また環境リスクマネジメント専攻については所属するコースの後期課程開設の授業科目の中から修得することを原則とします。ただし、指導教員が必要と認め、授業担当教員の下承が得られる場合には、**講義科目に限り他コース、他専攻、本学府の前期課程開設科目、本学大学院他研究科及び他学府(教育学研究科、国際社会科学府博士課程後期、工学府、都市イノベーション学府)開設科目、単位互換を申し合わせている他大学院研究科開設科目の単位を修了に必要な単位として認定**できます。なお、取得した単位は選択専門講義科目に充当するものとします。

B) 論文審査スケジュール

- ・ 学位論文審査手続きとスケジュールは以下のとおりです。

【博士課程後期】

項目	時期*多少前後する可能性あり				内容
	6月修了	9月修了	12月修了	3月修了	
論文審査申請	2月	4月	6月	10月	大学院環境情報学府係窓口へ必要書類を提出
論文提出期間	4月	7月	10月	1月	大学院環境情報学府係窓口へ論文ほか必要書類を提出
審査期間	↓ 5月	↓ 8月	↓ 11月	↓ 2月	(審査の詳細は担当教員へ確認のこと)
学府教授会による修了認定	6月	9月	12月	3月	—
修了式	6月	9月	12月	3月	学位記授与

- ① 学位論文審査に関する手続き方法、正式な日程、提出書類等の詳細はHP「環境情報学府書式集」にて確認してください。
「環境情報学府書式集」<http://www.kankyo-jimu.ynu.ac.jp/gakugai/kankyo/shosiki.html>
- ② 上記に加え、所属する専攻内での審査手続き(予備審査など)、スケジュールは各自で指導教員へ確認してください。

C) 学位論文評価基準

・ 環境生命学専攻

- ① 研究の背景が十分に理解され、目的が明確に示されていること。
- ② 目的を達成するための、合理的な研究(実験)計画が示されていること。
- ③ 適切な実験や調査によって得られた結果が、客観的かつ体系的にまとめられていること。
- ④ 得られた結果を総合的に評価し考察していること。
- ⑤ 適切な表現構成により論文の主旨が論理的に述べられていること。
- ⑥ 当該分野の発展に寄与する新規かつ高度な内容を含むこと。
- ⑦ 研究成果は国際学術論文誌に掲載し得る水準にあること。
- ⑧ 独立して研究を行える水準に達していると認められる内容であること。

・ 環境システム学専攻

- ① 研究の背景および専門知識を理解していること。
- ② 研究を進める上での実験や調査方法が妥当であること。
- ③ 新規性、独創性のある成果が得られていること。
- ④ 表現方法と論理構成が適切であること。
- ⑤ 研究分野の発展に寄与する本質的で高度な学術的・工学的成果を含むこと。
- ⑥ 外部の学術論文誌に掲載しうる水準の内容であること。

・ 情報メディア環境学専攻

- ① 独創的な研究であり、論文テーマが適切である。
- ② 得られた成果の学術的あるいは実用的貢献度が高いこと。
- ③ 得られた成果に信頼性があること。
- ④ 論文の主旨が論理的に展開され、構成および表現技法が適切であること。
- ⑤ 当該分野の発展に寄与する本質的で新しく高度な研究成果であること。
- ⑥ 論文内容は外部の学術論文誌に掲載しうる水準にあること。

・ 環境イノベーションマネジメント専攻

- ① 研究テーマ設定の適切性と、研究テーマに関連した専門知識の理解度。
- ② 学術研究としての研究方法の妥当性。

- ③ 研究成果の論理性、および実際の現象に対する説明力。
- ④ 論文の構成や表現技法などの適切性。
- ⑤ 独創性。
- ⑥ 博士の学位請求論文の一部が、国内外の査読付き学術誌などで発表されていること。

・環境リスクマネジメント専攻

- ① 研究課題の適切性と独創性。
- ② 研究方法・結果・考察の論理性と信頼性。
- ③ 研究成果の学術的または実用的貢献度。
- ④ 研究成果に学術論文誌に掲載されるレベルの内容を含むこと。

D) 取得可能な学位

- ・ 本学府博士課程後期で取得可能な学位は以下のとおりです。学生は希望する取得学位を学位審査委員会の判断に基づいて授与されます。

専 攻	取 得 で き る 学 位
環境生命学専攻	博士（環境学）、博士（工学）、博士（学術）
環境システム学専攻	博士（環境学）、博士（工学）、博士（学術）
情報メディア環境学専攻	博士（情報学）、博士（工学）、博士（学術）
環境マネジメント専攻	博士（環境学）、博士（技術経営）、博士（工学）、博士（学術）
環境イノベーションマネジメント専攻	博士（環境学）、博士（技術経営）、博士（学術）
環境リスクマネジメント専攻	博士（環境学）、博士（工学）、博士（学術）

ii. 授業科目一覧（後期課程）

※ 一部クォーター制で開講する科目があります。詳細は時間割で確認してください。
 （クォーター制で開講する科目は、備考欄にクォーターと記載）

（ア）講義科目（★は夜間開講科目。●は夜間開講可能科目。）

A) 環境生命学専攻

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
《地 球 環 境》						
ED11105	土壌動物学	2	中森 泰三	○		
ED11110	群落評価生態学	2				
ED11113	生物海洋学	2	菊池 知彦		○	
ED11114	地球生命史学	2	間嶋 隆一		○	
ED11117	植物生態学	2	酒井 暁子		○	クォーター
ED11122	進化古生物学	2	和仁 良二		○	
ED11123	構造地震学	2	小平 秀一		○	
ED11124	攪乱と生態系管理	2	森 章		○	
ED11125	沿岸海洋評価学	2	下出 信次		○	
ED11126	地殻ダイナミクス	2	石川 正弘	○		注1
ED11127	地球システム変動論	2	山本 伸次		○	新設
ED11128	人間活動と生態系	2	佐々木 雄大		○	新設、クォーター
《生 命 環 境》						
ED12103	植物遺伝子工学特論	2	平塚 和之		○	
ED12108	生物活性物質化学	2	本田 清	○		
ED12116	超分子構造論	2	大谷 裕之		○	
ED12123	植物環境応答特論	2	中村 達夫		○	
ED12124	分離科学	2				
ED12125	高次発生システム	2	塗谷 睦生	○		
ED12129	機能性色素化学	2	松本 真哉		○	
ED12130	植物遺伝子機能学特論	2	尾形 信一		○	
ED12131	物質・生命と複雑系特論	2	雨宮 隆	○		クォーター
ED12132	地球環境問題の科学特論	2				
	環境生命学特設講義	2				
	環境生命学特別講義 I	2				
	環境生命学特別講義 II	2				

注1) ED11108「地殻環境変動学」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

B) 環境システム学専攻

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
《マテリアルシステム》						
ED23102	環境材料構造論	2	伊藤 暁彦		○	クォーター
ED23103	機能性溶液学特論	2	荒牧 賢治		○	クォーター
ED23105	環境調和材料学	2	鈴木 淳史		○	クォーター
ED23109	環境構造材料学特論	2	多々見 純一		○	クォーター
ED23111	循環適合材料学特論	2				
ED23112	環境材料解析特論	2				
ED23113	環境調和有機合成プロセス学	2	跡部 真人		○	クォーター
ED23114	ソフトマター物理	2	田中 良巳		○	クォーター

ED23115	機能性材料科学特論	2	飯島 志行		○	クォーター
《システムデザイン》						
ED24101	システムモデリング	2	森下 信		○	クォーター
ED24106	極限環境システム学特論	2	上野 誠也		○	クォーター
ED24111	生体システム工学	2	白石 俊彦		○	クォーター
ED24120	先端環境モデリング学	2	山田 貴博	○		クォーター
ED24121	トライボロジー特論	2	中野 健	○		クォーター
ED24122	科学技術ソフトウェア工学	2	松井 和己	○		クォーター
ED24123	浮体運動の数理モデル特論	2	村井 基彦		○	クォーター
ED24124	自律航行体制御特論	2	樋口 丈浩		○	クォーター
	環境システム学特設講義	2				
	環境システム学特別講義 I	2				
	環境システム学特別講義 II	2				

C) 情報メディア環境学専攻

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
《情報メディア学》						
ED35102	デジタルドキュメント論	2	森 辰則		○	
ED35103	先端人工知能論	2	長尾 智晴		○	
ED35104	情報セキュリティデザイン	2	松本 勉		●	
ED35105	映像創製論	2	富井 尚志	○		
ED35106	複合画像メディア統合学	2	後藤 敏行		○	
ED35107	時空間画像処理	2	岡嶋 克典		○	
ED35108	ドキュメント処理特論	2	田村 直良	●		
ED35112	言語哲学特論	2	マーティン ロジャー	○		
ED35116	数理アルゴリズム特論	2	四方 順司		○	
ED35117	理論言語学特論	2	藤井 友比呂		○	
ED35120	情報システムマネジメント	2	吉岡 克成	○		
ED35121	情報メディア環境学特設講義 (情報・物理セキュリティ解析 4)	2	松本 勉		○	
ED35122	情報メディア環境学特設講義 (情報・物理セキュリティ解析 5)	2	松本 勉	○		
ED35123	情報メディア環境学特設講義 (情報・物理セキュリティ解析 6)	2	松本 勉		○	
《環境数理解析学》						
ED36101	科学技術ソフトウェア工学	2	松井 和己	○		注1、クォーター
ED36102	先端環境モデリング学	2	山田 貴博	○		注1、クォーター
ED36103	ソフトコンピューティング	2				
ED36104	物理数値解析	2	有光 直子		○	
ED36105	複雑系の数理	2				
ED36106	最適化理論	2	牛越 恵理佳	○		
ED36107	ダイナミカルシステム学	2				
ED36110	離散位相構造学	2	根上 生也		○	
ED36111	代数位相構造学	2	野間 淳		○	
ED36113	特異性の数理	2	西村 尚史	○		
ED36114	離散幾何構造論	2	中本 敦浩	○		
ED36115	計算流体力学特論	2	白崎 実		○	
ED36116	代数多様体の数理	2	原下 秀士	○		
ED36117	可換代数学	2	大石 彰			

ED57145	地域社会の情報化とイノベーション事例研究	2	額田 順二			
	情報メディア環境学特設講義	2				
	情報メディア環境学特別講義Ⅰ	2				
	情報メディア環境学特別講義Ⅱ	2				

注1) 平成22年度以前入学者対象の科目

D) 環境イノベーションマネジメント専攻

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
専攻専門講義科目						
ED50111	環境リスク社会論事例研究	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資			奇数年開講
ED57111	R & D投資論	2				クォーター
ED57112	革新的技術開発論	2	安本 雅典		○	クォーター
ED57114	情報技術とイノベーションマネジメント	2	竹田 陽子	○		クォーター
ED57115	企業内及び企業間技術伝播	2	周佐 喜和	○		
ED57116	先端技術と社会倫理	2				
ED57117	イノベーションと社会制度分析	2	志田 基与師	○		クォーター
ED57118	共生社会創生事例研究	2	安藤 孝敏	○		
ED57119	情報文化イノベーション論	2				
ED57121	環境イノベーション思想史	2	長谷部 英一	○		
ED57123	創成的環境戦略論	2				
ED57124	持続型社会と技術評価論	2	本藤 祐樹		○	偶数年開講
ED57125	意識環境と認識の変容 A	2	宮崎 隆	○		
ED57126	意識環境と認識の変容 B	2	宮崎 隆	○		
ED57127	意識環境と認識の変容 C	2	宮崎 隆			
ED57128	環境資源戦略論	2	鳴海 大典		○	クォーター
ED57129	地域イノベーション政策論	2	遠藤 聡	○		注1
専攻選択専門講義科目						
ED57141	ハイテクベンチャー創出論	2	吉村 哲哉	○		クォーター
ED57144	持続性指標と低炭素システム設計	2	工藤 祐揮		○	
ED57145	地域社会の情報化とイノベーション事例研究	2	額田 順二			注3
ED57146	脳科学的環境情報共有論	2	萩原 一平	○		注2
ED68111	リスク社会と法制度	2	及川 敬貴	○		注4
ED68119	環境対策技術と環境負荷	2	藤江 幸一		○	注4
ED68141	循環型社会創造論	2	倉持 秀敏		○	注4

注1) ED57113「地域イノベーション政策事例研究」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注2) ED57143「環境情報共有論」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注3) 情報メディア環境学専攻所属

注4) 環境リスクマネジメント専攻所属

E) 環境リスクマネジメント専攻

① 生命環境マネジメントコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
コース専門講義科目						
ED68111	リスク社会と法制度	2	及川 敬貴	○		
ED68112	外来生物マネジメント論	2	小池 文人		○	
ED68113	共生系の物質循環と生態リスク	2	金子 信博		○	
ED68114	生態リスクマネジメント事例研究	2	松田 裕之	○		
ED68116	化学物質の環境安全性評価とマネジメント技術	2	亀屋 隆志		○	
ED68118	化学物質のリスク解析事例研究	2	益永 茂樹		○	
ED68119	環境対策技術と環境負荷	2	藤江 幸一		○	
ED68120	環境健康リスクマネジメント論	2	中井 里史		○	
ED68121	生活環境リスク情報発信論	2	大矢 勝	○		
ED50111	環境リスク社会論事例研究	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資	/	/	奇数年開講
コース選択専門講義科目						
ED68141	循環型社会創造論	2	倉持 秀敏		○	
ED68147	リスクコミュニケーション特論	2	竹田 宜人		○	
ED11105	土壌動物学	2	中森 泰三	○		注1
ED57124	持続型社会と技術評価論	2	本藤 祐樹		○	注2、偶数年開講
ED69113	化学物質の有害性・危険性情報論	2	小林 剛		○	

注1) 環境生命学専攻所属

注2) 環境イノベーションマネジメント専攻所属

② セイフティマネジメントコース

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
コース専門講義科目						
ED68111	リスク社会と法制度	2	及川 敬貴	○		
ED69112	産業災害のリスクリテラシー	2	大谷 英雄	○		
ED69113	化学物質の有害性・危険性情報論	2	小林 剛		○	
ED69115	防火対策とリスクアセスメント	2	岡 泰資	○		
ED69117	設備検査と事故原因解析事例研究	2	笠井 尚哉		○	
ED69120	機械システム安全管理論	2	澁谷 忠弘	○		
ED69121	プロセスシステムリスク論	2	熊崎 美枝子	○		
ED69122	環境調和型電気化学システム開発特論	2	松宮 正彦		○	
ED69123	技術システムリスク管理論	2	三宅 淳巳		○	注1
ED50111	環境リスク社会論事例研究	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資	/	/	奇数年開講
コース選択専門講義科目						
ED69141	地震防災論	2	畑山 健		○	
ED69142	リスクマネジメントシステム構築論	2	野口 和彦	○		
ED57124	持続型社会と技術評価論	2	本藤 祐樹		○	注2、偶数年開講
ED68119	環境対策技術と環境負荷	2	藤江 幸一		○	

注1) ED69119「技術システムのリスク管理」の単位を修得済みの学生が本授業科目を履修することはできません。

注2) 環境イノベーションマネジメント専攻所属

F) 各専攻共通

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
ED00201	中核人材育成プログラムⅠ	2	各教員	○		注1
ED00202	中核人材育成プログラムⅠ	2	各教員		○	注1
ED00203	中核人材育成プログラムⅡ	4	各教員	○		注1
ED00204	中核人材育成プログラムⅡ	4	各教員		○	注1
ED00205	中核人材育成プログラムⅢ	6	各教員	○		注1
ED00206	中核人材育成プログラムⅢ	6	各教員		○	注1
ED00207	女性キャリアパス	2	有光 直子	○		
ED00209	統計学&データ解析道場	2	三中 信宏			奇数年開講、 クォーター

- 注1) ・中核人材育成プログラムは長期インターンシップ等を対象として単位認定します。履修するに当たって責任指導教員及び環境情報学府係に相談をしてください。授業の形態及び取り組み時間数によって単位数が異なります。重複履修可能科目とします。
- ・中核人材育成プログラムを履修するには、事前に「中核人材育成プログラム履修登録申請書」を作成し担当教員に提出する必要があります。様式は環境情報学府係にてお渡しします。
 - ・履修学生は業務日誌を作成し、受入れ先担当者および指導教員の定期的な検印を受けてください

(イ) 演習

A) 環境生命学専攻

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
《地 球 環 境》						
ED11205	土壌動物学演習	2	中森 泰三	○		
ED11210	群落評価生態学演習	2				
ED11224	生物海洋学演習	2	菊池 知彦	○		
ED11225	地球生命史学演習	2	間嶋 隆一	○		
ED11233	植物生態学演習Ⅱ	2	酒井 暁子	○		
ED11237	進化古生物学演習	2	和仁 良二	○		
ED11239	構造地震学演習	2	小平 秀一	○		
ED11241	攪乱と生態系管理演習	2	森 章	○		
ED11243	沿岸海洋評価学演習	2	下出 信次	○		
ED11245	地殻ダイナミクス演習	2	石川 正弘	○		
ED11247	地球システム変動論演習	2	山本 伸次	○		新設
ED11249	人間活動と生態系演習	2	佐々木 雄大	○		新設
ED11215	土壌動物学演習	2	中森 泰三		○	
ED11220	群落評価生態学演習	2				
ED11229	生物海洋学演習	2	菊池 知彦		○	
ED11230	地球生命史学演習	2	間嶋 隆一		○	
ED11234	植物生態学演習Ⅱ	2	酒井 暁子		○	
ED11238	進化古生物学演習	2	和仁 良二		○	
ED11240	構造地震学演習	2	小平 秀一		○	
ED11242	攪乱と生態系管理演習	2	森 章		○	
ED11244	沿岸海洋評価学演習	2	下出 信次		○	
ED11246	地殻ダイナミクス演習	2	石川 正弘		○	
ED11248	地球システム変動論演習	2	山本 伸次		○	新設
ED11250	人間活動と生態系演習	2	佐々木 雄大		○	新設

《生命環境》						
ED12203	植物遺伝子工学特論演習	2	平塚 和之	○		
ED12208	生物活性物質化学演習	2	本田 清	○		
ED12241	分離科学演習	2				
ED12242	高次発生システム演習	2	塗谷 睦生	○		
ED12248	超分子構造論演習	2	大谷 裕之	○		
ED12249	機能性色素化学演習	2	松本 真哉	○		
ED12253	植物遺伝子機能学特論演習	2	尾形 信一	○		
ED12255	植物環境応答特論演習	2	中村 達夫	○		
ED12257	物質・生命と複雑系特論演習	2	雨宮 隆	○		
ED12259	地球環境問題の科学特論演習	2				
ED12221	植物遺伝子工学特論演習	2	平塚 和之		○	
ED12226	生物活性物質化学演習	2	本田 清		○	
ED12245	分離科学演習	2				
ED12246	高次発生システム演習	2	塗谷 睦生		○	
ED12251	超分子構造論演習	2	大谷 裕之		○	
ED12252	機能性色素化学演習	2	松本 真哉		○	
ED12254	植物遺伝子機能学特論演習	2	尾形 信一		○	
ED12256	植物環境応答特論演習	2	中村 達夫		○	
ED12258	物質・生命と複雑系特論演習	2	雨宮 隆		○	
ED12260	地球環境問題の科学特論演習	2				

B) 環境システム学専攻

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
《マテリアルシステム》						
ED23202	環境材料構造論演習	2	伊藤 暁彦	○		
ED23203	機能性溶液学特論演習	2	荒牧 賢治	○		
ED23205	環境調和材料学演習	2	鈴木 淳史	○		
ED23216	環境構造材料学特論演習	2	多々見 純一	○		
ED23221	循環適合材料学特論演習	2				
ED23223	環境材料解析特論演習	2				
ED23225	環境調和有機合成プロセス学演習	2	跡部 真人	○		
ED23226	ソフトマター物理演習	2	田中 良巳	○		
ED23229	機能性材料科学特論演習	2	飯島 志行	○		
ED23209	環境材料構造論演習	2	伊藤 暁彦		○	
ED23210	機能性溶液学特論演習	2	荒牧 賢治		○	
ED23212	環境調和材料学演習	2	鈴木 淳史		○	
ED23218	環境構造材料学特論演習	2	多々見 純一		○	
ED23222	循環適合材料学特論演習	2				
ED23224	環境材料解析特論演習	2				
ED23227	環境調和有機合成プロセス学演習	2	跡部 真人		○	
ED23228	ソフトマター物理演習	2	田中 良巳		○	
ED23230	機能性材料科学特論演習	2	飯島 志行		○	
《システムデザイン》						
ED24201	システムモデリング演習	2	森下 信	○		
ED24203	海洋宇宙利用工学演習	2				
ED24205	極限環境システム学特論演習	2	上野 誠也	○		
ED24219	生体システム工学演習	2	白石 俊彦	○		

ED24221	都市自立環境システム演習	2	吉田 聡	○		
ED24227	鉄筋コンクリートの非線形解析演習	2	細田 暁	○		
ED24229	先端環境モデリング学演習	2	山田 貴博	○		
ED24230	トライボロジー特論演習	2	中野 健	○		
ED24231	科学技術ソフトウェア工学演習	2	松井 和己	○		
ED24232	浮体運動の数理モデル特論演習	2	村井 基彦	○		
ED24237	自律航行体制御特論演習	2	樋口 丈浩	○		
ED24210	システムモデリング演習	2	森下 信		○	
ED24212	海洋宇宙利用工学演習	2				
ED24214	極限環境システム学特論演習	2	上野 誠也		○	
ED24220	生体システム工学演習	2	白石 俊彦		○	
ED24224	都市自立環境システム演習	2	吉田 聡		○	
ED24228	鉄筋コンクリートの非線形解析演習	2	細田 暁		○	
ED24233	先端環境モデリング学演習	2	山田 貴博		○	
ED24234	トライボロジー特論演習	2	中野 健		○	
ED24235	科学技術ソフトウェア工学演習	2	松井 和己		○	
ED24236	浮体運動の数理モデル特論演習	2	村井 基彦		○	
ED24238	自律航行体制御特論演習	2	樋口 丈浩		○	

C) 情報メディア環境学専攻

時間割コード	授 業 科 目	単 位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
《情報メディア学》						
ED35202	デジタルドキュメント論演習	2	森 辰則	○		
ED35203	先端人工知能論演習	2	長尾 智晴	○		
ED35204	情報セキュリティデザイン演習	2	松本 勉	○		
ED35205	映像創製論演習	2	富井 尚志	○		
ED35206	複合画像メディア統合学演習	2	後藤 敏行	○		
ED35207	時空間画像処理演習	2	岡嶋 克典	○		
ED35208	ドキュメント処理特論演習	2	田村 直良	○		
ED35212	言語哲学特論演習	2	マーティン ロジャー	○		
ED35231	数理アルゴリズム特論演習	2	四方 順司	○		
ED35233	理論言語学特論演習	2	藤井 友比呂	○		
ED35235	情報システムマネジメント演習	2	吉岡 克成	○		
ED35217	デジタルドキュメント論演習	2	森 辰則		○	
ED35218	先端人工知能論演習	2	長尾 智晴		○	
ED35219	情報セキュリティデザイン演習	2	松本 勉		○	
ED35220	映像創製論演習	2	富井 尚志		○	
ED35221	複合画像メディア統合学演習	2	後藤 敏行		○	
ED35222	時空間画像処理演習	2	岡嶋 克典		○	
ED35223	ドキュメント処理特論演習	2	田村 直良		○	
ED35227	言語哲学特論演習	2	マーティン ロジャー		○	
ED35232	数理アルゴリズム特論演習	2	四方 順司		○	
ED35234	理論言語学特論演習	2	藤井 友比呂		○	
ED35236	情報システムマネジメント演習	2	吉岡 克成		○	
《環境数理解析学》						
ED36201	科学技術ソフトウェア工学演習	2	松井 和己	○		
ED36202	先端環境モデリング学演習	2	山田 貴博	○		
ED36203	ソフトコンピューティング演習	2				
ED36204	物理数値解析演習	2	有光 直子	○		

ED36205	複雑系の数理演習	2			
ED36206	最適化理論演習	2	牛越 惠理佳	○	
ED36207	ダイナミカルシステム学演習	2			
ED36210	離散位相構造学演習	2	根上 生也	○	
ED36211	代数位相構造学演習	2	野間 淳	○	
ED36225	特異性の数理演習	2	西村 尚史	○	
ED36226	離散幾何構造論演習	2	中本 敦浩	○	
ED36227	計算流体力学特論演習	2	白崎 実	○	
ED36231	代数多様体の数理演習	2	原下 秀士	○	
ED36233	可換代数学演習	2	大石 彰		
ED57239	地域社会の情報化とイノベーション事例研究演習	2	額田 順二		
ED36212	科学技術ソフトウェア工学演習	2	松井 和己		○
ED36213	先端環境モデリング学演習	2	山田 貴博		○
ED36214	ソフトコンピューティング演習	2			
ED36215	物理数値解析演習	2	有光 直子		○
ED36216	複雑系の数理演習	2			
ED36217	最適化理論演習	2	牛越 惠理佳		○
ED36218	ダイナミカルシステム学演習	2			
ED36221	離散位相構造学演習	2	根上 生也		○
ED36222	代数位相構造学演習	2	野間 淳		○
ED36228	特異性の数理演習	2	西村 尚史		○
ED36229	離散幾何構造論演習	2	中本 敦浩		○
ED36230	計算流体力学特論演習	2	白崎 実		○
ED36232	代数多様体の数理演習	2	原下 秀士		○
ED36234	可換代数学演習	2	大石 彰		
ED57240	地域社会の情報化とイノベーション事例研究演習	2	額田 順二		

D) 環境イノベーションマネジメント専攻

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期間		備 考
				春	秋	
ED57201	R & D投資論演習	2				
ED57202	革新的技術開発論演習	2	安本 雅典	○		
ED57204	情報技術とイノベーションマネジメント演習	2	竹田 陽子	○		
ED57205	企業内及び企業間技術伝播演習	2	周佐 喜和	○		
ED57206	先端技術と社会倫理演習	2				
ED57207	イノベーションと社会制度分析演習	2	志田 基与師	○		
ED57208	共生社会創生事例研究演習	2	安藤 孝敏	○		
ED57209	情報文化イノベーション論演習	2	室井 尚	○		
ED57211	環境イノベーション思想史演習	2	長谷部 英一	○		
ED57212	意識環境と認識の変容演習	2	宮崎 隆	○		
ED57213	創成的環境戦略論演習	2				
ED57214	持続型社会と技術評価論演習	2	本藤 祐樹	○		
ED57215	ハイテクベンチャー創出論演習	2	吉村 哲哉	○		
ED57235	環境資源戦略論演習	2	鳴海 大典	○		
ED57237	持続性指標と低炭素システム設計演習	2	工藤 祐揮	○		
ED57241	地域イノベーション政策論演習	2	遠藤 聡	○		
ED57243	脳科学的環境情報共有論演習	2	萩原 一平	○		
ED50201	環境リスク社会論事例研究演習	2	周佐 喜和 益永 茂樹		○	隔年開講 重複履修不可

			岡 泰資			
ED57218	R & D投資論演習	2				
ED57219	革新的技術開発論演習	2	安本 雅典		○	
ED57221	情報技術とイノベーションマネジメント演習	2	竹田 陽子		○	
ED57222	企業内及び企業間技術伝播演習	2	周佐 喜和		○	
ED57223	先端技術と社会倫理演習	2				
ED57224	イノベーションと社会制度分析演習	2	志田 基与師		○	
ED57225	共生社会創生事例研究演習	2	安藤 孝敏		○	
ED57226	情報文化イノベーション論演習	2	室井 尚		○	
ED57228	環境イノベーション思想史演習	2	長谷部 英一		○	
ED57229	意識環境と認識の変容演習	2	宮崎 隆		○	
ED57230	創成的環境戦略論演習	2				
ED57231	持続型社会と技術評価論演習	2	本藤 祐樹		○	
ED57232	ハイテクベンチャー創出論演習	2	吉村 哲哉		○	
ED57236	環境資源戦略論演習	2	鳴海 大典		○	
ED57238	持続性指標と低炭素システム設計演習	2	工藤 祐揮		○	
ED57242	地域イノベーション政策論演習	2	遠藤 聡		○	
ED57244	脳科学的環境情報共有論演習	2	萩原 一平		○	

E) 環境リスクマネジメント専攻

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期 間		備 考
				春	秋	
《生命環境マネジメント》						
ED68201	リスク社会と法制度演習	2	及川 敬貴	○		
ED68202	外来生物マネジメント論演習	2	小池 文人	○		
ED68203	共生系の物質循環と生態リスク演習	2	金子 信博	○		
ED68204	生態リスクマネジメント事例研究演習	2	松田 裕之	○		
ED68206	化学物質の環境安全性評価とマネジメント技術演習	2	亀屋 隆志	○		
ED68208	化学物質のリスク解析事例研究演習	2	益永 茂樹	○		
ED68209	環境対策技術と環境負荷演習	2	藤江 幸一	○		
ED68210	環境健康リスクマネジメント論演習	2	中井 里史	○		
ED68211	生活環境リスク情報発信論演習	2	大矢 勝	○		
ED68212	循環型社会創造論演習	2	倉持 秀敏	○		
ED68229	リスクコミュニケーション特論演習	2	竹田 宜人	○		
ED68214	リスク社会と法制度演習	2	及川 敬貴		○	
ED68215	外来生物マネジメント論演習	2	小池 文人		○	
ED68216	共生系の物質循環と生態リスク演習	2	金子 信博		○	
ED68217	生態リスクマネジメント事例研究演習	2	松田 裕之		○	
ED68219	化学物質の環境安全性評価とマネジメント技術演習	2	亀屋 隆志		○	
ED68221	化学物質のリスク解析事例研究演習	2	益永 茂樹		○	
ED68222	環境対策技術と環境負荷演習	2	藤江 幸一		○	
ED68223	環境健康リスクマネジメント論演習	2	中井 里史		○	
ED68224	生活環境リスク情報発信論演習	2	大矢 勝		○	
ED68225	循環型社会創造論演習	2	倉持 秀敏		○	
ED68230	リスクコミュニケーション特論演習	2	竹田 宜人		○	
ED50201	環境リスク社会論事例研究演習	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資		○	隔年開講 重複履修不可
《セイフティマネジメント》						
ED69202	産業災害のリスクリテラシー演習	2	大谷 英雄	○		
ED69203	化学物質の有害性・危険性情報論演習	2	小林 剛	○		

ED69205	防火対策とリスクアセスメント演習	2	岡 泰資	○		
ED69207	設備検査と事故原因解析事例研究演習	2	笠井 尚哉	○		
ED69208	安全・環境調和都市管理学演習	2	佐土原 聡	○		
ED69210	地震防災論演習	2	畑山 健	○		
ED69211	リスクマネジメントシステム構築論演習	2	野口 和彦	○		
ED69223	機械システム安全管理論演習	2	澁谷 忠弘	○		
ED69224	プロセスシステムリスク論演習	2	熊崎 美枝子	○		
ED69225	環境調和型電気化学システム開発特論演習	2	松宮 正彦	○		
ED69229	技術システムリスク管理論演習	2	三宅 淳巳	○		
ED69213	産業災害のリスクリテラシー演習	2	大谷 英雄		○	
ED69214	化学物質の有害性・危険性情報論演習	2	小林 剛		○	
ED69216	防火対策とリスクアセスメント演習	2	岡 泰資		○	
ED69218	設備検査と事故原因解析事例研究演習	2	笠井 尚哉		○	
ED69219	安全・環境調和都市管理学演習	2	佐土原 聡		○	
ED69221	地震防災論演習	2	畑山 健		○	
ED69222	リスクマネジメントシステム構築論演習	2	野口 和彦		○	
ED69226	機械システム安全管理論演習	2	澁谷 忠弘		○	
ED69227	プロセスシステムリスク論演習	2	熊崎 美枝子		○	
ED69228	環境調和型電気化学システム開発特論演習	2	松宮 正彦		○	
ED69230	技術システムリスク管理論演習	2	三宅 淳巳		○	
ED50201	環境リスク社会論事例研究演習	2	周佐 喜和 益永 茂樹 岡 泰資		○	隔年開講 重複履修不可

(ウ) ワークショップ・フィールドワーク・実験

時間割コード	授 業 科 目	単位	担当教員	期 間		備 考	
				春	秋		
ED10313	地球科学ワークショップDC1-I	1	石川正弘, 間嶋隆一, 菊池知彦, 和仁良二, 小平秀一, 下出信次, 山本伸次	○		1年次用 注1	
ED10314	地球科学ワークショップDC1-II	1			○		
ED10315	地球科学ワークショップDC2-I	1	酒井暁子, 森章, 中森 泰三, 佐々木雄大	○		2年次用 注1	
ED10316	地球科学ワークショップDC2-II	1			○		
ED10317	生態学ワークショップDC1-I	1	平塚和之, 中村達夫, 松本真哉, 大谷裕之, 尾形信一, 本田清, 雨宮隆, 澁谷睦生	○		1年次用 注1 クォーター	
ED10318	生態学ワークショップDC1-II	1			○		
ED10319	生態学ワークショップDC2-I	1			○		2年次用 注1 クォーター
ED10320	生態学ワークショップDC2-II	1			○		
ED10321	生命科学ワークショップDC1-I	1	環境システム学 専攻全教員	○		1年次用 注1	
ED10322	生命科学ワークショップDC1-II	1			○		
ED10323	生命科学ワークショップDC2-I	1			○		2年次用 注1
ED10324	生命科学ワークショップDC2-II	1			○		
ED20302	環境システム学ワークショップ・演習	1	情報メディア環 境学専攻全教員	○			
ED20303	環境システム学ワークショップ・演習	1			○		
ED30302	情報メディアコロキウムII	1	環境イノベーション マネジメント	★			
ED30303	情報メディアコロキウムII	1			★		
ED50303	環境イノベーションマネジメントワークショップDC1-I	1		○		1年次用	

ED50304	環境イノベーションマネジメントワークショップ DC1-II	1	専攻全教員		○	
ED50305	環境イノベーションマネジメントワークショップ DC2-I	1			○	2年次用 注2
ED50306	環境イノベーションマネジメントワークショップ DC2-II	1			○	
ED60301	環境リスクマネジメントワークショップII	1	環境リスクマネジメント専攻全教員	○		
ED60302	環境リスクマネジメントワークショップII	1			○	
	フィールドワークII A	1		○		
	フィールドワークII B	1			○	
	インターンシップII A	1		○		注3
	インターンシップII B	1			○	注3

注1) 旧・環境生命学ワークショップI～IVと重複履修不可です。

注2) 1年次にワークショップの単位が修了要件に満たない学生、あるいは、「ワークショップ・フィールドワーク・実験」科目における修了要件の最小単位数を超えて履修を希望する学生が対象です。なお、2年次以降の学生が、本ワークショップにおいて博士論文の中間報告を行うために、DC2-I、DC2-IIを履修登録する必要はありません。

注3) 専攻または研究内容に関係した水準で、企業等の大学外の機関での実務経験を伴うインターンシップを対象として単位認定をします。(単位認定に値するかは、各専攻の判断によります)
インターンシップを履修するには、事前に「インターンシップ履修登録申請書」を作成し責任指導教員に提出する必要があります。様式は環境情報学府係にてお渡しします。
履修学生は業務日誌を作成し、受入れ先担当者および指導教員の定期的な検印を受けてください。

【注】ワークショップ・フィールドワーク・実験は、必ず所属の専攻で指定する科目(2単位以上)を履修してください。

VI. 社会人学生の履修等に関する特例について

本学府では、入学後も社会人の身分を有する学生(社会人学生)に対して、次のとおり履修等に関する特例を実施しています。

1. 長期履修について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限(前期課程2年、後期課程3年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいいます。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、就学年数に関係なく、標準修業年限(前期課程2年、後期課程3年)分の授業料で修学することができます。

また、入学時に長期履修が認められた学生は、一回を限度に在学期間の変更を申請することができます。ただし標準修了年限未満に短縮することはできません。

手続きを行う時期は、申請は入学手続き時、変更(延長の場合)は当初在学期間満了日の3ヶ月以上前、変更(短縮の場合)は短縮後の論文審査申請時とします。

2. 修学について (博士課程前期の学生のみ対象)

- i. 修学年限(2年)の年数で修了しようとする学生については、初年度においては原則として全日通学とし、修了要件に必要な共通基礎科目、プレレキジット科目及び講義等を履修してください。
- ii. 初年度において修了要件に必要な講義等の履修が困難な学生については、指導教員等(責任指導教員及び指導教員グループ)の指導のもとに、修学年限を超える年数(3~4年)の履修計画書(78~79頁)をあらかじめ提出してください。
なお、履修計画に変更がある場合には、その都度責任指導教員へ履修計画書を提出してください。

3. 履修について

- i. 講義科目については、各専攻・コースごとに一部の科目を夜間開講可能科目として設定しており、事前に授業担当教員に申し出ることにより夜間に履修することができます。夜間開講可能科目については、『V履修基準及び授業科目』を参照してください。
なお、共通基礎科目、プレレキジット科目及び夜間開講可能科目以外の講義科目については、昼間に履修してください。

[注]夜間開講の授業時間

時 限	時 間 帯
5時限	16時15分 ~ 17時45分
6時限	17時50分 ~ 19時20分
7時限	19時25分 ~ 20時55分

- ii. 演習科目については、開講時間について配慮するので指導教員等に相談してください。
- iii. ワークショップ・実験並びにワークショップ・フィールドワーク・実験については、開講時間について配慮するので指導教員等または各専攻・コースの学務委員に相談してください。

VII. 教務関係諸手続

1. 証明書の発行について

- ・ 証明書の発行方法は、証明書自動発行機での発行または大学院環境情報学府係への申請の2通りがあります。それぞれ交付可能な書類が異なりますので下図を参照してください。

i. 発行方法別発行可能証明書の種類、発行日数

受付窓口等	証明書の種類		発行日数
証明書自動発行機	和文	在学証明書 修了見込証明書 成績証明書 学生旅客運賃割引証（学割証）	即日
大学院環境情報学府係	和文	修了証明書 在籍証明書	3日後 (休業日を除く)
	英文	修了証明書 成績証明書 修了見込証明書	

ii. 注意事項

- (ア) 証明書自動発行機での発行の場合
 - 発行時に学生証が必要になります。
 - 設置場所は**学生センター**、**教育人間科学部事務棟**、**経営学部事務棟**、**理工学部事務棟**の4箇所です。
- (イ) 環境情報学府係への申請の場合
 - 環境情報学府係に『証明書交付申請書』がありますので、必要事項を記入の上、提出してください。
 - 発行日数については上記 i) のとおりですので、余裕をもって申請するようにしてください。
 - 受け取り時に、学生証を提示してください。

2. 休学、復学、退学、他大学受験について

i. 休学

- (ア) 病気、その他の事由により休学を希望する場合は、「横浜国立大学休学許可の基準」に従い、休学願(父母等連署)を提出し、学長の許可を得て休学することができます。(事前に大学院環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、休学期間開始日の1ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- (イ) 病気のため、修学が不適当だと認められる学生に対しては、休学を命ずることがあります。(学則第50条を参照。)
- (ウ) 休学を許可され、その休学期間が満了してもなお、その理由が消滅しない学生は、さらに期間の延長を願い出ることができます。(期間を延長する場合は、あらかじめ大学院環境情報学府係に申し出て用紙の交付を受け、休学期間満了日の1ヶ月程度前に延長の手続を行ってください。)
- (エ) 休学期間は、在学期間に算入されません。
- (オ) 休学期間は、通算して前期課程にあつては2年、後期課程にあつては3年を超えることができません。

《参考》

横浜国立大学休学許可の基準(最近改正 平成27年12月16日)

第1 横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第50条第4項の規定に基づく休学の許可は、次の各号のいずれかに該当し、引き続き3か月以上欠席を要する者について許可するものとする。

- (1) 本人の疾病又は負傷のとき。(医師の診断書を必要とする。)
- (2) 本人の出産又は本人の子(法律上の養子を含む。)が3歳に達する日を限度として育児に従事するとき。(出産に関する医師の診断書等を必要とする。)
- (3) 学費の支弁が困難なとき。(理由書及び事実を証明する書類を必要とする。)

- (4) 世帯主その他の死亡等により一時的に家業に従事するとき。(理由書及びそれを証明する書類を必要とする。)
- (5) 家族を看病又は介護するとき。(看病については理由書及びそれを証明する医師の診断書を必要とする。介護については理由書及び証明書を必要とする。)
- (6) 勤務の都合のとき。(勤務先の証明書を必要とする。)
- (7) 外国の大学、短期大学又は大学院で学修することが教育上有益と認められたとき。(学修先の大学、短期大学又は大学院について証明する書類及び学修内容の書類を必要とする。)
- (8) その他教授会においてやむを得ない理由があると認めたとき。(理由を証明する書類を必要とする。)

第2 学則第51条第2項及び横浜国立大学大学院学則第22条第3項に規程する理由は、前項第2号に限るものとする。

ii. 復学

- ① 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。(事前に大学院環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、復学日の1ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 復学した学生は、復学の際に月割計算によるその期の授業料を納入しなければなりません。

iii. 退学

- ① 退学しようとする学生は、退学願(父母等連署)に詳細な理由書を添えて願い出て、学長の許可を得て退学することができます。(事前に大学院環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、退学日の1ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 退学する場合は、その期の授業料を納入していなければなりません。
- ③ 退学する学生は、学生証等を返納しなければなりません。

iv. 他大学受験

- ① 他大学を受験しようとする学生(博士課程前期では1年次、博士課程後期では1・2年次のみ)は、他大学受験願を提出し、環境情報学府長の許可を得て他大学を受験することができます。(事前に大学院環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、受験日の1ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 他大学受験許可書の発行については、申請をしてから約1ヶ月程度かかるので、余裕を持って申請してください。
- ③ 他大学受験に合格した場合は、速やかに退学の手続きをとってください。

3. 諸届出について

i. 学務・国際部教務課への届出書類

手続書類	期間・期限	添付書類	備考
父母等連絡人変更届	事由が発生したとき		75頁参照
父母等連絡人住所変更届	事由が発生したとき		75頁参照
転籍・改姓及び改名届	事由が発生したとき	戸籍抄本	76頁参照
旧姓使用・旧姓併記届	事由が発生したとき	戸籍抄本	76頁参照
学生住所変更届	事由が発生したとき		77頁参照
本籍変更届	事由が発生したとき		77頁参照

ii. 大学院環境情報学府係への届出書類

・海外渡航届

本学の学生が海外渡航を行う場合(外国人留学生で、一時帰国をする場合も含む)、「海外渡航届」を必ず提出してください。渡航先で重大な災害・事件・事故が起きた場合に安否確認を行う必要があるた

めです。

原則として渡航する1週間前までに提出してください。

※書式は環境情報学府 HP よりダウンロードできます。

URL : <http://www.kankyo-jimu.ynu.ac.jp/gakugai/kankyo/shosiki.html>

4. 修了後の諸証明書の交付手続について

郵送と窓口の2つの方法で申請ができます。また、証明書は原則として本人にしか交付いたしません。やむを得ず代理人が交付を申請する場合には、本人からの「委任状」(様式任意)および代理人の身分証明書を添付してください。申請書の様式は横浜国立大学 HP からダウンロードすることができます。

URL : <http://www.ynu.ac.jp/campus/procedure/certificate.html>

i. 郵送申請方法

- ① 「身分証明書の写し」、「申請書」及び「返信用封筒」を大学院環境情報学府係宛てに郵送してください。
- ② 返信用封筒には、住所、氏名を記入し、必要額の切手を貼り付けてください。(切手の金額については、あらかじめ大学院環境情報学府係へお問い合わせください。)
- ③ 証明書の発送日は、申請書類受領から3日後といたします。

ii. 窓口申請方法

大学院環境情報学府係窓口にお越しいただき、「証明書交付申請書」に必要事項を記入の上、申請してください。交付は申請から3日後といたします。また、受け取りの際には本人確認のため、身分証明書をご持参ください。代理の方がお越しになる場合には、委任状(様式任意)・身分証明書(申請者分・代理人分)の両方)が別途必要になります。

VIII. 教育職員免許状の取得について

- ・ 所要の基礎資格(下表参照)を有する者は、その取得している免許状の種類及び免許教科に該当する必要な単位(免許法上)を修得することによって、対応する次の免許状の取得資格が得られます。
 - ・ 免許状の取得に必要な単位(24単位)は、表の科目を履修することによって修得できます。
- ◇平成27年度以降の入学者は、同一の演習を4単位まで必要単位に計算できます。

平成18年度以降入学者適用表

設置専攻	環境生命学専攻	設置専攻	環境システム学専攻	設置専攻	情報メディア環境学専攻
基礎資格	中学校教諭1種(理科) 高等学校教諭1種(理科)	基礎資格	高等学校教諭1種(工業)	基礎資格	高等学校教諭1種(情報)
取得できる 免許状と教科	中学校教諭専修免許状(理科) 高等学校教諭専修免許状(理科)	取得できる 免許状と教科	高等学校教諭専修免許状(工業)	取得できる 免許状と教科	高等学校教諭専修免許状(情報)
教科専門科目		教科専門科目		教科専門科目	
教員名	科目	教員名	科目	教員名	科目
本田 清 平塚 和之 森 章 菊池 知彦 間嶋 隆一 雨宮 隆 松本 真哉 大谷 裕之 中森 泰三 和仁 良二 中村 達夫 尾形 信一 下出 信次 石川 正弘 酒井 暁子 山本 伸次 佐々木雄大	生命システム化学 植物遺伝子工学 陸域生態系管理学 海洋生物多様性学 海洋古環境学 物質・生命と複雑系 材料化学のための結晶学 生命と超分子化学 生物多様性科学 古生態学 植物環境応答論 植物遺伝子機能学 海洋生物環境学 地圏テクニクス 環境保全論 地球システム論 生態系評価学	伊藤 暁彦 伊藤 暁彦 荒牧 賢治 荒牧 賢治 鈴木 淳史 鈴木 淳史 中野 健 中野 健 多々見 純一 多々見 純一 森下 信 森下 信 樋口 丈浩 樋口 丈浩 上野 誠也 上野 誠也 村井 基彦 村井 基彦 白石 俊彦 白石 俊彦 跡部 真人 跡部 真人 田中 良巳 田中 良巳	環境材料学 環境材料学演習 機能性溶液学 機能性溶液学演習 自律環境応答材料 自律環境応答材料演習 非線形力学特論 非線形力学特論演習 構造材料科学 構造材料科学演習 調和システム学 調和システム学演習 空間利用工学 空間利用工学演習 極限環境システム論 極限環境システム論演習 浮体運動の数理モデル論 浮体運動の数理モデル論演習 インテリジェント構造システム学 インテリジェント構造システム学演習 有機電子移動化学特論 有機電子移動化学特論演習 材料物理学 材料物理学演習	田村 直良 森 辰則 森 辰則 長尾 智晴 長尾 智晴 松本 勉 松本 勉 富井 尚志 富井 尚志 後藤 敏行 後藤 敏行 岡嶋 克典 岡嶋 克典 田村 直良 田村 直良 マーティン マーティン 藤井 友比呂 藤井 友比呂 吉岡 克成 吉岡 克成	モデリングとシミュレーション※0 言語情報処理原論 言語情報処理原論演習 知能情報処理論 知能情報処理論演習 暗号と情報セキュリティ 暗号と情報セキュリティ演習 映像データベース論 映像データベース論演習 視覚情報システム論 視覚情報システム論演習 3次元画像表現 3次元画像表現演習 言語とコンパイラ 言語とコンパイラ演習 数理言語学 数理言語学演習 理論言語学 理論言語学演習 コンピュータネットワークアーキテクチャ コンピュータネットワークアーキテクチャ演習

		山田 貴博 山田 貴博 松井 和己 松井 和己 飯島 志行 飯島 志行	シミュレーション数理 シミュレーション数理演習 数理解析モデリング 数理解析モデリング演習 機能性材料科学 機能性材料科学演習		
設置専攻	情報メディア環境学専攻	設置専攻	環境イノベーションマネジメント専攻	設置専攻	環境リスクマネジメント専攻
基礎資格	中学校教諭1種(数学) 高等学校教諭1種(数学)	基礎資格	中学校教諭1種(社会) 高等学校教諭1種(公民)	基礎資格	中学校教諭1種(理科) 高等学校教諭1種(理科)
取得できる 免許状と教科	中学校教諭専修免許状(数学) 高等学校教諭専修免許状(数学)	取得できる 免許状と教科	中学校教諭専修免許状(社会) 高等学校教諭専修免許状(公民)	取得できる 免許状と教科	中学校教諭専修免許状(理科) 高等学校教諭専修免許状(理科)
教科専門科目		教科専門科目		教科専門科目	
教員名	科目	教員名	科目	教員名	科目
有光 直子 有光 直子 牛越恵理佳 根上 生也 根上 生也 野間 淳 野間 淳 四方 順司 四方 順司 原下 秀士 原下 秀士 西村 尚史 西村 尚史 中本 敦浩 中本 敦浩 白崎 実 白崎 実	応用数値解析 応用数値解析演習 解析学特論 解析学特論演習 空間とトポロジー 空間とトポロジー演習 情報代数学 情報代数学演習 数値アルゴリズム基礎論 数値アルゴリズム基礎論演習 整数論の基礎 整数論の基礎演習 特異性の幾何学 ※1 特異性の幾何学演習 ※1 組合せの数理 ※1 組合せの数理演習 ※1 計算流体力学概論 ※1 計算流体力学概論演習 ※1	周佐 喜和 鳴海 大典 志田 基与師 遠藤 聡 周佐 喜和 竹田 陽子 宮崎 隆 宮崎 隆 宮崎 隆 長谷部 英一 安藤 孝敏 萩原 一平	技術マネジメント論※0 イノベーションと環境マネジメント イノベーション政策論 イノベーションと社会的合意形成 地域イノベーション論 イノベーション組織論 情報技術と経営戦略 環境と認識A 環境と認識B 環境と認識C イノベーション思想史 共生社会創生論 環境コミュニケーションと脳科学	熊崎 美枝子 澁谷 忠弘 笠井 尚哉 大谷 英雄 大矢 勝 松宮 正彦 益永 茂樹 金子 信博 中井 里史 松田 裕之 岡 泰資 亀屋 隆志 小林 剛 小池 文人 倉持 秀敏 菊池 知彦 畑山 健	化学反応プロセスのリスク表と制御技術 機械システムのリスク評価と制御技術 設備検査と事故原因解析 化学物質のセーフティマネジメント 生活者のための環境リスク情報の評価 環境リスク評価のための電気化学解析論 化学物質の環境動態とリスクモデル 土壌生態系リスクマネジメント 環境疫学・健康リスク評価方法論 生態リスクマネジメント理論 火災の科学と防火技術 資源循環・廃棄物リスクマネジメント 化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用 植物個体群・群集マネジメント 地球環境保全と循環型社会形成技術 海洋生物多様性学 地震リスク評価学

※0：共通基礎科目

※1：平成19年度以降の開講科目適用

最新の科目一覧については後日掲示等にてお知らせします。

Ⅸ. 大学院学則・学位規則・学府規則

1. 横浜国立大学大学院学則

(平成16年4月1日規則第202号)

最近改正 平成27年2月19日規則第9号

第1章 総則

(目的)

第1条 横浜国立大学大学院(以下「大学院」という。)は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 自己評価等については、横浜国立大学学則(以下「大学学則」という。)第2条の規定を準用する。

2 法科大学院(第3条第4項及び第4条第2項の表に規定する専門職学位課程の国際社会科学府法曹実務専攻をいう。以下「専門職学位課程(法科大学院)」という。)にあつては、前項に規定するもののほか、教育課程、教員組織その他教育研究活動の状況について、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

(教育研究活動等の状況の公表)

第2条の2 教育研究活動等の状況の公表については、大学学則第2条の2の規定を準用する。

(課程)

第3条 大学院に修士課程、博士課程及び専門職学位課程(法科大学院)を置く。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

3 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

4 専門職学位課程(法科大学院)は、高度の専門性が求められる法曹を担うための深い学識及び卓越した能力を養うものとする。

(研究科、学府及び研究院)

第4条 大学院の研究科及び学府に専攻を置く。

2 大学院に置く研究科、学府、専攻及び課程は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科・学府名	専攻名	課程
教育学研究科	教育実践専攻	修士
国際社会科学府	経済学専攻 経営学専攻 国際経済法学専攻	博士
	法曹実務専攻	専門職学位 (法科大学院)
工学府	機能発現工学専攻 システム統合工学専攻 物理情報工学専攻	博士
環境情報学府	環境生命学専攻 環境システム学専攻 情報メディア環境学専攻 環境イノベーションマネジメント専攻 環境リスクマネジメント専攻	博士
都市イノベーション学府	建築都市文化専攻 都市地域社会専攻	博士 (前期)
	都市イノベーション専攻	博士 (後期)

3 博士課程は、前期2年の課程（以下「博士課程前期」という。）及び後期3年の課程（以下「博士課程後期」という。）に区分し、博士課程前期は修士課程として取り扱うものとする。

4 大学院に次の研究院を置く。

国際社会科学研究院、工学研究院、環境情報研究院、都市イノベーション研究院

5 研究科の専攻及び研究院に置く組織は、別に定める。

（教育研究上の目的）

第4条の2 大学院に置く研究科及び学府並びに専攻ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表第4に掲げるとおりとする。

（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科の教育研究の実施）

第5条 東京学芸大学大学院の連合学校教育学研究科の教育研究の実施にあたっては、横浜国立大学、東京学芸大学、埼玉大学及び千葉大学の協力により実施するものとする。

2 前項の連合学校教育学研究科に置かれる連合講座は、東京学芸大学、埼玉大学及び千葉大学の教育学部の教員とともに、本学教育人間科学部の教員がこれを担当し、又は分担するものとする。

（収容定員）

第6条 収容定員は、別表第1のとおりとする。

（修業年限及び在学期間）

第7条 修士課程の標準修業年限は、2年とする。

2 博士課程前期の標準修業年限は2年とし、博士課程後期の標準修業年限は3年とする。

3 前2項の規定にかかわらず、修士課程又は博士課程前期においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合は、研究科又は学府の専攻に置く学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。

4 専門職学位課程（法科大学院）の標準修業年限は、3年とする。

5 修士課程又は博士課程前期には4年（教育学研究科において第10条に規定する教育方法の特例を適用する者は6年）、博士課程後期には6年を超えて在学することができない。

6 専門職学位課程（法科大学院）には6年を超えて在学することができない。あわせて当該年次に2年を超えて在学することができない。

（学年、学期及び休業日）

第8条 大学院の学年、学期及び休業日については、大学学則の規定を準用する。ただし、学期及び休業日については、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、大学学則の規定にかかわらず、学長が別に定める。

第2章 教育課程

（教育課程の編成方針）

第8条の2 大学院は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに学位論文（第18条第1項及び第2項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。）の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

（専攻横断教育プログラム）

第8条の3 研究科及び各学府は、学生が所属する研究科及び学府又は専攻を横断する融合分野又は特定課題に関する体系的な教育プログラム（次項において「専攻横断教育プログラム」という。）を置くことができる。

2 専攻横断教育プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

（副専攻プログラム）

第8条の4 研究科及び各学府並びに国立大学法人横浜国立大学組織運営規則（第20条第3項において「組織運営規則」という。）第18条に規定する全学教育研究施設は、研究科及び各学府が編成する教育課程のほか、学生が

所属する研究科及び学府又は専攻に係る分野以外の特定分野又は特定課題に関する体系的な学習プログラム（以下「副専攻プログラム」という。）を置くことができる。

- 2 副専攻プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

（教育方法）

第9条 大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

- 2 教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより、他の大学院又は研究所等との協議の上、学生が当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程又は博士課程前期の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。
- 3 授業の方法については、大学学則第38条の規定を準用する。

（教育方法の特例）

第10条 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認める場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（授業科目、単位、成績評価基準等の明示等）

第11条 次に掲げる事項については、研究科又は各学府において定め、学生に対してあらかじめ明示するものとする。

- (1) 授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画
- (2) 授業科目の単位数及び1単位あたりの授業時間数
- 2 研究科又は各学府は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。
- 3 履修した授業科目の単位の認定は、筆記試験、口頭試験、実技試験又は研究報告により行う。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第11条の2 大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（履修方法）

第12条 学生は、研究科又は各学府の定めるところにより、それぞれの専攻における所要の授業科目について、所定の単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出してその審査並びに最終試験に合格（第18条第3項に規定する博士論文研究基礎力に関する試験及び審査を適用する場合は除く。）しなければならない。

- 2 前項において、教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより、他の大学院との協議の上、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。
- 3 前項の規定により、修得した単位は、認定の上10単位を超えない範囲で大学院で修得したものとみなすことができる。
- 4 前2項の規定は、学生が、外国の大学院が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程における授業科目を我が国において履修する場合及び国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の教育課程における授業科目を履修する場合について準用する。

（休学期間中の外国の大学院における授業科目の履修）

第12条の2 教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、当該教授会の議を経て、大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、前条第3項（第23条の規定により準用する場合を含む。）の規定により修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて10単位を超えないものとする。
（入学前の既修得単位の認定）

第13条 大学院に入学した者が、入学する前に大学院（他の大学院及び外国の大学院を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を有する場合、教育上有益と認めるときは、当該教授会の議を経て、単位を与えることができる。

- 2 前項の規定により、与えることのできる単位数は、転入学の場合を除き、本学の大学院で修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

（長期にわたる課程の履修）

第14条 研究科及び各学府は、別に定めるところにより、学生が職業を有している等の事情により、第7条第1項及び第2項に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

（授業科目の成績）

第15条 授業科目の成績は、秀、優、良、可及び不可の5種の評語で表し、それぞれの評価に対して別に定めるところによりGP(Grade Point)を与える。

- 2 GPの利用については、研究科又は各学府において別に定める。

（単位の授与）

第16条 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀、優、良及び可を取得した学生には、所定の単位を与える。

（法科大学院の教育方法等）

第17条 専門職学位課程（法科大学院）の教育方法等については、別に定める。

第3章 課程の修了及び学位の授与

（修了要件）

第18条 修士課程及び博士課程前期の修了要件は、当該課程に2年（1年以上2年未満の標準修業年限を定める研究科又は学府の専攻に置く学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限）以上在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士課程前期の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第14条の規定により長期にわたる課程の履修を認められた者の修士課程及び博士課程前期の修了要件は、当該履修期間在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士課程前期の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。

- 3 第4条の2本文及び別表第4に掲げる博士課程前期及び博士課程後期を通じて一貫した教育研究上の目的を有する場合の博士課程前期の修了要件は、前2項に規定する修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することに代えて、当該課程が定める博士論文研究基礎力に関する試験及び審査に合格することとすることができる。

- 4 博士課程後期の修了要件は、当該課程に3年（専門職学位課程（法科大学院）を修了した者にあつては2年）以上在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 5 第1項の規定に基づき、標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士課程前期を修了した者（他の大学院の在学期間を含む。）の博士課程後期の修了要件は、前項ただし書中「当該課程に1年以上」とあるのは「3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間以上」と読み替えて適用する。
- 6 第1項ただし書の規定に基づき、優れた研究業績により1年以上の在学期間をもって修士課程又は博士課程前期を修了した者（他の大学院の在学期間を含む。）の博士課程後期の修了要件は、第4項ただし書中「当該課程に1年以上」とあるのは「3年から修士課程又は博士課程前期における在学期間（2年を限度とする。）を減じた期間以上」と読み替えて適用する。
- 7 前3項の規定にかかわらず、第14条の規定により長期にわたる課程の履修を認められた者の博士課程後期の修了要件は、当該履修期間在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- 8 専門職学位課程（法科大学院）の修了要件については、別に定める。

（学位）

第19条 修士課程、博士課程又は専門職学位課程（法科大学院）を修了した者には、修士の学位、博士の学位又は専門職学位を授与する。

- 2 学位に関する規則は、別に定める。

（教員の免許状授与の所要資格の取得）

第20条 教育職員の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 研究科又は各学府において取得できる教育職員の免許状の種類は、別表第2のとおりとする。
- 3 教育職員の免許状授与の所要資格の取得に当たっては、組織運営規則第16条に規定する教育人間科学部附属教育デザインセンターとの連携協力により行うものとする。

第4章 入学、休学、転学及び退学等

（入学資格）

第21条 修士課程、博士課程前期又は専門職学位課程（法科大学院）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学（以下この項において「大学」という。）卒業者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 大学に3年以上在学した者であって、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (9) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者であって、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (10) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (11) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、

文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの

(12) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であつて、当該者をその後に入学者とする大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(13) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

2 博士課程後期に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 修士の学位又は専門職学位を有する者

(2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

(6) 大学院において、外国の大学院、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

(入学、再入学、編入学、転入学、休学、復学、転研究科・学府、転専攻、転学及び退学)

第22条 入学、再入学、編入学、転入学、休学、復学、転研究科・学府、転専攻、転学及び退学については、大学学則の規定を準用する。この場合において、「転学部」とあるのは「転研究科・学府」と、「転科」とあるのは「転専攻」と読み替えるものとする。

2 入学、再入学、編入学及び転入学の時期は、4月又は10月とする。

3 第1項の場合において、休学期間は、別に定める理由を除き、通算して修士課程又は博士課程前期にあつては2年、博士課程後期又は専門職学位課程（法科大学院）にあつては3年を超えることはできない。

4 休学期間は、在学期間に算入しない。

(留学)

第23条 外国の大学院に留学を志望する者は、研究科長又は学府長を経て学長に願い出てその許可を受けなければならない。

2 第9条第2項の規定にあつては、外国の大学院又は研究所等に、第12条第2項及び第3項の規定にあつては、外国の大学院に留学する場合に準用する。

3 留学をした期間は、在学期間に算入する。

第5章 除籍、表彰及び懲戒

(除籍、表彰及び懲戒)

第24条 除籍、表彰及び懲戒については、大学学則の規定を準用する。ただし、第8条ただし書の規定により学期を別に定める場合は、大学学則第57条第2項中「春学期」とあるのは「4月から9月までの期」と、「秋学期」とあるのは「10月から翌年3月までの期」と読み替えるものとする。

第6章 検定料、入学料及び授業料

(検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額)

第25条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、別表第3のとおりとする。ただし、特別聴講学生、特別研究学生、科目等履修生、研究生及び聴講生の検定料、入学料及び授業料は、別に定める。

(既納の授業料等)

第 26 条 既納の検定料、入学料、授業料及び寄宿料は、返還しない。

2 専門職学位課程（法科大学院）の入学者選抜において、出願書類等による選抜（以下「第 1 段階目の選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下この項において「第 2 段階目の選抜」という。）を行った場合については、前項の規定にかかわらず、第 1 段階目の選抜で不合格になった者に対しては、当該検定料を納付した者の申出により、別表第 3 に定める第 2 段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。

第 27 条 本章に定めるもののほか、検定料、入学料、授業料及び寄宿料の徴収等並びに徴収猶予、免除については、大学学則第 72 条、第 73 条第 3 項、第 74 条及び第 75 条の規定を準用する。ただし、第 8 条ただし書の規定により学期を別に定める場合は、大学学則第 72 条第 1 項中「春学期」とあるのは「4 月から 9 月までの期」と、「秋学期」とあるのは「10 月から翌年 3 月までの期」と読み替え、別表第 3 第 9 項中「秋学期の徴収の時期前に退学する者の授業料の額は、授業料の年額の 2 分の 1 に相当する額（その額に 10 円未満の端数があるときは、これを切り上げる。）とする。」とあるのは「10 月の徴収の時期前に退学する者の授業料の徴収額は、当該学期の定めに応じて別に定める。」と読み替えるものとする。

第 7 章 特別聴講学生、特別研究学生、科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生

(特別聴講学生)

第 28 条 他の大学院又は外国の大学院（以下「他の大学院等」という。）との協議により当該大学院の学生を特別聴講学生として入学を許可し、授業科目を履修させることができる。

2 特別聴講学生に関して必要な事項は、別に定める。

(特別研究学生)

第 29 条 他の大学院等との協議により当該他の大学院等の学生を特別研究学生として入学を許可し、研究指導を受けさせることができる。

2 特別研究学生に関して必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生)

第 30 条 大学院に、科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生の制度を置く。

2 科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

3 科目等履修生、研究生、聴講生及び外国人留学生については、大学学則の規定を準用する。

第 8 章 教員

(教員)

第 31 条 研究科及び各学府の授業及び研究指導は、教授、准教授、講師及び助教が担当する。

附 則

1 この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2 この学則において、大学学則を準用する場合は、「学部」を「研究科又は学府」と、「学部長」を「研究科長又は学府長」と読み替えるものとする。

3 教育学研究科学校教育専攻、保健体育専攻及び学校教育臨床専攻並びに国際社会科学研究科経済関係法専攻並びに国際開発研究科並びに工学研究科は、学則第 4 条の規定にかかわらず、平成 16 年 3 月 31 日に当該専攻又は研究科に在学する者が当該専攻又は研究科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4 前項に規定する教育学研究科の各専攻、国際社会科学研究科経済関係法専攻及び工学研究科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類及び教科は、学則第 20 条別表第 2 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

5 平成 16 年 3 月 31 日に現に大学院に在学する者に係る授業科目の成績及び単位の授与については、学則第 15 条及び第 16 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1(第6条関係)

研究科・学府の名称	専攻の名称	修士課程		博士課程(後期)		専門職学位課程 (法科大学院の課程)	
		博士課程(前期)		収容定員	入学定員	収容定員	入学定員
		人	人	人	人	人	人
教育学研究科	教育実践専攻	200	100				
	計	200	100				
国際社会科学府	経済学専攻	76	38	30	10		
	経営学専攻	100	50	36	12		
	国際経済法学専攻	50	25	24	8		
	法曹実務専攻					75	25
	計	226	113	90	30	75	25
工学府	機能発現工学専攻	198	99	36	12		
	システム統合工学専攻	202	101	39	13		
	物理情報工学専攻	244	122	48	16		
	計	644	322	123	41		
環境情報学府	環境生命学専攻	80	40	36	12		
	環境システム学専攻	80	40	30	10		
	情報メディア環境学専攻	90	45	36	12		
	環境イノベーションマネジメント専攻	22	11	15	5		
	環境リスクマネジメント専攻	74	37	27	9		
	計	346	173	144	48		
都市イノベーション学府	建築都市文化専攻	136	68				
	都市地域社会専攻	74	37				
	都市イノベーション専攻			36	12		
	計	210	105	36	12		
合計		1,626	813	393	131	75	25

別表第2(第20条関係)

研究科・学府	専攻	免許状の種類	教科・特別支援教育領域
教育学研究科	教育実践専攻	小学校教諭専修免許状	
		中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
		高等学校教諭専修免許状	国語、書道、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、保健体育、工業、家庭、英語
		養護教諭専修免許状	
		特別支援学校教諭	知的障害者、肢体不自由者、病弱者

		論専修免許状	
国際社会科学府	経済学専攻	高等学校教諭専修免許状	公民
	経営学専攻	高等学校教諭専修免許状	商業
	国際経済法学専攻	高等学校教諭専修免許状	公民
工学府	機能発現工学専攻	高等学校教諭専修免許状	理科
	システム統合工学専攻	高等学校教諭専修免許状	数学、理科
	物理情報工学専攻	中学校教諭専修免許状	理科
		高等学校教諭専修免許状	理科
環境情報学府	環境生命学専攻	中学校教諭専修免許状	理科
		高等学校教諭専修免許状	理科
	環境システム学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業
	情報メディア環境学専攻	中学校教諭専修免許状	数学
		高等学校教諭専修免許状	情報、数学
	環境イノベーションマネジメント専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	公民
	環境リスクマネジメント専攻	中学校教諭専修免許状	理科
高等学校教諭専修免許状		理科	
都市イノベーション学府	建築都市文化専攻	高等学校教諭専修免許状	工業
	都市地域社会専攻	高等学校教諭専修免許状	工業

別表第3(第25条、第26条関係)

1 検定料及び入学料の額

区分	検定料	入学料
研究科・学府	30,000円	282,000円
専門職学位課程(法科大学院)	30,000円	282,000円

(1) 大学院の研究科・学府の修士課程又は博士課程前期若しくは専門職学位課程(法科大学院)を修了し、引き

続き博士課程後期に進学する者については、検定料及び入学料は徴収しないものとする。

- (2) 相互に検定料及び入学料を徴収しないものとする大学間協定に基づき、当該協定を締結した国立大学の大学院から本学の大学院に転入学を志望する者については、検定料及び入学料は徴収しないものとする。

2 英語による教育で学位を取得できる教育プログラムのうち、学長が定めるものに係る検定料の額は、「1 検定料及び入学料の額」の表にかかわらず、5,000円とする。

3 第26条第2項に規定する専門職学位課程（法科大学院）において2段階選抜を行う場合の検定料の額

区分	第1段階目の選抜に係る額	第2段階目の選抜に係る額
専門職学位課程（法科大学院）	7,000円	23,000円

4 授業料の額

区分	年額
研究科・学府	535,800円
専門職学位課程（法科大学院）	804,000円

5 標準修業年限を越えて計画的に教育課程を履修して修了をすることを認められた者等に係る授業料の額は、大学学則第71条別表第3の5から9の定めを準用する。この場合、「卒業」とあるのを「修了」と、「修業年限」とあるのを「標準修業年限」と読み替えるものとする。

6 寄宿料については、大学学則第71条別表第3の10及び11の定めを準用する。

別表第4(第4条の2関係)

研究科・学府名、専攻名	教育研究上の目的
教育学研究科 教育実践専攻 (修士課程)	(修士課程) 高度化し先進化する教科教育の分野を深く学び、十分な理解と知識に基づいて教育現場で活躍できるとともに、教育理論の原理的追求のみならず、「いじめ・不登校」「校内暴力」「学級崩壊」などの深刻で多様な教育上の諸課題に的確に対応できる臨床的・実践的な知識と能力を兼ね備えた教員を育成することを目的とする。このため、最先端の学問の追求とその教育法に関する最新の専門的教育研究を行い、様々の教育学の理論的な教育研究を行うとともに、今日の多様な教育の諸問題の原因の究明と解決への方策に関する教育研究を行う。
国際社会科学 学府	(博士課程前期) 経済学・経営学・法学の各分野において、グローバル新時代に対応して高度な専門性を養うため、各専攻ではコア科目設置によるコースワークを整備して専門的基礎的能力を高め、あわせて各専攻に共通の「学府共通科目群」を設置することで、融合性と国際性の実践的能力を涵養し、系統的な指導体制で社会系の高度専門実務家を育成することを目的とする。 (博士課程後期) 博士課程前期との一貫的改革を進め、経済学・経営学・法学の各分野において、グローバル新時代に対応して専門性を一層高度化するため、各専攻では高度な専門教育のための講義を配置するとともに、専攻横断型の日本語プログラムと英語プログラムを配置し、融合性と国際性の需要に適切に対応し、博士論文執筆に至る系統的な指導体制の構築により、グローバルな視野を備えた高度専門実務家と研究者を育成することを目的とする。
経済学専 攻	(博士課程前期) グローバル化新時代に突入した現代の経済社会を、経済学によって分析する高度な基礎的専門能力を修得させることを目的とする。そのために、1年次には経済学研究に不可欠なコア科目履修させ、それを基礎により専門的科目を1・2年次に履修するよう科目配置し、確かな基礎力を前提にグローバル新時代に必要な応用力を培う。また、英語プログラムも設置し、日本企業の東アジア・

	<p>東南アジア展開の加速・深化に伴い、国内外でより強まる社会的ニーズに対応しうる人材を養成する。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>現代の経済社会を経済学によって分析する高い能力を有した高度専門家・研究者の養成を行い、組織的な指導体制に基づく大学院教育を実施する。そのために、高度な専門教育を行う講義を配置するとともに、専攻横断型の日本語プログラムと英語プログラムを配置する。それによって、東アジア・東南アジア諸国の経済発展等を背景に高度化する社会的ニーズに対応した高度な能力を有した人材を養成する。</p> <p>(博士論文研究基礎力審査コース (博士課程前期後期一貫博士コース))</p> <p>社会的ニーズに対応した専門能力を持つ人材を、博士課程前期・後期の課程を通じて一貫して養成することを目的とする。本コースでは修士論文の作成に代えて、①経済学のコアとなる分野の基礎的な専門知識の理解を専門科目筆記試験と、②各受験者の専門的研究の展開に関する理解・認識を問う口頭試問との2段階による試験を実施する。</p>
経営学専攻	<p>(博士課程前期)</p> <p>経営学を中心として関連する研究領域の実質的区分に即して、経営学分野、会計学分野、経営システム分野の3領域に区分し、適切かつ多様な研究アプローチが取れる大学院教育を実施し、グローバル化、多様化する現代社会の現状を踏まえて、経営学および関連諸科学の専門知識に基づき分析・検討を行う能力を修得させる。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>経営学を中心として関連する研究領域の実質的区分に即して、経営学分野、会計学分野、経営システム分野の3領域に区分し、各研究領域を明確にするとともに、それら各領域を横断する融合的な教育を実施する。このことにより、グローバル化、多様化する現代社会の現状を踏まえて、経営学および関連諸科学の専門知識に基づく分析・検討から、国際的に活躍できる高度な能力を修得させる。</p> <p>(博士論文研究基礎力審査コース (博士課程前期後期一貫博士コース))</p> <p>修士論文の作成に代えて、①経営学および関連諸科学に属する分野の高度な研究の基礎となる専門知識の理解を問う専門科目筆記試験と、②当該分野における専門的研究の展開能力に関する口頭試問との2段階による試験を実施する。これにより、博士課程前期・後期の課程を通じて一貫した、社会ニーズに対応した専門性をもつ人材養成を行う。</p>
国際経済法学専攻	<p>(博士課程前期)</p> <p>グローバル化した現代の法化社会現象について、法学・政治学に基づき分析を行い、多様かつ高度な学術的研究を背景とした実践的、先端的な専門知識を習得させることを目的とする。さらに、法整備支援、法と公共政策及びインフラストラクチャー管理についての実践的知識の養成を図る。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>グローバル化した現代の法や政治の諸課題を法学によって分析する高度な専門教育を実施し、法学・政治学に基づき分析を行う国際的に通用する高度な能力を身につけた専門家・研究者、実務家を養成することを目的とする。</p> <p>(博士論文研究基礎力審査コース (博士課程前期後期一貫博士コース))</p> <p>修士論文の作成に代えて、①法学・政治学のコアとなる分野の基礎的な専門知識の理解を問う専門科目筆記試験と、②各受験者の専門的研究の展開に関する理解・認識を問う口頭試問の2段階による試験を実施し、社会ニーズに対応した専門性を強化された、博士課程前期・後期の課程を通じて一貫した人材養成を行うことを目的とする。</p>
国際社会科学府法曹実務専攻	<p>(専門職学位課程(法科大学院))</p> <p>実践的な実務法曹の養成教育を中心とし、東アジア・東南アジア等へグローバル化する企業ニーズに対応した実践的な実務教育を念頭に置き、国際性と専門性とを兼ね備えたグローバル人材としての法曹実務家を養成することを目的とする。</p>
工学府	<p>(博士課程前期)</p>

	<p>工学は人類社会の福祉と持続的発展に直接的に寄与する使命を持つ学術分野である。社会からの様々な要請を的確に把握し、地球規模の環境問題などに対処しつつ産業を発展させ、輝ける未来を切り拓くために工学技術者・研究者の果たすべき役割は大きい。そのために、実践的学術の拠点を目指す本学において、工学府博士課程前期では、自らの専門分野における高度の専門能力と高い倫理性を持つとともに、広く他分野の科学技術に目を向ける進取の精神に富む技術者と研究者の育成を目的とする。そのため、基盤的学術に関する幅広い教育を取り入れ、独創的な技術と知の創造を可能にする教育を通じて、自ら課題を探究し、未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下して解決できる、フロンティア精神に富んだ技術者・研究者を育成する。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>工学は人類社会の福祉と持続的発展に直接的に寄与する使命を持つ学術分野である。社会からの様々な要請を的確に把握し、地球規模の環境問題などに対処しつつ新たな産業と学術を開拓して、輝ける未来を切り開くために工学技術者・研究者の果たすべき役割は大きい。そのために、実践的学術の拠点を目指す本学において、工学府博士課程後期では、自らの専門分野における高度の専門能力と高い倫理性を持つとともに、広く他分野の科学技術に目を向け、新たな学術と産業を開拓する高度技術者と研究者のリーダーの育成を目的とする。そのため、基盤的学術の幅広い教育と科学と技術に関する独創的で先進的な研究を通じて、新たな学術と産業の開拓を先導できる創造性豊かな高度技術者・研究者のリーダーを育成する。</p>
機能発現	<p>(博士課程前期)</p> <p>原子の集合体としての分子や固体材料、分子の集合体としての有機材料は、その電子構造及び原子や分子の種類とその配列によって巨視的に現れる機能が大きく変化する。そのため、その構造—機能発現相関を明らかにすることは物質化学の根幹をなす。また物質の持つ化学エネルギーを効率よく利用したり、新素材を効率よく製造するプロセスの確立は、環境負荷を少なくかつ効率的に物質を製造・利用するための最重要課題である。本専攻では、新しい機能を発現する分子・材料の開発、製造や利用プロセスの開発などを通し、より効率的かつ地球環境に配慮して物質を製造・利用する科学技術の教育と研究を行う。</p> <p>TED プログラムでは、特に、基礎研究能力・基礎開発能力の育成を主眼として教育を行う。</p> <p>PED プログラムでは、特に、物質ならびにその創製法を設計し評価する能力、基礎知識を総合して応用技術を構築する能力の育成を主眼として教育を行う。</p>
工学専攻	<p>(博士課程後期)</p> <p>原子の集合体としての分子や固体材料、分子の集合体としての有機材料は、その電子構造及び原子や分子の種類とその配列によって巨視的に現れる機能が大きく変化する。そのためその構造—機能発現相関を明らかにすることは物質化学の根幹をなす。また物質の持つ化学エネルギーを効率よく利用したり、新素材を効率よく製造するプロセスの確立は、環境負荷を少なくかつ効率的に物質を製造・利用するための最重要課題である。本専攻では、新しい機能を発現する分子・材料の開発、製造や利用プロセスの開発などを通し、より効率的かつ地球環境に配慮して物質を製造・利用する科学技術の教育と研究を行う。</p> <p>TED プログラムでは、機能発現工学に関する高度の研究能力・開発能力を有し、自ら新しい問題を発見し解決する能力、及び成果を国際的に発信できる能力を育成する。これらを通して、自らの知識、経験、技術、洞察力などを総合して新しい研究方向を生み出す力、リーダーとなる能力を育成する。</p> <p>PED プログラムでは、機能発現工学に関する高度の技術的・実務的な能力を有し、新物質及び新プロセスを設計・評価できる能力、及び自ら基礎知識を応用技術に総合する能力を育成する。これらを通して、自らの知識、経験、技術、洞察力などを総合して新しい産業応用展開方向を生み出す力、リーダーとなる能力を育成する。</p>
システム統合工学専攻	<p>(博士課程前期)</p> <p>機械工学、海洋宇宙工学、材料工学は、ミクロな構成要素を組み合わせ、高度なシステムを作り上げる工学である。そのため本専攻では、科学を基礎に置く要素技術、要素の機能を引き出す設計技術、社会や環境との調和を図る生産技術を統合(シンセシス)して高度システムを構築する教育と</p>

	<p>研究を行う。</p> <p>TED プログラムでは、自らの専門分野を探究するに留まらず、広く他の分野の研究と技術に目を向ける能力を開拓する基盤的学問に関する教育を取り入れ、独創的な技術及び科学と技術の開発を可能にする教育と研究を実現する。</p> <p>PED プログラムでは、基礎的知識から実際の機器に関わる技術的諸問題を総合的に学び、即戦力的あるいは実務に適応可能な専門職業人を育成するための教育を行う。</p>
	<p>(博士課程後期)</p> <p>機械工学、海洋宇宙工学、材料工学は、ミクロな構成要素を組み合わせ、高度なシステムを作り上げる工学である。そのため本専攻では、科学を基礎に置く要素技術、要素の機能を引き出す設計技術、社会や環境との調和を図る生産技術を統合(シンセシス)して高度システムを構築する教育と研究を行う。</p> <p>TED プログラムでは、独創的な科学と技術を創造・研究・開発し、新たな学問と技術を主体的に切り開く創造性豊かな発展型開発技術者・研究者を養成する教育と研究を行う。</p> <p>PED プログラムでは、実践的な科学と技術を高度な視点から捕らえ、産業界を牽引して活躍できる、実践に立脚した発展性に富む開発技術者を育成するための教育と研究を行う。</p>
物理情報 工学専攻	<p>(博士課程前期)</p> <p>TED プログラム</p> <p>数学、物理学、情報工学などの基礎学問に基づき、電気、電子、材料、情報通信、コンピュータ応用などの広範な工学分野において、主体的に課題を探究し、広範な視点から総合的かつ柔軟に問題を解決できる高度な技術者・研究者の育成を行う。特定分野の研究を深く行い高度な研究能力を養うと共に、広範囲な基盤的学問教育を行うことにより、幅広い学問産業領域で活躍できる人材を育成する。</p> <p>PED プログラム</p> <p>数学、物理学、情報工学などの基礎学問に基づき、電気、電子、材料、情報通信、コンピュータ応用などの広範な工学分野において、主体的に課題を探究し、広範な視点から総合的かつ柔軟に問題を解決でき、かつ実務的素養を有した高度な技術者の育成を行う。複数の分野において実践的教育を実施し幅広い技術開発能力を養うとともに、広範囲な基盤的学問教育に加えて起業戦略、経営学、知的財産等に関わる実務的教育を行うことにより、高度な産業社会で活躍できる人材を育成する。</p>
	<p>(博士課程後期)</p> <p>TED プログラム</p> <p>数学、物理学、情報工学などの基礎学問に基づき、電気、電子、材料、情報通信、コンピュータ応用などの広範な工学分野において特定分野の研究を深く行い、独創性を持って新たな学問と産業を主体的に切り開くことができる研究能力と学識を有する研究者・技術者の育成を行う。</p> <p>PED プログラム</p> <p>数学、物理学、情報工学などの基礎学問に基づき、電気、電子、材料、情報通信、コンピュータ応用などの広範な工学分野において複数の分野の研究を行い、高度な専門的業務に従事するために必要な研究能力と学識を有する研究者・技術者の育成を行う。</p>
環境情報学府	<p>(博士課程前期)</p> <p>21 世紀の課題である持続的循環型社会の実現には、多面的な環境問題、急速に進展する情報科学、ダイナミックな社会のイノベーション等の分野において専門的知識を修得し、課題解決能力を有する人材が求められている。このため、自然破壊、エネルギー問題、資源・食料・生命問題、情報技術革新などの自然環境、人工環境、情報環境に関わる諸問題の理解と解決方法、及びこれらを支える物質・材料に関する教育研究を推進し、環境・情報・技術革新を適切にマネジメントする理論と方法論を幅広く修得し、高い専門性と見識から実践的問題解決能力を有する研究者・実務家を育成する。</p>
	<p>(博士課程後期)</p> <p>21 世紀の課題である持続的循環型社会の実現には、多面的な環境問題、急速に進展する情報科</p>

	<p>学、ダイナミックな社会のイノベーション等の分野において専門的知識を有し、問題を創造的に探求し、解決に導く能力を有する人材が求められている。このため、自然破壊、エネルギー問題、資源・食料・生命問題、情報技術革新などの自然環境、人工環境、情報環境に関わる諸問題の理解と解決方法、及びこれらを支える物質・材料に関する教育研究を推進し、環境・情報・技術革新を適切にマネジメントする理論と方法論を幅広く修得し、高い専門性と見識に基づいた実践的問題解決能力を有する専門家や研究者を育成する。</p>
環境生命学専攻	<p>(博士課程前期)</p> <p>授業、実験・実習を通して、生命科学、応用化学、生態学、地球科学に関連する課題探求能力を身につけた研究者、実務現場で活躍できる技術者、管理者などの人材育成をする。このため、分子・細胞レベルのミクロな系から、地球・生態系のようなマクロな系まで複雑かつ階層的な地球生命システムを総体的にとらえ、人類にとって将来あるべき地球環境像の実現に向けた方策と技術の教育研究をする。</p>
	<p>(博士課程後期)</p> <p>授業、実験・実習を通して、生命科学、応用化学、生態学、地球科学に関連する分野の課題について深い学識を持ち、地球生命システムにおける問題性の指摘可能な能力や課題探求能力を身につけた研究者、実務現場で活躍できる技術者、管理者などの人材育成をする。このため、分子・細胞レベルのミクロな系から、地球・生態系のようなマクロな系まで複雑かつ階層的な地球生命システムを総体的にとらえ、人類にとって将来あるべき地球環境像の実現に向けた方策と技術の教育研究をする。</p>
環境システム学専攻	<p>(博士課程前期)</p> <p>持続循環型社会の実現に寄与するために、人工物のライフサイクルを視野に入れ、グローバルな問題に対応でき、しかも、実践的・創造的で幅広い政策立案から細かなコンサルティングにまで対応できる高度専門的人材を育成する。このため、デバイス・機械・構造物を形成するマテリアルの物質循環・環境負荷・資源リサイクル、及び人工環境空間・移動体に関する環境調和型システムの形成・維持・管理技術、システムデザイン手法において高度で専門的な理論と方法論を教育研究する。</p>
	<p>(博士課程後期)</p> <p>人工物のライフサイクルを視野に入れ、循環型社会の実現に寄与するために、グローバルな視野に立って、実践的かつ創造的能力を備え幅広い分野に対応でき中核となる人材を育成する。このため、環境に調和した材料・構造・システムの設計・構築・リスク管理と環境マテリアル学を基軸としつつ、政策立案から細かなコンサルティングにまで対応でき、独創的な問題提起と独自の解決能力を教育研究する。</p>
情報メディア環境学専攻	<p>(博士課程前期)</p> <p>情報システムの安全性と情報分析・モデル化を視野に入れた情報システムや情報メディア技術の根幹を支えるシステム開発技術者、設計者、システムアナリストとして活躍できる総合的な目標設定・達成能力を備えた自立的な人材を育成する。このため、環境から情報を取り込み、新しい情報環境を構築するためのソフトウェアや情報処理技術に加え、情報メディアに着目した情報分析・モデル化・表現法、情報システムと人を取り巻く環境の情報セキュリティやコミュニケーション技術、複雑なシステムに対する数理解析手法について教育研究する。</p>
	<p>(博士課程後期)</p> <p>情報システムの安全性と情報分析・モデル化を視野に入れ、新しい情報システム・情報メディア技術を創造する情報システムの研究者、高度応用システムの研究開発者として活躍できる研究創造力と高度の目標設定・達成能力を備えた自立的な人材を育成する。このため、新しい情報環境を構築するためのソフトウェアや情報処理技術に加え、情報メディアに着目した情報の分析・モデル化・表現法、情報システムと人を取り巻く環境の情報セキュリティやコミュニケーション技術、複雑なシステムに対する数理解析手法における高度で専門的な理論と方法論を教育研究する。</p>
環境イノベーション	<p>(博士課程前期)</p> <p>企業や行政及び関連団体においてイノベーションのマネジメント方法を企画立案し、実行できる</p>

<p>マネジメント専攻</p>	<p>専門性と見識を有する人材育成をする。このため、イノベーションについての基本的考え方とその推進戦略、人間環境や社会環境の変化に応じた社会的受容、地球環境との調和などに関する基盤知識と実践的方法論について教育研究する。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>企業や行政及び関連団体においてイノベーションのマネジメント方法を中核的な役割を担って企画立案し、実行できる専門性と見識を有する人材育成をする。このため、イノベーションについての基本的考え方とその推進戦略、人間環境や社会環境の変化に応じた社会的受容、地球環境との調和などに関する基盤知識と実践的方法論について教育研究する。</p>
<p>環境リスクマネジメント専攻</p>	<p>(博士課程前期)</p> <p>企業や行政及び関連団体における自然生態系保全、化学物質のリスク管理、産業安全管理、社会システム安全管理、都市防災等の分野において、中核的役割を担う高い専門性と見識、あるいは研究能力を持つ人材を育成する。このため、環境リスクマネジメントの企画、立案と実行に必要とされる現代社会のリスク構造と社会的要因に関する基礎知識、人や動植物等の生命環境リスク及び産業や都市の事故・災害リスクの評価とマネジメント手法、及びそれらに関する国内外の実態等を教育研究する。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>企業や行政及び関連団体における自然生態系保全、化学物質のリスク管理、産業安全管理、社会システム安全管理、都市防災等の分野において、指導的役割を担う高い専門性と見識、あるいは独創的研究能力を持つ高度専門家や研究者を育成する。このため、環境リスクマネジメントの企画、立案と実行に必要とされる現代社会のリスク構造と社会的要因に関する高度な専門知識、人や動植物等の生命環境リスク及び産業や都市の事故・災害リスクの評価とマネジメント手法、及び国内外の実態等を教育研究する。</p>
<p>都市イノベーション学府</p>	<p>(博士課程前期)</p> <p>建築学、都市計画学、都市基盤学がこれまでに達成した科学技術についての知識と、世界各地の都市について、その問題や都市における文化創造についての知識を持ち、具体的な都市地域でその問題や創造性を提案することができ、それらの知識を新たな都市のイノベーションとして、持続的に実践できる高度職業人を養成する。</p>
<p>建築都市文化専攻</p>	<p>(博士課程前期)</p> <p>日本を代表する都市であり、実験都市とでもいふべき特徴を持つユニークな都市である横浜を教育研究の中心的なフィールドにして、都市をめぐる問題の所在について十全な知識を持ち、スタジオ教育で実践的な能力を養い、都市の将来を担いうる説得力ある空間を提案し、また都市で先進的な芸術活動を持続的に支援する人材を養成する。</p> <p>(建築都市文化コース)</p> <p>建築、都市、文化に関わる諸領域で、それぞれの領域の先端的な研究についての十全な知識を有し、実践的な研究によって、その成果を都市のイノベーションとして成立させ得る人材を養成する。</p> <p>(建築都市デザインコース)</p> <p>徹底したスタジオ教育によって先鋭的な都市と建築の現在を学び、その多様なデザインや可能性を身に付け、その成果を、都市における創造活動に相応しい新たな可能性を持った有効な空間として提案できる人材を養成する。</p> <p>(横浜都市文化コース)</p> <p>文化芸術の力によって都市を再生する方法をスタジオ教育によって身に付け、時代と空間に適した新たな創造活動としての芸術を提案することで、都市のイノベーションを持続的な実践しうる人材を養成する。</p>
<p>都市地域社会専攻</p>	<p>(博士課程前期)</p> <p>日本及び新興・途上国等の都市問題解決や地域社会発展に、中央政府、地方行政、国際協力組織、民間企業、NGO といった組織で、指導的立場から貢献できる人材を養成する。</p> <p>(都市地域社会コース)</p>

	<p>都市問題解決や地域社会の発展のために、土木や地域社会の知識をもって、持続可能で創造的な方法を実践的に提案できる人材を養成する。</p> <p>(国際基盤学コース)</p> <p>スタジオ教育を大幅に採用することで、都市基盤についての有効な知識を、主に新興・途上国の都市の問題の解決のために実践的かつ創造的に活用できる人材を養成する。</p>
都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻	<p>(博士課程後期)</p> <p>建築学、都市計画学、都市基盤学がこれまでに達成した科学技術についての知識と、世界各地の都市について、その問題や都市における文化創造についての知識を併せ持ち、具体的な都市地域でその問題や創造性を実践的に再構築することができ、それらの知識を新たな都市のイノベーションとして、組織できるリーダーになる高度職業人を養成する。</p>

2. 横浜国立大学学位規則

(平成 16 年 4 月 1 日規則第 203 号)

最近改正 平成 26 年 3 月 27 日規則第 50 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、学位規則(昭和 28 年文部省令第 9 号)第 13 条、横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 5 条第 2 項及び横浜国立大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 19 条第 2 項の規定に基づき、横浜国立大学(以下「本学」という。)が授与する学位に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位及び専攻分野の名称)

第 2 条 本学において授与する学位は、学士、修士、博士及び専門職学位とする。

2 本学において授与する学士、修士及び博士の学位には、次の各号の区分による専攻分野の名称を付記するものとする。

(1) 学士の学位

教育人間科学部

(学校教育課程) 教育

(人間文化課程) 教養

経済学部 経済学

経営学部 経営学

理工学部 理学又は工学

(2) 修士の学位

教育学研究科 教育学

国際社会科学府 経済学、経営学、法学、国際経済法学又は学術

工学府 工学又は学術

環境情報学府 環境学、工学、情報学、技術経営又は学術

都市イノベーション学府 工学又は学術

(3) 博士の学位

国際社会科学府 経済学、経営学、法学、国際経済法学又は学術

工学府 工学又は学術

環境情報学府 環境学、工学、情報学、技術経営又は学術

都市イノベーション学府 工学又は学術

3 本学において授与する専門職学位の名称は、次のとおりとする。

国際社会科学府 法務博士(専門職)

(学士の学位授与の要件)

第 3 条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第 4 条 修士の学位は、本学大学院の修士課程又は博士課程前期 2 年の課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第 5 条 博士の学位は、本学大学院の博士課程後期 3 年の課程(以下「博士課程」という。)を修了した者に授与する。

2 前項に規定するもののほか、本学に博士論文を提出して当該学府の行う博士論文の審査に合格し、かつ、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認(以下「学力の確認」という。)された場合には、博士の学位を授与することができる。

(専門職学位授与の要件)

第6条 専門職学位は、本学大学院の法科大学院の課程（大学院学則第3条第4項に規定する専門職学位課程（法科大学院）をいう。以下同じ。）を修了した者に授与する。

（修士又は博士の学位の授与に係る学位論文の提出）

第7条 第4条又は第5条第1項に規定する者の学位論文（修士又は博士の学位の授与に係る論文をいう。大学院学則第18条第1項及び第2項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。）は、本学大学院の研究科又は学府（以下「研究科等」という。）が指定する時期までに当該研究科等の長に提出するものとする。

第8条 第5条第2項に規定する者が、博士の学位の授与を申請する場合は、学位申請書に学位論文、論文要旨、論文目録及び履歴書並びに論文審査手数料57,000円を添え、学位及び専攻分野の名称を指定し、当該学府の長を経て学長に提出するものとする。ただし、本学大学院の博士課程に所定の期間在学し、所定の単位を修得して退学した者が、退学したときから1年以内に論文を提出した場合には、論文審査手数料を免除することができる。

第9条 提出する学位論文は、主論文1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 学位論文を審査するため必要があるときは、参考資料を提出させることができる。

（審査の付託）

第10条 研究科等の長は、第7条の学位論文を受理したときは、教授会にその審査を付託しなければならない。

2 学長は、第8条の申請を受理したときは、当該教授会にその審査を付託しなければならない。

（学位論文及び論文審査手数料の不返還）

第11条 受理した学位論文及び論文審査手数料は、いかなる理由があっても返還しない。

（審査委員会）

第12条 教授会は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認を行うため審査委員会を設ける。

2 審査委員会は、学位論文を提出した当該学生の指導教員及び関連する授業科目の教授2人以上又は学位論文の内容に関連のある専門分野の教授3人以上をもって構成する。ただし、教授会が必要であると認めたときは、関連する授業科目の教授2人以上のうち、1人は准教授をもって充てることができる。

3 教授会が学位論文の審査のため必要があると認めたときは、前項に規定する者以外の教員を審査委員として加えることができる。

（学位論文の審査の協力）

第13条 学位の授与に係る学位論文の審査に当たっては、本学大学院の他の研究科等又は他大学の大学院若しくは研究所等の教員等の協力を得ることができる。

（審査期間）

第14条 第4条又は第5条第1項に規定する者の学位論文の審査及び最終試験は、学生の在学期間中に終了するものとする。

2 第5条第2項に規定する者の学位論文の審査及び学力の確認は、学位の授与の申請を受理した後、速やかに終了するものとする。

（学位論文発表会）

第14条の2 教授会は、博士論文の内容について公開で発表させるものとする。

2 学位論文発表会の実施に関しては別に定める。

（最終試験）

第15条 最終試験は、学位論文の審査が終わった後、学位論文を中心として、これに関連する科目について筆記又は口頭により行うものとする。

（学力の確認及び確認の特例）

第16条 学力の確認は、博士論文に関連のある専攻分野の科目及び外国語について、筆記又は口頭により行うものとする。

2 本学大学院の博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、学位の授与を申請したときは、当該学府で定める年限内に限り、学力の確認を免除することができる。

（審査委員会の報告）

第 17 条 審査委員会は、審査を終了したときは、直ちにその結果を教授会に別紙様式第 1 号により、報告しなければならない。

(博士論文研究基礎力に関する試験及び審査)

第 17 条の 2 大学院学則第 18 条第 3 項の規定に基づき、学位論文(第 7 条に規定する修士の学位の授与に係る論文に限る。)の審査及び最終試験に合格することに代えて、博士論文研究基礎力に関する試験及び審査を行う場合は、第 12 条から第 14 条第 1 項まで、第 15 条及び前条の規定を参酌して当該教授会が試験及び審査の実施体制及び実施方法等を定めて公表する。

2 前項に規定する博士論文研究基礎力に関する試験及び審査は、次に掲げるものとする。

(1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であつて当該博士課程前期 2 年の課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験

(2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であつて当該博士課程前期 2 年の課程において修得すべきものについての審査

(教授会の議決)

第 18 条 教授会は、第 17 条に規定する報告又は前条の規定により当該教授会が定めた報告に基づいて、学位の授与について議決するものとする。

2 前項に規定する議決を行う場合は、教授会構成員(海外渡航中の者及び休職中の者を除く。)の 3 分の 2 以上が出席し、かつ、出席者の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

(審査結果の報告)

第 19 条 研究科等の長は、教授会が前条第 1 項の議決(次項に規定する議決を除く。)をしたときは、学位論文の審査要旨及び最終試験の成績又は学力の確認の結果を速やかに学長に報告しなければならない。

2 第 17 条の 2 に規定する博士論文研究基礎力に関する試験及び審査に基づく議決をしたときは、当該試験及び審査の結果を速やかに学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第 20 条 学長は、学則第 58 条の規定により卒業の認定をした者に対し、学士の学位の授与を決定し、学位記を授与する。

2 学長は、前条に規定する報告に基づいて、修士又は博士の学位の授与を決定し、学位記を授与する。

3 学長は、別に定めるところにより、法科大学院の課程の修了の認定をした者に対し、専門職学位の授与を決定し、学位記を授与する。

(論文要旨等の公表)

第 21 条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から 3 月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

2 前項の公表は、別紙様式第 2 号により行うものとする。

(学位論文の公表)

第 22 条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1 年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文をインターネットの利用により公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既にインターネットの利用により公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、教授会の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合において、学府の長はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前項に規定する教授会の承認を受けたやむを得ない事由が消滅した者は、当該やむを得ない事由が消滅した日から 1 年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文をインターネットの利用により公表するものとする。ただし、引き続き別のやむを得ない事由が発生した場合は、前項の規定を準用する。

4 前 2 項の規定によって公表する場合には、「横浜国立大学審査学位論文」又は「横浜国立大学審査学位論文要旨」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第 23 条 学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「横浜国立大学」と付記するものとする。

(学位の取消)

第 24 条 学長は、修士の学位、博士の学位又は専門職学位を授与された者が、次の各号の一に該当する場合には、教授会の議を経て、既に授与した当該学位を取消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

(1) 不正の方法により当該学位の授与を受けた事実が判明したとき。

(2) 当該学位を授与された者が名誉を汚辱する行為があったとき。

2 教授会が前項の規定により学位取消しの決定をする場合には、当該教授会の構成員(海外渡航中の者及び休職中の者を除く。)の 3 分の 2 以上が出席し、かつ、出席者の 4 分の 3 以上の同意を得なければならない。

(学位記等の様式)

第 25 条 学位記及び学位授与申請関係の様式は、別紙様式第 3 号から別紙様式第 9 号のとおりとする。

(雑則)

第 26 条 この規則に定めるもののほか、学位に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

3. 横浜国立大学大学院環境情報学府規則

平成16年4月1日規則 851 号

最近改正 平成 27 年 1 月 22 日規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 11 条及び第 12 条の規定に基づき、横浜国立大学大学院環境情報学府(以下「学府」という。)における各専攻の授業科目、単位数、履修方法等について定めるものとする。

(授業科目及び単位)

第 2 条 学府における各専攻の授業科目及び単位数は、学府教授会(以下「教授会」という。)の議を経て、横浜国立大学大学院環境情報学府長(以下「学府長」という。)が別に定める。

2 学府における授業科目の 1 単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 実習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 講義、演習又は実習のうち 2 以上の方法の併用により行う場合の単位数の計算方法については、大学院設置基準(昭和 49 年文部省令第 28 号)第 15 条の規定に基づき、当該授業の方法の組み合わせに応じ授業時間数から単位を算定する。

(指導教員等)

第 3 条 博士課程前期の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)を行うため、学生ごとに指導教員(責任指導教員及び指導教員各 1 人)を定める。

2 博士課程後期の授業及び研究指導を行うため、学生ごとに指導教員(責任指導教員 1 人及び指導教員 2 人)を定める

3 前項の指導教員は、指導委員会を組織する。

4 指導教員及び指導委員会に関し必要な事項については、教授会が別に定める。

(教育方法の特例)

第 4 条 教授会が教育上特別の必要があると認める場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(履修方法)

第 5 条 学生は、指導教員の指導により、別表に定める所定の単位以上を履修しなければならない。

(長期にわたる課程の履修)

第 5 条の 2 学生が、大学院学則第 14 条の規定により長期にわたる課程の履修を希望するときは、別に定めるところにより、学府長に願い出て、許可を受けなければならない。

(他の大学院等の授業科目の履修)

第 6 条 学生は、教授会の承認を得て、他の大学院(外国の大学院を含む。以下同じ。)及び本学大学院の他の研究科又は学府の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、10 単位を限度として課程修了の単位として認めることができる。

(休学期間中の外国の大学院における授業科目の履修)

第 6 条の 2 教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学生が休学期間中に外国の大学院において履修した授業科目について、学府における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、前条第 2 項の規定により修得した単位数と合わせて、10 単位を超えないものとする。

(他の大学院等の研究指導)

第 7 条 学生は、教授会の承認を得て、他の大学院又は研究所等(以下「他の大学院等」という。)において研究指導を

受けることができる。ただし、博士課程前期の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

- 2 前項の規定により、他の大学院等で受けた研究指導は、課程修了に必要な研究指導の一部として認めることができる。

(修了要件)

第8条 博士課程前期の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士課程前期の目的に応じ、当該課程の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者で、教授会が認め たものについては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第5条の2の規定により長期にわたる課程の履修を認められた者の博士課程前期の修了要件は、当該履修期間在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士課程前期の目的に応じ、当該課程の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。

- 3 博士課程後期の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者で、教授会が認めたものについては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 4 第1項ただし書きの規定に基づき、博士課程前期を修了した者(他の大学院の在学期間を含む。)の博士課程後期の修了要件は、前項ただし書中「1年以上」とあるのは「3年から当該課程における在学期間(2年を限度とする。)を減じた期間以上」と読み替えて適用する。

- 5 前2項の規定にかかわらず、第5条の2の規定により長期にわたる課程の履修を認められた者の博士課程後期の修了要件は、当該履修期間在学し、所定の単位以上を修得し、別に定めるところによるGPA(Grade Point Average)の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

- 6 他の大学院において標準修業年限1年以上2年未満とした修士課程、博士課程前期、又は専門職学位課程を修了した者の博士課程後期の修了要件は、第3項ただし書中「1年以上」とあるのは「3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間以上」と読み替えて適用する。

- 7 学位論文の審査については、横浜国立大学学位規則の定めるところによる。

(学位論文の提出時期)

第9条 学位論文は、学府が別に定める期間内に提出しなければならない。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、学府に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

X. その他・様式

- 学生教育研究災害傷害保険(賠償責任保険付帯)
 - ・ この保険は、教育研究活動中(通学中等含む)の不慮の災害事故保証並びに損害賠償に備えるため、学生が安心して学生生活を送れるよう学生の全員加入をお勧めします。
(詳細については、『学生便覧』に記載されていますのでご参照ください。)

転籍（改姓）届

年 月 日

学部・研究科・学府

学籍番号

氏 名

年 月 日生

私こと、このたび下記のとおり、転籍（改姓）いたしましたので、別紙戸籍謄本を添えてお届けいたします。

新	ローマ字																
	フリガナ																
本	改 姓																
	ローマ字																
籍	フリガナ																
	改 名																
旧 氏 名																	
変 更 日	平成			年			月			日							
(その他)																	

旧姓使用・旧姓併記届

年 月 日

学部・研究科・学府

学籍番号

届出者氏名 印

年 月 日生

学籍簿等に記載する氏名について、戸籍上の氏名ではなく、旧姓名または旧姓との併記（以下「旧姓名等」という。）で登録したいので、別紙証拠書類（戸籍抄本等※）を添えて、下記のとおり届出いたします。

なお、今後大学で使用する旧姓名等と、戸籍上の氏名との同一性の証明は、届出者自身が行うことを申し添えます。

（※改姓・改名届と同時に提出する場合は不要です。）

氏名の表記方法	旧姓名 ・ 旧姓併記																
使用する旧姓名等（旧姓併記を希望する場合は、氏名欄に「現姓（旧姓）名」と記入してください）																	
新	ローマ字																
	フリガナ																
	氏 名																
戸籍上の氏名																	
本	ローマ字																
	フリガナ																
	氏 名																
戸籍上の変更年月日				年			月			日							
改姓・改名届提出の有無		有（ 年 月 日提出） ・ 無															
(その他)																	

学生住所変更届

年 月 日

_____ 学部・研究科・学府

学籍番号 _____

氏 名 _____

このたび下記のとおり住所が変更になりましたのでお届けいたします。

※父母等連絡人の住所変更がある場合は、別様式で手続きしてください。

新住所									
〒	:	:	:	-	:	:	:	:	
住 所									
電話	() - -								
旧住所									
〒	:	:	:	-	:	:	:	:	
住 所									
電話	() - -								
変 更 日	年 月 日								
(その他)									

本籍変更届

年 月 日

_____ 学部・研究科・学府

学籍番号 _____

氏 名 _____

このたび下記のとおり本籍地が変更になりましたので、お届けいたします。

新本籍地	
都・道・府・県	
旧本籍地	
都・道・府・県	
変 更 日	年 月 日
(その他)	

博士課程前期履修計画書

平成 年 月 日

責任指導教員 殿

専攻 _____ コース等

下記のとおり、履修計画をたてましたので、許可して下さるようお願いいたします。

学籍番号 _____ 氏名 _____ 印

		平成 年度		
曜日	時限	春学期	秋学期	備考
月	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
火	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
水	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
木	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
金	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
単位合計				
講義科目		単位	講義科目	単位

平成 年度			
科目	授業科目名	単位	備考
共通 基礎 科目			
合計			
講義 科目			
合計			
演習 科目			
合計			
WS 実験 ※			
合計			
その他			
合計			

平成 年度			
科目	授業科目名	単位	備考
共通 基礎 科目			
合計			
講義 科目			
合計			
演習 科目			
合計			
WS 実験 ※			
合計			
その他			
合計			

※ WS・実験：ワークショップ・実験

博士課程後期履修計画書

平成 年 月 日

責任指導教員 殿

専攻 _____ コース等

下記のとおり、履修計画をたてましたので、許可して下さるようお願いいたします。

学籍番号 _____ 氏名 _____ 印

		平成 年度		
曜日	時限	春 学 期	秋 学 期	備 考
月	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
火	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
水	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
木	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
金	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
単位合計				
講義科目		単位	講義科目	単位

		平成 年度			
科目	授業科目名	単位	備考		
講義科目					
合計					
演習科目					
合計					
WS FW 実験 ※					
合計					
その他					
合計					

		平成 年度			
科目	授業科目名	単位	備考		
講義科目					
合計					
演習科目					
合計					
WS FW 実験 ※					
合計					
その他					
合計					

※ WS・FW・実験：ワークショップ・フィールドワーク・実験

X I . 教員連絡先一覧

1) 専任教員 (50音順)

教員名	研究室等	オフィスアワー (曜日・時間)	内線番号	E-mail アドレス
アトベ マヒト 跡部 真人	環境情報 1号棟 804 室	金曜日 17:00-18:00	4214	atobe@ynu.ac.jp
アメミヤ タカシ 雨宮 隆	総合研究棟 E603 室	木曜日 16:30-18:00	4353	amemiyat@ynu.ac.jp
アラマキ ケンジ 荒牧 賢治	環境情報 1号棟 503 室	木曜日 14:40-16:10	4300	aramakik@ynu.ac.jp
アリミツ ナオコ 有光 直子	環境情報 1号棟 914 室	事前に e-mail で 連絡して下さい	4397	arimitsu@ynu.ac.jp
アンドウ タカトシ 安藤 孝敏	教育人間科学部 第 3 研究棟 710 室	木曜日 5 限	3270	t-ando@ynu.ac.jp
イイジマ モトユキ 飯島 志行	環境情報 1号棟 413 室	----	3958	ijjima@ynu.ac.jp
イシカワ マサヒロ 石川 正弘	環境情報 4号棟 310 室	火曜日 12:00-13:30	3348	ishikawa@ynu.ac.jp
イトウ アキヒコ 伊藤 暁彦				
ウエノ セイヤ 上野 誠也	環境情報 1号棟 813 室	水曜日 12:30-15:30	4242	s-ueno@ynu.ac.jp
ウシコシ エリカ 牛越 恵理佳				
エンドウ アキラ 遠藤 聡	総合研究棟 S502 室	----	3791	a-endo@ynu.ac.jp
オイカワ ヒロキ 及川 敬貴	環境情報 4号棟 314 室	金曜日 3 限 (ただし、事前の メール連絡必要)	4333	hiroki@ynu.ac.jp
オオイシ アキラ 大石 彰	教育人間科学部 第 2 研究棟 602 室	火曜日 16:15-17:45	3376	ooishi-akira-hs@ynu.ac.jp
オオタニ ヒデオ 大谷 英雄	化工・安工棟 304 室	水曜日 4 - 5 限	3982	Ohtani-hideo-hc@ynu.ac.jp
オオタニ ヒロユキ 大谷 裕之	教育人間科学部 第 2 研究棟 408 室	火曜日 5 限	3364	otani-h@ynu.ac.jp
オオヤ マサル 大矢 勝	総合研究棟 S108 室	月曜日 10:30-12:00	3301	moya@ynu.ac.jp
オカ ヤスシ 岡 泰資	化工・安工棟 303 室	月曜日 10:30-12:00	3921	y-oka@ynu.ac.jp
オカジマ カツノリ 岡嶋 克典	総合研究棟 E404 室	水曜日 14:30-17:00	4432	okajima@ynu.ac.jp
オガタ シンイチ 尾形 信一	総合研究棟 S703-3 室	水曜日 13:00-14:30	4415	s-ogata@ynu.ac.jp
カサイ ナオヤ 笠井 尚哉	化工・安工棟 202 室	月曜日 10:00-16:00	3979	n-kasai@ynu.ac.jp
カネコ ノブヒロ 金子 信博	環境情報 3号棟 305 室	水曜日 14:40-16:00	----	kanekono@ynu.ac.jp
カメヤ タカシ 亀屋 隆志	総合研究棟 S407 室	火曜日 4 - 5 限	4002	kameya@ynu.ac.jp
キクチ トモヒコ 菊池 知彦	教育人間科学部 第 3 研究棟 511 室	水曜日 18:00-19:00	3413	t-kiku@ynu.ac.jp
クマサキ ミエコ 熊崎 美枝子	化工・安工棟 302 室	火曜日 15:00-17:00	3994	kumasaki@ynu.ac.jp

教 員 名	研 究 室 等	オフィスアワー (曜日・時間)	内線番号	E-mail アドレス
コイケ フミト 小池 文人	環境情報 4 号棟 304 室	金曜日 13:00-14:00	4356	koikef@ynu.ac.jp
ゴトウ トシユキ 後藤 敏行	環境情報 1 号棟 913 室	木曜日 15:00-17:00	4193	gotoh@ynu.ac.jp
コバヤシ タケン 小林 剛	総合研究棟 E406 室	木曜日 4~5 限	3775	koba@ynu.ac.jp
サカイ アキコ 酒井 暁子	環境情報 3 号棟 208 室	月~金曜日 13:00-18:00	4361	sakai-akiko-xw@ynu.ac.jp
ササキ タケヒロ 佐々木 雄大				
シカタ ジュンジ 四方 順司	総合研究棟 S202-2 室	水曜日 14:00-17:00	4340	shikata@ynu.ac.jp
シダ キヨシ 志田 基与師	総合研究棟 S507 室	火曜日 16:15-17:45	3426 (FAXあり)	shida@ynu.ac.jp
シブタニ タダヒロ 澁谷 忠弘	化工・安工棟 302 室	金曜日 10:30-12:00	3597	shibu@ynu.ac.jp
シモデ シンジ 下出 信次	教育人間科学部 第 3 研究棟 415 室/ 臨海環境センター (真鶴)	水曜日 16:15-17:45	3442	shimode@ynu.ac.jp
シュウサ ヨシカズ 周佐 喜和	総合研究棟 S506 室	木曜日 13:15-14:30	3760	y-shusa@ynu.ac.jp
シライシ トシヒコ 白石 俊彦	環境情報 1 号棟 213 室	金曜日 16:15-17:45	4092	shira@ynu.ac.jp
シラカワ シンイチ 白川 真一				
シラザキ ミノル 白崎 実	教育人間科学部 第 2 研究棟 216 室	木曜日 12:00-13:00	3298	shirazak@ynu.ac.jp
スズキ アツシ 鈴木 淳史	環境情報 1 号棟 512 室	火曜日 15:00-17:00	3846	asuzuki@ynu.ac.jp
タケダ ヨウコ 竹田 陽子	総合研究棟 S504 室	e-mail でアポを 取って下さい	3792	ytakeda@ynu.ac.jp
タタミ ジュンイチ 多々見 純一	環境情報 1 号棟 415 室	月曜日 10:30-12:00	3959	tatami@ynu.ac.jp
タナカ ヨシミ 田中 良巳	環境情報 1 号棟 504 室	予めメール等でコ ンタクトの上適宜	4307	ystanaka@ynu.ac.jp
タムラ ナオヨシ 田村 直良	総合研究棟 S601 室	木曜日 13:30-15:00	4161	tam@ynu.ac.jp
トミイ タカシ 富井 尚志	総合研究棟 S403 室	火曜日 14:30-17:00	4118	tommy@ynu.ac.jp
ナカイ サトシ 中井 里史	環境情報 4 号棟 206 室	木曜日 13:00-14:30	4364	snakai@ynu.ac.jp
ナガオ トモハル 長尾 智晴	総合研究棟 S401 室	水・木・金曜日 12:00-13:00	4131	nagao@ynu.ac.jp
ナカノ ケン 中野 健	環境情報 1 号棟 802 室	月曜日 10:00-12:00	----	nakano@ynu.ac.jp
ナカムラ タツオ 中村 達夫	総合研究棟 S704-3 室	火曜日 16:10-17:30	4416	t-nakamu@ynu.ac.jp
ナカモト アツヒロ 中本 敦浩	教育人間科学部 第 2 研究棟 301 室	月曜日 16:15-17:45	3384	nakamoto@ynu.ac.jp

教 員 名	研 究 室 等	オフィスアワー (曜日・時間)	内線番号	E-mail アドレス
ナカモリ タイゾウ 中森 泰三	環境情報 3 号棟 304 室	水・木曜日 12:00-13:00	4357	taizo@ynu.ac.jp
ナルミ ダイスケ 鳴海 大典	総合研究棟 S510 室	木曜日 10:00-17:00	3719	narumi@ynu.ac.jp
ニシムラ タカシ 西村 尚史	環境情報 1 号棟 701 室	木曜日 12:00-13:00 (要メール連絡)	3379	topology@ynu.ac.jp
ヌカタ ジュンジ 額田 順二	教育人間科学部 第 2 研究棟 614 室	月曜日 16:15-17:45	3386	----
ネガミ セイヤ 根上 生也	教育人間科学部 第 2 研究棟 613 室	木曜日 16:30-18:00	3373	negami@ynu.ac.jp
ノグチ カズヒコ 野口 和彦	環境情報 1 号棟 510 室	月曜日 9:00-12:00	4302	kaznoguchi@ynu.ac.jp
ノマ アツシ 野間 淳	教育人間科学部 第 2 研究棟 606 室	木曜日 16:15-17:45	3380	noma@ynu.ac.jp
ハセベ エイイチ 長谷部 英一	教育人間科学部 第 1 研究棟 212 室	水曜日 16:15-17:45	3344	hasebe@ynu.ac.jp
ハラシタ シュウシ 原下 秀士	環境情報 1 号棟 718 室	木曜日 13:00-15:00	4209	harasita@ynu.ac.jp
ヒグチ タケヒロ 樋口 丈浩	環境情報 1 号棟 814 室	水曜日 10:00-12:00	3697	higuchi@ynu.ac.jp
ヒラツカ カズユキ 平塚 和之	総合研究棟 S704-1 室	水曜日 13:00-14:30	----	hiratsk@ynu.ac.jp
ヒラノ ノリミチ 平野 載倫	----	----	----	----
フジイ トモヒロ 藤井 友比呂	総合研究棟 S104 室	金曜日 16:15-17:45 (要予約)	3282	fujii@ynu.ac.jp
フジエ コウイチ 藤江 幸一	総合研究棟 S407 室	月~木曜日 9:00-20:00 (要事前連絡)	4000	fujie@ynu.ac.jp
ホンダ キヨシ 本田 清	総合研究棟 E505 室	金曜日 10:30-12:00	3967	k-honda@ynu.ac.jp
ホンドウ ヒロキ 本藤 祐樹	総合研究棟 E304 室	火曜日 13:30-15:00	----	hondo@ynu.ac.jp
マジマ リュウイチ 間嶋 隆一	教育人間科学部 別棟 103 室	火曜日 15:00-16:30	3349	majima@ynu.ac.jp
マズナガ シゲキ 益永 茂樹	環境情報 4 号棟 204 室	木 13:00-14:30 (できるだけ事前に 電話かメールで予約)	4352	masunaga-shigeki- dh@ynu.ac.jp
マツイ カズミ 松井 和己	総合研究棟 S608 室	月曜日 16:30-18:00	4343	kzm@ynu.ac.jp
マツダ ヒロユキ 松田 裕之	環境情報 4 号棟 105 室	水曜日 13:00-14:30	4362	matsuda-hiroyuki- vj@ynu.ac.jp
マツミヤ マサヒコ 松宮 正彦	教育人間科学部 第 2 研究棟 207 室	木曜日 16:15-17:45	3464	mmatsumi@ynu.ac.jp
マツモト シンヤ 松本 真哉	教育人間科学部 第 2 研究棟 419 室	火曜日 16:30-18:00	3366	smatsu@ynu.ac.jp
マツモト ツトム 松本 勉	環境情報 1 号棟 703 室	月・木曜日 10:30-12:00	4133 4134	tsutomu@ynu.ac.jp
マーティン ロジャー マーティン ロジャー	総合研究棟 S501 室	金曜日 16:15-17:45	----	martin@ynu.ac.jp

教員名	研究室等	オフィスアワー (曜日・時間)	内線番号	E-mail アドレス
ミヤケ アツミ 三宅 淳巳	化工・安工棟 404 室	火曜日 15:00-18:00	3993	atsumi@ynu.ac.jp
ミヤザキ タカシ 宮崎 隆	教育人間科学部 第 1 研究棟 321 室	火曜日 16:15-17:45	3440	tamiyaza@ynu.ac.jp
ムライ モトヒロ 村井 基彦	環境情報 1 号棟 812 室	火曜日 12:00-13:00	4098	m-murai@ynu.ac.jp
モリ アキラ 森 章	環境情報 4 号棟 313 室	水曜日 13:00-17:00	4335	akkym@ynu.ac.jp
モリ タツノリ 森 辰則	総合研究棟 S603 室	木曜日 14:40-16:10	4132	mori@forest.eis.ynu.ac.jp
モリシタ シン 森下 信	環境情報 1 号棟 202 室	月～金曜日 16:30-17:30	4090	morishita-shin- xf@ynu.ac.jp
ヤスモト マサノリ 安本 雅典	総合研究棟 S508 室	火曜日 14:30-16:00 (要事前連絡)	3794	yasumo@ynu.ac.jp
ヤマダ タカヒロ 山田 貴博	総合研究棟 S605 室	木曜日 16:15-17:45	3864	tyamada@ynu.ac.jp
ヤマモト シンジ 山本 伸次	環境情報 4 号棟 305 室		4498	yamamoto-shinji- sp@ynu.ac.jp
ヨシオカ カツナリ 吉岡 克成	環境情報 1 号棟 910 室	水曜日 10:00-12:00	3690	yoshioka@ynu.ac.jp
ワニ リョウジ 和仁 良二	教育人間科学部 第 2 研究棟 107 室	火曜日 14:40-16:10	----	wani@ynu.ac.jp

※ オフィスアワーとは、教員が学業等の相談に応じるために、研究室等で待機している時間帯です。

※ 内線番号はダイヤルイン番号の下 4 桁と共通になっています。

0 4 5 (3 3 9) × × × × (ダイヤルイン番号)

2) 連携分野

	教 員 名	本 務 先 等	電話番号 (オフィスアワー)	E-mail アドレス
ク	クドウ ユウキ 工藤 祐揮	〒305-8569 茨城県つくば市小野川 16-1 国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門	029-861-8032	kudoh.yuki@aist.go.jp
	クラモチ ヒデトシ 倉持 秀敏	〒305-0035 茨城県つくば市小野川 16-2 (独) 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター	----	kuramochi.hidetoshi@nies.go.jp
コ	コダイラ シュウイチ 小平 秀一	〒236-0001 神奈川県横浜市金沢区昭和町 3173-25 (独) 海洋研究開発機構 地球内部変動研究センター	045-778-5438	kodaira@jamstec.go.jp
サ	サノ タケル 佐野 尊	〒105-8447 東京都港区虎ノ門 4-3-13 高压ガス保安協会	03-3436-6106	sano@khk.or.jp
タ	タケダ ヨシヒト 竹田 宜人	〒151-0066 東京都渋谷区西原 2-49-10 (独) 製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター	03-3481-1963	takeda-yoshihito@nite.go.jp
	タケハナ タツミ 竹花 立美	〒194-0035 東京都町田市忠生 2-16-4 高压ガス保安協会	042-789-7221	takehana@khk.or.jp
ヌ	ヌリヤ ムツオ 塗谷 睦生	〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35 慶應義塾大学医学部 薬理学教室	03-5363-3750	mnuriya@z2.keio.jp
ハ	ハギワラ イッペイ 萩原 一平	〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル 10 階 (株)NTT データ経営研究所	03-5213-4114	hagiwaraip01@keieiken.co.jp
	ハタヤマ ケン 畑山 健	〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-3 消防庁消防研究センター	0422-44-8331	----
ヨ	ヨシムラ テツヤ 吉村 哲哉	〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 (株)三菱総合研究所 科学・安全政策研究 産業イノベーション戦略 グループ	03-6705-6051	yoshim@mri.co.jp

3) 非常勤講師

	教 員 名	本 務 先 等	電 話 番 号	E-mail アドレス
イ	イシドウ マサミ 石堂 正美	〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2 独立行政法人国立環境研究所 環境リスク研究センター	029-850-2396	ishidou@nies.go.jp
	イトウ ヤスユキ 伊東 康之	〒101-8008 東京都千代田区神田駿河台 4-6 JAXA 東京事務所	-----	ito.yasuyuki@jaxa.jp
シ	シラサキ アキヒサ 白崎 彰久	〒108-0014 東京都港区芝 5-35-1 中央労働災害防止協会 マネジメントシステム審査センター	03-3452-6694	ashirasa@jisha.or.jp
ツ	ツボイ タカシ 坪井 貴司	〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科 生命環境科学系	-----	-----
ナ	ナツイサカ マコト 夏井坂 誠	〒305-0047 茨城県つくば市千現 2-1-1 宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部 門 衛生利用運用センター	050-3362-5604	natsuisaka.makoto@jaxa.jp
マ	マキノ ミツタク 牧野 光琢	〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 2-12-4 (独)水産総合研究センター中央水産研究所	-----	-----
ム	ムラカミ マサシ 村上 正志	〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学大学院理学研究科	043-290-3929	muramasa@faculty.chiba-u.jp

ⅩⅡ. 環境情報学府の学生相談関係教員

環境情報学府では、責任指導教員並びに指導教員以外に、学生相談関係教員がおりますので、相談してください。

専攻長名簿

専攻	氏名	内線	メールアドレス	研究室
環境生命学	間嶋 隆一	3349	majima@ynu.ac.jp	教育人間科学部別棟 103 室
環境システム学	山田 貴博	3864	tyamada@ynu.ac.jp	総合研究棟 S605 室
情報メディア環境学	長尾 智晴	4131	nagao@ynu.ac.jp	総合研究棟 S401 室
環境イノベーションマネジメント	本藤 祐樹	4365	hondo@ynu.ac.jp	総合研究棟 E304 室
環境リスクマネジメント	中井 里史	4364	snakai@ynu.ac.jp	環境情報 4 号棟 206 室

学務委員名簿

専攻・コース	氏名	内線	メールアドレス	研究室
環境生命学 (地球環境)	下出 信次	3442	shimode@ynu.ac.jp	教育人間科学部第 3 研究棟 415 室 / (真鶴) 臨海環境センター
環境生命学 (生命環境)	平塚 和之	4413	hiratsk@ynu.ac.jp	総合研究棟 S704-1 室
環境システム学 (マテリアルシステム)	飯島 志行	3958	iiijima@ynu.ac.jp	環境情報 1 号棟 413 室
環境システム学 (システムデザイン)	樋口 丈浩	3697	higuchi@ynu.ac.jp	環境情報 1 号棟 814 室
情報メディア環境学 (情報メディア学)	森 辰則	4132	mori@forest.eis.ynu.ac.jp	総合研究棟 S603 室
情報メディア環境学 (環境数理解析学)	西村 尚史	3379	topology@ynu.ac.jp	環境情報 1 号棟 701 室
環境イノベーションマネジメント	竹田 陽子	3792	ytakeda@ynu.ac.jp	総合研究棟 S504 室
環境リスクマネジメント (生命環境マネジメント)	小池 文人	4356	koikef@ynu.ac.jp	環境情報 4 号棟 304 室
環境リスクマネジメント (セイフティマネジメント)	小林 剛	3775	koba@ynu.ac.jp	総合研究棟 E407 室

就職担当教員名簿

専攻・コース	氏名	内線	メールアドレス	研究室
環境生命学	松本 真哉	3366	smatsu@ynu.ac.jp	教育人間科学部 第 2 研究棟 419 室
環境システム学	多々見 純一	3959	tatami@ynu.ac.jp	環境情報 1 号棟 415 室
情報メディア環境学	田村 直良	4161	tam@ynu.ac.jp	総合研究棟 S601 室
環境イノベーションマネジメント	志田 基与師	3426	shida@ynu.ac.jp	総合研究棟 S507 室
環境リスクマネジメント	熊崎 美枝子	3994	kumasaki@ynu.ac.jp	化工・安工棟 403 室

